

市立函館博物館

研究紀要

第 14 号



2004

市立函館博物館

研究紀要

第 14 号

2004

序

このたび『市立函館博物館研究紀要』第14号を刊行するはこびとなりました。本号は、元北海道立函館水産試験場長で海藻研究家の川嶋昭二氏による「森武寅雄と3人の海藻学者」「函館湾の海藻」はどのようにして誕生したか」、函館市教育委員会文化財課主査田原良信氏による「再考 志海苔古銭と志苔館」、そして市立函館博物館友の会による「市立函館博物館新聞記事－友の会の資料調査活動から－」の3題を掲載いたしました。

当市は、海に囲まれていることから水産業や海上輸送など海とともにその歴史を刻んできました。そのような要因からか当館所蔵の貝や海藻類の標本はいわゆる「函館コレクション」として重要な位置を占めています。さらに、平成15年に国の重要文化財に指定された、「志海苔古銭」は日本最大を誇るものとなっています。

このたび川嶋昭二氏ご寄稿の「森武寅雄と3人の海藻学者」は、海藻研究の成果としての標本は貴重な資料ではありますが、研究者としての森武寅雄氏の人間像に焦点をあてた貴重な人物史として今後多くの方々に活用されるものと思います。

また、田原良信氏からご寄稿いただいた「再考 志海苔古銭と志苔館」につきましては、志苔館跡の発掘された資料などを基に、豊富な経験、そして多大な研究を重ねながら、「志海苔古銭」の謎を解き明かそうとしており、今後の歴史解明に向けての考察として大いに期待されるものと考えております。

次に、市立函館博物館友の会からの「市立函館博物館新聞記事－友の会の資料調査活動から－」は、博物館の歴史について、新聞記事による貴重な博物館の状況や周辺環境など詳細に調査され、貴重な歴史資料であると考えており、有効な活用がなされるものと思います。

結びになりますが、関係各位におかれましては、今後ともご意見等を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年3月31日

市立函館博物館長
佐野 幸治

目 次

序

森武寅雄と3人の海藻学者

「函館湾の海藻」はどのようにして誕生したか

川嶋 昭二 …………… 1

再考 志海苔古銭と志苔館

田原 良信 …………… 9

市立函館博物館新聞記事目録

—友の会の資料調査活動から—

市立函館博物館友の会 ……… 21

森武寅雄と3人の海藻学者

「函館湾の海藻」はどのようにして誕生したか

川 嶋 昭 二

ここに紹介する森武寅雄著「函館湾の海藻」は昭和24年(1949)3月に市立函館図書館から同館叢書第十二編として発行された書で、著者が昭和9年(1934)からほとんど15年にわたって函館の海藻を研究した結果をとりまとめたものである。現在、市立函館博物館には本書とともに、著者の研究について貴重な指導助言を与えた我が国が世界に誇る3人の海藻学者からの書簡と乾燥標本が保存されている。ここでは著者がどのような動機と背景の下で、またどのような手段で函館の海藻を研究したのかについて考察する。

1. 函館の海藻研究小史

函館は本州と北海道を隔てる津軽海峡北岸に位置し、海峡の東口から流入する親潮寒流の分流と、西口から対馬暖流の分流となって流入する津軽暖流が交叉する場所として海洋学や海洋生物学の立場から注目されてきた。

海辺で見ることのできるコンブやワカメをはじめ色とりどりの海藻の種類やその分布は基本的には海流の流れの方向とその水温に支配されると言われる。函館沿岸一帯に生育する海藻も津軽海峡の東西から入り込んだ水温の異なる2つの海流によってもたらされたものであって、豊富な寒流系と暖流系の海藻が見られるのはそのためである。

このような函館の海藻の本格的研究は安政元年(1854)の米国ペリー艦隊およびその翌年のロジャース探検隊の来航時に、隊員によ

って函館山周辺で採集された海藻をアイルランドのダブリン大学ハーバー教授が研究し、合計25種(内新種20種)を発表したことに始まる。そのときの標本の一部13点が平成7年(1995)に140年ぶりで米国ハーバード大学から函館に里帰りし、市立函館博物館で展示公開されている。

さらに明治12年(1879)にスウェーデン探検船ベガ号に乗り組んだウプサラ大学のシェルマン教授と採集者ペテルセンが北極圏回りの困難をきわめた航海の末に来日し、函館のアオサなど緑藻類8種(内新種5種)とチガイソ(新種)、ミツイシコンブ(新種)、マコンブを研究し、採集地としてHakodate、Jamasedomari(山背泊)、Shirisavabe(尻沢部)の名前を記録している(ただし、ミツイシコンブとマコンブは乾物であった)。

明治後期から大正期にかけて函館生れの鬼才と言われた海藻学者遠藤吉三郎博士が日本各地の海藻を研究して200種を越える日本新産種と新種を発表し続けた。その中に函館産海藻としてエゾヤハズ、アカバ、コスジフシツナギ、ショウジョウケノリ、アカバギンナンソウ、ベニスナゴ、イギスなど今日でもよく知られた種など30種近い海藻がある。

このような内外の先人による研究に対して、地元函館の人の手になる報告には昭和15年(1940)7月、当時の北海道庁立函館中学校(現北海道函館中部高校)博物研究会雑誌「胴乱」付録として発表された柳田十九男著

「函館近傍産海藻目録」がある。それには73種（緑藻類6種、褐藻類21種、紅藻類46種）の海藻の目録と各科ごとに属および種の検索表があって同定の便を計っている。掲載されている種類は多いとは言えないが、全国的に見ても専門家以外の個人による地域の海藻目録がほとんどなかったこの時代としては珍しい試みであったと思われる。

2. なぜ海藻か、著者森武寅雄の横顔

著者森武寅雄（写真1）は小、中学校教師として生涯の大半を函館の青少年子女の教育に捧げた教育者であり、決して職業としての海藻研究者、または海藻学者ではない。しかしそれかといって単なる趣味で函館の海藻を研究したとは考えられないほどの成果を残している。

森武寅雄は明治38年(1905)4月21日、上川郡剣淵村（現剣淵町）の生れで、少年時代から苦学力行の人であったと言う。長じて旭川師範学校（現北海道教育大学旭川校）に学んで教師の道に入り、有珠郡伊達町（現伊達市）の小学校を経て昭和7年ころ函館に移り住み、戦時中は高盛小学校、的場小学校（当時は国民学校）、戦後は的場中学校、旭中学校などに勤務し、特に昭和33年(1958)以後は光成中学校、松川中学校および潮見中学校の校長を歴任して昭和42年(1967)に退職した。昭和63年(1988)5月25日、84才の高齢で没したが、函館には森武先生を記憶している教え子が多いはずである。しかし、このような経歴の森武がなぜ、どんな動機で海藻に興味を持ち、学校教育の合間に採集と研究に情熱を傾けるようになったのか、その胸のうちを知るすべはなく、これが「函館湾の海藻」の最大の謎である。

一般的な推測に過ぎないが、ご遺族による

と森武は生物学（植物）が得意で、そのうえ気に入ったものを収集する癖があったというから、その点では海藻採集の下地は十分揃っている。あるいは師範学校時代の臨海実習で海藻標本作りをしたのが動機かもしれないが、普通であれば陸上の花の咲く草木に興味を持つ人が多い中で、特に選んで海中の目立たない、馴染の薄い海藻に引かれたのにはよほどしっかりした理由があったはずである。しかし、彼がそのような動機や心情について何かに書き残したり、話したということのご遺族の方も記憶されていないようである。

多くの海藻研究者（私自身も含めて）がそうであるように、初めから目的があって海藻を学問として学ぶ人はむしろ稀であって、海で拾った海藻が意外にきれいだったとか、作った押し葉標本が面白い形をしていたとか、動機は単純であることのほうが普通である。森武も案外そうであったとしても、しかしそう割り切るだけでは彼自身の本当の心の中を知ることにはならない。たとえ好奇心から出発したとしても、それを成し遂げる情熱にまで高揚させた森武の心意気は謎と言うよりもむしろ魅力的でさえある。

3. 森武の海藻研究を支えた3人の世界的海藻学者

「函館湾の海藻」に述べられた森武の序文によると、彼が主に海藻採集を行ったのは昭和9年(1934)から16年(1941)までの7年間で、その採集範囲は函館山を中心として上磯町の葛登支岬から汐泊川口までの各沿岸であった。この期間は森武が29才から36才という生涯で体力、気力ともに最も充実した時代にあたる。ちなみに、本書が出版された昭和24年(1949)3月は的場中学校に勤務していたときである。

ところで、このようにして海藻を採集し、乾燥標本を作ることは物集めが好きな彼にはそれほど難しくなくても、それらを精査して種を同定するのは容易な技ではなかったはずである。森武は採集した海藻142種を報告しているが、磯採集が普通な当時としては北海道の一地域から得られる種数として決して少ない数ではない。しかし、当時の森武には海藻分類学の基礎的知識や種を同定する素養、経験はほとんどなかったはずである。そのような中で彼はどのようにして海藻についての知識を学んだのであろうか。

実は、このことについては市立函館博物館に保存された3人の世界的な海藻学者から森武にあてた書簡から、かなり具体的に知ることができる。それは宮部金吾博士（北海道大学農学部）からの4通、岡村金太郎博士（農林省水産講習所、現東京海洋大学）からの2通、および山田幸男博士（北海道大学理学部）からの9通、合計15通の書簡である。

これらの海藻学者からの書簡の内容は専門的な記述が多く、また日付が月日だけで何年か記入のないものが6通あるためにここでは詳細は述べないが、まず森武も本書の序文に種の決定はほとんど山田博士の鑑定によるが、一部には岡村博士にお願いしたものもあると述べているように、両博士は森武が送った乾燥標本を1枚ずつ点検してその和名や学名のほかに分類上の初歩的な質問に対しても懇切に指導していることが読み取れる。ここで特に注目すべきことは岡村博士の2通の書簡の内、1通は昭和10年(1935)3月(日付不明)の発送であるが、他の1通も内容からその続きと見られ、あまり日を置かずに送られたものようである。実は、岡村博士はこの年の8月21日に胃癌のために亡くなるのであるが、すでに3月には博士自身が体調の違和

に気付いていたといわれるので、森武への返事はそのような中でしたためられていたことになる。また、この時博士は畢生の名著「日本海藻誌」の校正に取り組んでいた時期で、森武に対しても「今、日本海藻誌を校正中ナリ今年一杯遅クモ来年ニハ出ルナラン夫^{それ}が出来レバ此等ノ質問ニハ答ヘズトモ其本カラ判明スベシ(原文のまま)」(写真2)と伝えたまま亡くなられたのである。翌年「日本海藻誌」は後を引き継いだ第一の高弟山田博士により上梓され、その後海藻研究を志す者の座右の書となった。日本の海藻学の父、岡村博士との森武の直接の交流は恐らく1年にも満たなかったと思われるが、博士の亡き後もこの名著を通して多くを学んだことは森武にとってこの上ない幸いであったと言ふべきである。

山田博士との交流は書簡の内容から見ると戦時中の昭和17年(1942)頃に始まり、その後戦争の激化に伴う戦争末期の一時中断を経て戦後は昭和24年(1949)1月頃まで続いたと推定される。このようにして山田博士からの書簡を見ると、戦後いち早く函館湾の海藻の研究再開に本格的に取り組み始めた森武は標本に自らの意見を付して指導を乞うとか、必要に応じて乾燥標本だけでなく液漬標本まで送り、またさらにいろいろな種の特徴や入手が難しい文献についても問い合わせるなど研究の初期の頃よりも積極的に取り組んだ様子が見られる。このような森武に対して山田博士もまた誠意を持って応え、時には疑わしい種については異なる時期の標本の採集を依頼したり、外国の文献も自ら読み返して必要な内容を伝えるなどして森武の研究に多くの援助を惜しまなかった。

宮部博士は北海道や樺太(サハリン)、千島などの顕花植物の分類学者として知られるが、菌類や藻類など隠花植物にも造詣が深く、

北海道のコンブ類の分類を初めて集大成した
ことでも有名である。森武は昭和23年(1948)
2月に直接北海道大学に宮部博士を訪ね、日
本の海藻研究史をまとめるために必要な内外
の海藻学者の研究成果について懇切な指導を
受けている。その数日後と思われる2月18日
付けの宮部博士の書簡には、前述したウプサ
ラ大学シェルマン教授と採集を担当したペテ
ルセンが函館から報告したチガイソ(写真3)
と、マコンブ(写真4)およびミツイシコン
ブについて「私の所持して居る同氏の論文を
調べて見候処、(中略)悉く瑞典語で書いて
有り候に付了解頗ぶる困難にて其要処々々を
辞引をひきつゝ読み候処(原文のまま)」(写
真5)これらはシェルマンが採集したもので
なく、ペテルセンが函館に来てチガイソを採
集し、マコンブとミツイシコンブは市場で乾
燥品を手に入れたものと察せられると詳しく
書き綴られている。宮部博士ほどの大学者の
自らに厳しく、教えを乞う者に誠実に応える
優しい心を森武はどんな思いで受け取ったで
あろうか。

宮部博士から送られたもう1通の同年3月
3日付けの葉書(写真6)があり、それには
函館出身の海藻学者遠藤吉三郎博士の論文
"The distribution of marine algae in
Japan"(日本の海藻の分布)が1901年の米国
ミネソタ大学臨海実験所年報Postelsia(ポ
ステルシア)に出ていること、およびその年
報が農学部図書室にあることなどが告げられ
ている。しかし、森武がこの論文についてだ
れから聞き、その所在を宮部博士に尋ねたの
かは不明である。いずれにしろ森武は遠藤博
士が津軽海峡の海藻相が日本全体の海藻分布
の中でどのような特徴を持つと考えていたの
か知りたかったのであろう。ただし、このこ
とについて博士からの返事には「津軽海峡の

海藻分布に就いては別に詳細に論じられては
ありません」とあり、森武もまた報告の中で
遠藤の論文を軽く紹介しているだけである。

森武の著「函館湾の海藻」が世に出たのは
森武自身の真摯、かつ旺盛な研究心によるも
のであることは言うまでもない。しかし、さ
らにここに紹介したような3人の世界的海藻
学者の指導と援護がなかったならば森武の志
の達成はきわめて困難ではなかったろうか。
今から50年以上も前を振り返れば、当時の我
が国の海藻研究はようやく軌道に乗り急速に
発展し始めた時代でもあった。その指導的立
場にあった3人の先達は大学という象牙の塔
にありながら、森武のような地方に住む篤学
の士の地道な努力と情熱に対しても広い度量
を持って受け入れることの大切さをよく知っ
ておられたのであろう。

4. 「函館湾の海藻」概要

「函館湾の海藻」(写真7)は目次、序文
各4頁、本文78頁および索引(和名、学名、
参考図書)18頁からなり、その本文はさら
に次の4つの内容に分かれている。

(1) 函館近傍水域産海藻目録

著者自身が函館湾沿岸で採集した海藻142
種の学名、和名、および採集場所が分類順に
取りまとめられている。その内訳は緑藻類5
科14種、褐藻類9科37種、紅藻類23科92種
である。函館市内の磯で採集できる種類はほと
んど含まれるが、現在は学名の変更されてい
るものが多く注意する必要がある。

(2) 函館海藻研究史

我が国の海藻研究の発祥地の一つとして、
函館における研究について以下の著名な文献
を掲げ、その中に発表された函館産海藻を示
している。内容は専門的であるが函館の海藻
研究の歴史を知るうえの好個の資料である。

ここには著者、文献のみ示す。

Harvey, W. H. 1856. Algae in Gray's list of plants collected in Japan.

Harvey, W. H. 1859. Characters of new algae.

Kjellman, F. R. 1897. Marine Chlorophyceae from Japan.

Kjellman, F. R. och Petersen, J. V. 1885. On Japans Laminariaceae.

Yendo, K. 1909-1918. Notes on algae new to Japan I - IX.

Yendo, K. 1920. Novae algae Japaniae Decas I - III.

Yendo, K. 1907. The Fucaceae of Japan.

なお、遠藤が新種としたウガノモク、コスジフシツナギ、マキイトグサの学名（種小名）には函館の地名 *hakodatense* または *hakodatensis* が用いられている。

(3) 津軽海峡の海藻分布区系考

津軽海峡の東西から流入する海流と海藻の分布から見た海峡内の分布区系を考察している。既往の文献に見られる海峡内の代表的な寒流系または暖流系海藻の分布について森武は動物学上のブラキストン線のように海峡内のどこかに海藻分布上のラインを想定してもよいのではと考え、「海峡東西の海藻にそれぞれの特性があり、両海流の影響によると云われる南側北側（註：青森側、北海道側の意）の海藻亦各特性を持っていること自体津軽海峡分布区系上の特質を表わしているもの」（67頁、写真7）と結論付けている。森武の15年間の研究の集大成である。

(4) 津軽海峡の海況

北海道水産試験場事業旬報による津軽海峡福島、恵山の月別平均水温（昭和13年）、函館海洋気象台による函館の月別水温（平均、最高、最低、昭和18-22年平均）や、沖合の

水温、海水比重分布、海流、流速など一般的な海況の説明と図版が載っている。

5. 森武寅雄の思い出

私は生前の森武寅雄にお目にかかったことはない。それにもかかわらずその人物と著書「函館湾の海藻」に忘れることのできない思い出がある。

私は昭和26年(1951)4月から33年(1958)6月まで北海道大学理学部の山田幸男教授の下で海藻分類学を学び、その後北海道庁水産部に勤務してからも上司の特別の計らいで36年(1961)まで、合計10年間を一貫して本州東北地方沿岸の海藻相の研究に従事した。その研究テーマは東北地方と北海道の太平洋および日本海の海藻が津軽海峡にどのように入り込んでいるかを探り、それにより津軽海峡が北日本の東西両岸の海藻の交流、分布にどのような仲介的役割を演じているかを明らかにすることであった。私はただひたすら海峡を中心に岩手、青森両県下各地で海藻を採集し、山田教授の厳格な指導の下にそれらの研究に明け暮れたが、考えてみると私に与えられたテーマはそのときすでに公表されていた森武の「函館湾の海藻」と対をなすものであり、両者を合わせて初めて津軽海峡の海藻分布の実態と意義をより詳しく明らかにできるはずである。恐らく森武を指導した山田教授もそのことを念頭に置かれたことは間違いない。しかし、私が北大在学中に山田教授から特別に森武の研究の話聞いた記憶もなく、また私自身の研究を森武の研究と関係付けて考えるようになったのは自分の研究結果を論文にまとめる段階になってからのことであった。それには次のような忘れられないいきさつがあったのである。

昭和36年(1961)に入って、私は山田教授か

らそれまでの研究結果を10月15日の学位論文提出期限までに論文にまとめて提出するように指示を受けた。それまで、すでに東北地方北部から合計202種の海藻を記載し、図版も完成していたので、それらの分布状況を詳しく分析した結果、津軽海峡中央部の下北半島大間崎から西側は対馬暖流の影響が強く暖流系海藻の分布度がきわめて高い海域、東側は親潮寒流と対馬暖流の影響で寒流系、暖流系の種がほぼ同数分布する海域に分け、また大間崎沖の大間弁天島を寒流系、暖流系の貴重な種が豊富なところで、東西分布域を分ける境界点とすることを提案した。

このような考察と結論をまとめた英文原稿の下書きを論文提出期限も2カ月を切った8月末になって山田教授に下読みして頂いたところ、教授から遠藤吉三郎博士の日本沿岸の海藻分布についての論文がPostelsiaというミネソタ大学の年報に載っているはずだが、そこに津軽海峡についてどんな見解を述べているか確認する必要がある。それをぜひ探し出して読んだうえでなければ論文提出はまかりならぬ、と厳命を受けた。日本の海藻分布についての岡村金太郎博士の論文(1926)は有名であるが、これは全くの初耳であった。とにかく山田教授の指示で私はすぐ東京水産大学の岩本康三先生に依頼し、もっとも確かと考える東京大学図書館を調べてもらった。ところが9月5日付けの速達便で東京大学図書館には確かにその本のカードはあるが現物は探しても見付からないという返事が届いた。万事休す！東大になれば日本にはどこにもないとすっかり気落ちして机の前に坐り込んだ私は何気なく机上の森武著「函館湾の海藻」を読むともなく眺めていたが、突然「あーっ!!」と大声を上げて躍り上がってしまった。そこ(67頁)には今探している遠藤

博士の論文が掲載されたPostelsia誌を紹介する記事があるではないか。文字どおり欣喜雀躍した私は早速森武に理由と年報の所在を尋ねる手紙を書き送ったところ、折返し「Postelsia誌は雑誌の体裁でなく単行本の形を持っていました。Postelsiaを御覧下さい。同誌は宮部金吾先生の(北海道大学内の)研究室の文庫の中にありました。宮部先生の案内を受けて研究室で一時間半程見せてもらったのです。」と書かれた9月8日消印の速達便が届いた。正に「燈台下暗し」であった。封筒の裏に印された函館市立松川中学校長森武寅雄という人物が私にとってその時ほど光り輝いて感じられたことはなかった。ともあれ、私の学位論文のIntroductionはYendoの"The distribution of marine algae in Japan"に関する記述から始まることのできたのである。

「函館湾の海藻」の印刷部数は不明であるが、函館市内や交流のある他都市の学校や博物館、図書館などの公共施設に寄贈されたもののほかは個人で所蔵する人はよほどの物好きか、函館地方の海藻に特別の興味を持つ専門家くらいのものであって、それも多分きわめて少数に限られるのではないだろうか。とにかく、現存する本書を見ると、先の大戦後の物資不足時代のすべての出版物同様に、ザラ紙のような粗悪な紙を使用し、印刷も序文が活版刷りだけで本文などはすべて手書きの謄写刷りである。そのうえ既に紙質の劣化が進んで破れやすいなど慎重な取り扱いが必要なほど傷みが進んでいる。このように今では一般市民はもちろん海藻の研究者にもほとんど知られていないほどの稀書となってしまった本書であるが、その裏面にはここに紹介したような著者森武とそれを支えた3人の海藻

学者との真摯かつ暖かい交流という隠された事実があり、本書の真の価値もまたそこにあると言いたい。本書が出版されてから既に半世紀を過ぎ、その間の知識は森武の成果を大きく越えるまで進展したが、それにもかかわらず函館地方の海藻についてこれ以上にまとめられた新たな報告書や解説書はないと言っても過言ではない。

最後に披露した私と森武との不思議な縁は、市立函館博物館所蔵の昭和23年(1948)3月3日付けの宮部博士の葉書(写真6)が取り持つ絆によって結ばれたものであったことを私

は今になって知ったのである。私が森武寅雄の海藻研究にまつわる人物像と業績の一端を私なりの思いを込めて書き残したいと切に希うに至った最大の誘因もこの一枚の葉書との出会いにあったからにはほかならない。

この一文の発表をお許し下さった市立函館博物館佐野幸治館長に心から御礼申し上げます。また、種々ご助言、ご教示を頂いた同館佐藤理夫学芸員とご遺族の森武昌樹氏に感謝の意を表する。

(元北海道立函館水産試験場長・海藻研究家)



写真1 森武寅雄氏(昭和40年度「しおみ」より) 函館市立潮見中学校提供

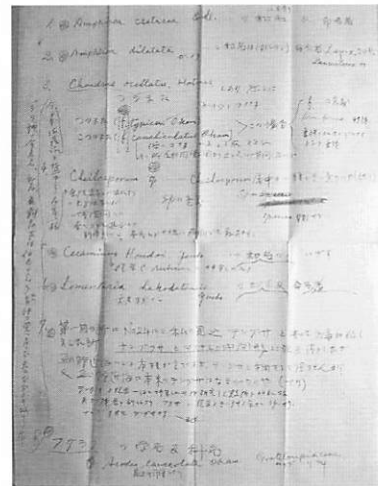


写真2 岡村金太郎博士から森武氏への書簡



写真3 チガイソ



写真4 マコンブ

再考 志海苔古銭と志苔館

田原良信

はじめに

平成15年5月29日、総数37万枚を超える埋蔵銭の志海苔古銭が、国の重要文化財「北海道志海苔中世遺構出土銭」として指定を受けた。指定の理由としては、「鑄造年代が約1500年以上にわたる銅銭で構成され、使用されていた在り方が、中世前期の貨幣経済を考える上で貴重である」とのことであり、また全国各地から発見される一括の出土銭としては最多のものとなっている。

これらの志海苔古銭（出土銭）は、その内容も非常に豊富なものがあることから、北海道の中世の様子を伝える貴重な資料であるとの評価を受けていた。しかしながら、出土銭が埋蔵されていた理由、埋蔵の年代、さらには誰が埋設したのかなどを裏付ける文献記録に乏しく、完全に解明されるまでには至っていない。ただ、発見場所に隣接する後背地には、中世の和人豪族の館である志苔館跡が存在することから、これまでも何らかの関連があるように考えられていた。発見以来35年を経過した現在においても、特に出土銭に対する新たな証拠や事実が判明した訳ではないが、志苔館跡の発掘調査の結果から、ある程度の繋がりが見い出せる状況となった。これを機会として、改めて出土銭と館の関連性について考えてみることにしたい。

出土銭発見の経緯

函館市は、北海道南端の津軽海峡に面した天然の良港に恵まれた港町で、古くは縄文時

代などから本州方面との間において、日本海航路を利用した活発な交易が行われていたところである。これを裏付けるように、海岸線に面する一帯には、各時代の遺跡や遺構が数多く所在している。

昭和43年7月、函館市中心部から海岸線沿いに約9km東方にある、志海苔町の漁港付近で国道（当時は道道）の拡幅工事が行われた際、志海苔川の河口付近で汀線から約40m内陸、標高約3mの場所において、3口の大甕に詰められた膨大な量の古銭が地中から発見された。この発見に伴い、一括で市立函館博物館に運び込まれ計量を行った結果、大量の古銭および3口の大甕を合わせた総重量は約1.6トンに及ぶものであった。この後、出土銭の脱塩・防錆処理と分類整理、大甕の復元等が4年がかりで行われ、出土銭の内容が明らかとなった。

出土銭の内容

出土銭の総数は374,435枚であり、銭種名が判読可能で同一銭貨名のものが93種存在することが確認された。これらの出土銭の大半は渡来銭であり、中国銭では前漢、新、後漢、隋、唐、前蜀、南唐、後周、北宋、南宋、元、明、さらに周辺の高麗、遼、金、安南、西夏のもので構成されている。

それぞれの構成枚数は一定でなくバラツキがあるが、その中でも鑄造年代が960年から1119年の北宋銭が最多であり、34種類で合計318,148枚と全体の約85%を占めている。

特に、同一の錢種名で1万枚を超えるものは、北宋錢では8種類で、枚数順に皇宋通宝(1039年初鑄)47,031枚、元豊通宝(1078年初鑄)43,009枚、熙寧元宝(1068年初鑄)34,897枚、元祐通宝(1086年初鑄)33,904枚、天聖元宝(1023年初鑄)17,924枚、政和通宝(1111年初鑄)15,206枚、紹聖元宝(1094年初鑄)14,917枚、聖宋元宝(1101年初鑄)14,333枚となっている。また、北宋錢以外に1万枚を超えるのは唐錢の開元通宝(621・966年初鑄)の1種30,816枚のみであった。

この一方、大量の渡来錢に対して、日本の飛鳥から平安期に鑄造され流通していた皇朝錢は、和同開珎(708年初鑄)、万年通宝(760年初鑄)、神功開宝(765年初鑄)、隆平永宝(796年初鑄)、富寿神宝(818年初鑄)、承和昌宝(835年初鑄)、貞觀永宝(870年初鑄)、延喜通宝(907年初鑄)の8種類で合計15枚が確認されたのに止まる。

鑄造年代が最も古い錢種は、前漢代の四銖半兩(前175年初鑄)の7枚がある。これに対して、最も新しい錢種は、明代初期の洪武通宝(1368年初鑄)12枚であり、およそ1,500年間にわたり鑄造された錢により全体が構成されていることになる。

また、錢種名が鏽・磨滅・割れなどにより判読できず、錢名を削り取ったもの、さらには薄く円板状にした無名錢を含む錢名が不詳のものが12,901枚に及んでいる。

このような出土錢の多くは精錢とみられるが、島錢とされる私鑄錢、厭勝錢(絵錢)、さらには縁の加工や小穴をあけたものなどのような鏹錢も少量ながら含まれている。

なお、出土錢の大半は径2~2.5cm、重さ2~5グラムとほぼ一定する範囲内に収まるものであり、大幅に大きさや重量が異なるものはごく僅かな状態となっている。

出土錢の発見時は、すでにその多くがバラ錢の状態となっていたが、その中に一定の枚数を麻紐の撚ったもので繫げた「一緡」^{ひとさし}の原形を保っていたものが41点残存していた。これらの中で、繫げた枚数が最多のものは91枚で、最少は19枚とそれぞれ枚数にバラツキがあり一定はしていないが、一端は紐で結んでいたがもう一端がごとく切れていたためとみられる。一般的には一緡を100枚程度の連錢として流通していたとみられるが、埋設段階で腐食等により外れた結果、少なくなった可能性が考えられる。

出土錢収納の大甕

大量の出土錢が詰められていた3口の大甕は、地表から約50cmの深さの時点で発見されたが、ともに海岸付近の河川敷の砂層中に径80~100cm、深さ120~150cmほどの穴が掘られ、その中に、こぶし大の礫を詰めて固定されていたものである。それぞれ発見された順に、1~3号甕と名付けられ、5m間隔に並んだ状態で発見されたが、1号甕は口縁部、3号甕は胴部から上部を欠いており、全容は不明な状態にあった。しかしながら、2号甕は完全な形とは言えないまでも、口縁部も残存していたことから、全体の形を復元することが可能となった。

1号甕および2号甕は、ともに福井県の越前古窯産の第Ⅲ期に属する甕である。1号甕は残存高80cm、復元口径60cm、胴部最大径85cm、底部径24cm、厚さ1cmで、2号甕は残存高85cm、口径63cm、胴部最大径85cm、底部径24cm、厚さ1cmとほぼ同様の形態となっている。1・2号甕ともに、表面は赤褐色、内面は灰色を呈している。また、1号甕には、胴部から底部にかけてひび割れしたものを織布をあてて漆で接着した補修の跡があり、2号甕の肩の上部には、「上」の刻字と格子目(井桁)

状のスタンプおよび櫛描き文がみられる。さらに、2号甕の底には杉材製の径25.2cm、厚さ1.1cm、一端に径2.2cm程の孔がつけられた蓋（敷板）が置かれ、出土銭が貼りついた形で存在していた。

3号甕は、石川県能登半島の珠洲窯産の第ⅢからⅣ期に属する甕であり、上部を大きく欠いて、ほとんど底部付近のみが発見された状態である。底部の径などからみて、1・2号甕よりは小規模なものと考えられ、最大径65cm、底部径13cm、厚さ0.7cmで、表面に叩目文が付いた暗灰色を呈している。

これら3口の甕は、いずれも14世紀中葉から後半・末頃に属するものであり、1・2号はほぼ同時期、3号も1・2号と比べほとんど時間差がないものと推定される。これに加え、1・2号と3号に詰められていた出土銭の構成割合にも大きな違いはみられない。

出土銭の埋設年代

大甕3口に出土銭を詰めた状態で埋設されたのは一体何時なのかということについては、手掛かりとなる文献等の記録はなく、特定することは難しい。しかしながら、ある程度時間的に絞り込むことができる有力な手掛かりがある。それは、最も新しい時期となる出土銭が明銭の洪武通宝であり、これに後続する永楽通宝が1枚も存在していないという事実である。つまり、少なくとも洪武通宝の初鑄年である1368年以降であって、永楽通宝の初鑄年の1408年以前に求めることができるということであり、埋設年代が15世紀以前と考えて差し支えないものと思われる。ただ、1394年に明が銅銭の輸出を禁止したため、永楽通宝が日本国内に流通するのは15世紀中頃以降の可能性もある。そうすれば、永楽通宝の鑄造時点では日本国内に輸出されることがなく、必然的に15世紀中頃の段階に埋設された場合

であっても、依然として洪武通宝が下限の銭種であってもおかしくないことになる。しかしながら、実際のところ1403～1424年の時点で銅銭の輸出が黙認されていたようであり、^{註(2)}15世紀初頭頃にはすでに永楽通宝が出回っていたと考えられている。このため、遅くとも15世紀の初頭頃までには大量の銭種が埋設されたこととみることが妥当なところである。さらには、志海苔の出土銭の構成内容である、621年初鑄年の開元通宝以前の古文銭を含み、最新の銭が洪武通宝であって、出土量が1,000枚以上である事例と比較した場合に、やはり14世紀後半から15世紀前半以前に埋設されたものであるという結果と整合性がある。例えば、15世紀中頃またはそれ以降に埋設された場合には、明銭の割合が全体の20%を占める傾向が多いことが知られている。^{註(3)}これに対して志海苔の出土銭は明銭の割合が僅かに0.003%に過ぎないことから、14世紀段階で埋設が完了していたとみるべきであろう。

また、出土銭を収納した越前大甕（1・2号）は、縁帯部の拡張とやや胴長となる器形、肩上部の「上」の陰刻と井桁の押印などの特徴は、14世紀中から後半頃の製品にみられる傾向であり、少なくとも14世紀末頃以降に遅れて流通するような製品とはならない。このため、もしも15世紀初頭頃以降に埋設されたものと仮定するならば、何故その時点で流通していたものではなく、敢えて一つ古い時代の器を利用したかということになる。このような可能性は、それほど時間差がなく流通するという当時の状況からみても、限りなく低いということができる。

従って、下限の銭種である洪武通宝がそれほど流通していない1370年代を早い時期として、遅くとも1400年前後頃までには埋設されたものとみて間違いのないと思われる。

志苔館跡の概要

出土銭の発見場所に隣接する史跡志苔館跡は、北東方向に直線距離にして約100mほどの標高17~25m程の海岸段丘縁に位置する。この館跡の上に立つと、南面となる直下には志海苔漁港、西側には津軽海峡に注ぐ小河川の志海苔川が流れるという地理的条件に加え、南西側に函館山と市街地を望み、さらには遠く対岸の下北半島などを一望することができる。また、この辺りの海岸線一帯は天然の良港が多く、「宇賀の昆布」と呼ばれた良質昆布の産地ともなっている。

館跡の特徴は、四方に土塁が巡らされたほぼ矩形を呈し、その周囲には沢地形などを利用した空壕が掘られている。この四方を土塁で囲まれた郭内は、東西70~80m、南北50~65m、約4,100㎡の広さがあり、郭内は北から南へ緩やかに傾斜するが、ほぼ平坦となる面が形成されている。土塁の高さは、北側4~4.5m、南側1~1.5mで、西側と東側のそれぞれ中央部は土塁が途切れ、出入口の構造となっている。四方の土塁の外側にあたる北側と西側には、幅5~10mの空壕が掘られ、最も深い所で約3.5mの規模である。断面の形は、薬研または箱薬研状であり、特に西側の壕は中央部の土橋を挟んだ二重壕の構造となっている。

志苔館が記録の中に登場するのは、松前藩の史書「新羅之記録」中においてである。この長禄元年（1457）の項には、「長禄元年五月十四日夷狄蜂起来而、攻撃志濃里之館主小林太郎左衛門尉良景・・殺狄之酋長胡奢魔允・・」と康正2年（1456）のアイヌの蜂起である「コシャマインの乱」の結果、館が陥落した記述がみられる。これに続き、永正9年（1512）の項にも、「永正九年四月十六日宇須岸志濃利與倉前三館所 攻落夷賊・・

小林太郎左衛門尉良景之子彌太郎良定・・」と再度のアイヌの反乱により館が陥落した記述が存在する。しかしながら、この後には、館主であった小林氏が松前藩に従属したといわれることにより、志苔館が記録の舞台に登場することはなくなり、事実上廃館されたものと推定されている。

志苔館跡は、土塁等の形状が良好な状況にあることから、昭和9年に国指定史跡となり、保存されていたが、昭和42年に館跡郭内の試掘調査が実施され、文献史料の年代と矛盾しない年代の遺物が発見されている^{註(5)}。しかしながら、志苔館跡の全体像、特に創建期が何時であるのかを知る手掛かりは得られないままであった。そこで、昭和58年から3か年にわたり、史跡整備を目的とした本格的な発掘調査が実施された。この調査の結果、郭内から建物跡、塀・柵跡、井戸跡などの遺構と中国製の舶載陶磁器や国産陶器を主とする生活用具類が発見され、おおよそ志苔館の変遷の様子を捉えられることとなった^{註(6)}。

建物跡の遺構では、柱間寸法の基本単位が3通りに移り変わっていることが明らかとなった。その中で7尺を基本単位とする4面庇の寝殿造風の掘立柱建物跡が最も古く、その後6.5尺基本単位の掘立柱建物跡となり、さらには6尺基本単位の礎石建物跡が最も新しくなるという確証が得られた。それぞれの建築尺度の建物の時期を特定することは難しいものがあるが、柱間7尺から6.5尺への移行期は室町時代とされることから、文献史料に登場する15世紀中頃にはすでに6.5尺基本単位の建物が存在していたことが考えられる。また、7尺と6.5尺の建物跡の配置や重複の状況からみて、短時間にスムーズに移行したような状況にはなく、むしろその間には全く繋がりのない断絶した様子が伺える。そうす

ると、7尺基本単位の建物は少なくとも数十年古い15世紀初頭頃あるいは14世紀末頃に位置づけてもおかしくはない。さらに、建物の他にも、井戸跡が平安京の鎌倉期末頃に流行した「方形隅柱横棧式」の形態を踏襲するものであるなど、遺構の面からみて、志苔館の創建は南北朝から室町期の14世紀末頃あるいは15世紀初頭頃に求められそうである。

これに加えて、出土した青磁・白磁の舶載陶磁器や越前甕・珠洲すり鉢・瀬戸盤などの国産陶器の多くが、ほぼ15世紀初頭から前半頃（1420年代前後か？）に属する可能性が高いものであり、遺構の在り方と矛盾しないものとなった。これらの結果を総合すると、志苔館の創建期については、文献記録に登場する15世紀中頃ではなく、15世紀初頭頃あるいは14世紀末頃であった可能性が高いということになる。従って、記録にあるアイヌとの抗争となるはるか以前に志苔館が構築されたことになる訳であり、館の役割についても、戦略的な防御の砦というよりも、全く別な解釈も必要かと思われる。

出土銭と志苔館の関係

出土銭が発見された時点では、15世紀中頃の「コシャマインの乱」に関連する軍資金ではないか、あるいは和人渡来以前のアイヌの備蓄銭、南北朝期の土豪者の備蓄銭等々、諸説が論じられていた。^{註(7)} 出土地点が志海苔漁港の前浜付近であり、隣接地に和人豪族の館である志苔館跡が存在することなどから、当然ながらこれらの関係者が埋設した可能性が高いと考えられてきたわけである。しかしながら、出土銭の下限の時期や器である越前と珠洲の大甕の年代が、14世紀後半から末頃に位置づけられるのに対して、文献記録に登場する15世紀中頃のアイヌとの抗争の記述とでは約60～70年余りの開きが生ずるために、軍資

金としての可能性は否定されることとなった。この一方で、館の創建期が14世紀末頃であるならば、出土銭の埋設年代とほぼ重なる可能性が生じてきた。そうすると、志苔館の館主がなんらかの目的で埋設をした可能性が高いということになる。であれば、出土銭の埋設は和人であることによるため、よほどこの和人と親密な関係でない限り、アイヌの備蓄銭である可能性も消えることになる。こうして、結局のところ南北朝期に渡来した和人が館を築く一方、大量の銭を埋設した可能性が強まることになった。なお、この館主となる和人が誰なのかであるが、文献記録に登場する15世紀中頃の小林氏の先祖である渡党の小林重弘とする説がある。^{註(8)} しかし、建物跡などの遺構の状況からみて、小林氏とは直接繋がりのない別の豪族という可能性も考えられるが、今一つ決め手を欠く状況にある。

出土銭の目的と交易の可能性

この出土銭は、結局のところ一体何を目的としたものであったのだろうか。全国から発見された大量の埋蔵銭について、大きく2つの考え方がある。一つは諸産物交易の代価としての備蓄銭であり、もう一つは地鎮祭などの宗教的儀式に関連する埋納銭の説がある。^{註(9)} 37万枚余りの出土銭を大甕3口に詰め、一定の間隔に埋めている状況からみると、確かに館の構築に関わる地鎮や供養の目的であった可能性は否定できない。しかしながら、埋蔵場所が湊にごく近い場所であることと、この地域特有の産物の交易を考えた場合、取引に関連した備蓄銭とする考えの方が、より実態に則しているのではないだろうか。

蝦夷地における産物の交易については、14世紀後半の記録とされる「庭訓往来」に「宇賀の昆布、夷の鮭」など、この地に関連する交易品の様子が記されている。「宇賀の昆布」

は、津軽海峡に面した志海苔およびその周辺地で生産された昆布を指すものである。日本海を交易ルートとして、北陸地方経由で京都・大阪方面に流通していたものであり、蝦夷地の産物出荷の流通拠点が志海苔地域であったわけである。このように、特産品の出荷拠点としての条件を備えていた志海苔地域に、交易の代価として大量の備蓄銭が存在することは、むしろ当然であるように思える。これに加えて、その背景には本州地域との経済的交流に通じていた、豪商人または豪族などの存在は不可欠であり、必然的に館などの拠点を構えることに繋がって行ったものと考えられる。

このような流通経済を担っていた豪族とは、果たして小林氏であったのだろうか。あるいは、当時の東北日本の一帯において一大勢力を築いていた安東氏の勢力下にあった別の人物であった可能性も十分に考えられるところにある。

おわりに

以上のように、志海苔の出土銭は特産物の交易による代価としての備蓄銭の役割を担っていたという考え方を示したが、その反面では宗教的な埋納銭の要素も完全に否定するまでには至っていない。本当のところはよくわからないが、もしかすると、当初においては備蓄銭としてあったものを、何らかの都合が生じたことにより、移設して再度埋納するという形をとったものであるのかも知れない。

何れにしても、このような大量の出土銭を超える資料の発見はなく、現段階においても全国で最大のものであると同時に、14～15世紀における日本海交易の様子と貨幣流通の在り方を考える上で貴重な資料であることには変わりない。

(函館市教育委員会文化財課主査)

註

- (1)市立函館博物館「函館志海苔古銭」1973
- (2)鈴木信「北海道の中世出土銭貨」2003
- (3)吉崎昌一・森田知忠・森田洋子「函館市志海苔町の蓄銭遺構」市立函館博物館研究シリーズ第二集 1969
- (4)吉岡康暢「日本海域の土器・陶磁—中世編」1989
- (5)註(3)同
- (6)函館市教育委員会「史跡志苔館跡—昭和58～60年度環境整備事業に伴う発掘調査報告書」1986
- (7)註(1)同
- (8)佐々木馨「志苔館とその周辺からみる中世世界」『函館市史—銭亀沢編』1998
- (9)註(8)同

引用・参考文献

- 小林真人「北海道の戦国時代と中世アイヌ民俗の社会と文化」『北の内海世界』1999
- 佐々木馨「「みちのく」像の光と影—その宗教史的アプローチ」『北の内海世界』1999
- 鈴木公雄『出土銭貨の研究』1999
- 田原良信「地下に埋蔵された志海苔古銭」『考古学の世界第1巻』1993
- 田原良信「志海苔中世遺構出土銭の再検討」『出土銭貨第19号』2003
- 森田知忠「志苔館の四〇万枚の古銭」『よみがえる中世—4』1989

志海苔古銭一覽

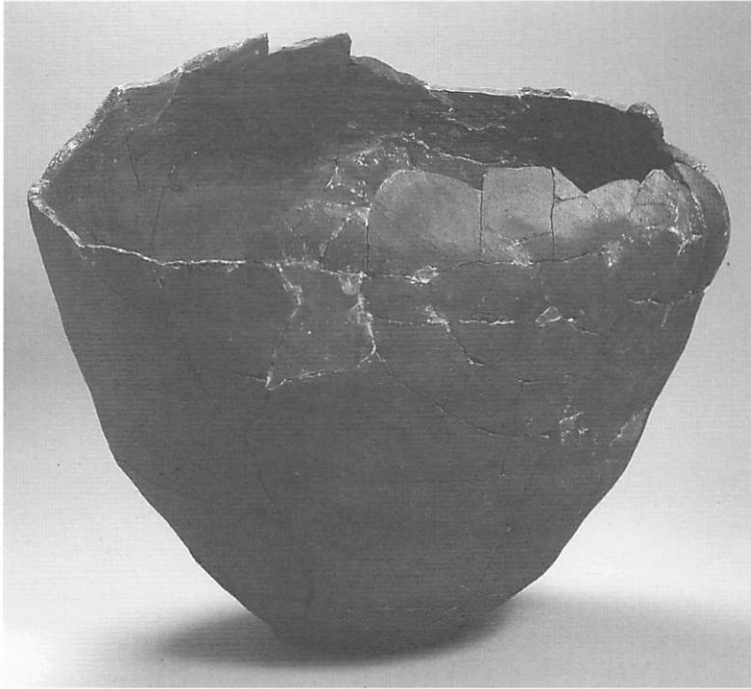
No.	資料名	時代	数量	備考	No.	資料名	時代	数量	備考
1	四銖半兩	前漢・前175	7	前漢文帝5年	49	大康通宝	遼・1075年	2	
2	五銖	前漢・前115	39	武帝元鼎2年	50	元豐通宝	北宋・1078年	43,009	
3	貨泉	新・14年	6	天鳳元年	51	元祐通宝	北宋・1086年	33,904	
4	開元通宝	唐・621年	30,816	南唐含む	52	紹聖通宝	北宋・1094年	14,917	
5	乾元重宝	唐・758年	1,422		53	紹聖通宝	北宋・1094年	2	
6	和同開珎	飛鳥・708年	1	皇朝十二銭	54	東国通宝	高麗・1097年	7	
7	万年通宝	奈良・760年	1	皇朝十二銭	55	東国重宝	高麗・1097年	2	
8	神功開宝	奈良・765年	4	皇朝十二銭	56	海東通宝	高麗・1097年	18	
9	隆平永宝	平安・796年	2	皇朝十二銭	57	海東重宝	高麗・1097年	1	
10	富寿神宝	平安・818年	4	皇朝十二銭	58	三韓通宝	高麗・1097年	1	
11	承和昌宝	平安・835年	1	皇朝十二銭	59	三韓重宝	高麗・1097年	2	
12	貞観永宝	平安・870年	1	皇朝十二銭	60	元符通宝	北宋・1098年	5,721	
13	延喜通宝	平安・907年	1	皇朝十二銭	61	聖宋元宝	北宋・1101年	14,333	
14	通正元宝	前蜀・915年	8		62	崇寧通宝	北宋・1102年	3	
15	天漢元宝	前蜀・917年	17		63	崇寧重宝	北宋・1102年	2	
16	光天元宝	前蜀・918年	17		64	大観通宝	北宋・1107年	4,230	
17	乾德元宝	前蜀・919年	79		65	政和通宝	北宋・1111年	15,206	
18	咸康元宝	前蜀・925年	19		66	宣和元宝	北宋・1119年	1	
19	大唐通宝	南唐・944年	2		67	宣和通宝	北宋・1119年	1,412	
20	漢通元宝	後漢・948年	15		68	建炎通宝	南宋・1127年	88	
21	周通元宝	後周・955年	87		69	紹興元宝	南宋・1131年	149	
22	唐国通宝	南唐・959年	393		70	紹興通宝	南宋・1131年	16	
23	宋通元宝	北宋・960年	1,288		71	正隆元宝	金・1158年	479	
24	大平興宝	安南・970年	3		72	天盛元宝	西夏・1158年	3	
25	太平通宝	北宋・976年	3,512		73	隆興元宝	南宋・1163年	1	
26	天福鎮宝	安南・984年	19		74	乾道元宝	南宋・1165年	2	
27	淳化元宝	北宋・990年	3,258		75	淳熙元宝	南宋・1174年	2,366	
28	至道元宝	北宋・995年	5,851		76	大定通宝	金・1178年	22	
29	咸平元宝	北宋・998年	6,400		77	紹熙元宝	南宋・1190年	774	
30	景德元宝	北宋・1004年	8,139		78	慶元通宝	南宋・1195年	938	
31	祥符元宝	北宋・1008年	9,322		79	嘉泰通宝	南宋・1201年	549	
32	祥符通宝	北宋・1008年	5,384		80	開禧通宝	南宋・1205年	356	
33	天禧通宝	北宋・1017年	7,943		81	嘉定通宝	南宋・1208年	1,735	
34	天聖元宝	北宋・1023年	17,924		82	大宋元宝	南宋・1225年	84	
35	明道元宝	北宋・1032年	1,813		83	紹定通宝	南宋・1228年	614	
36	景祐元宝	北宋・1034年	5,384		84	端平元宝	南宋・1234年	49	
37	皇宋通宝	北宋・1039年	47,031		85	嘉熙通宝	南宋・1237年	161	
38	慶曆重宝	北宋・1045年	1		86	淳祐元宝	南宋・1241年	530	
39	清寧通宝	遼・1055年	1		87	皇宋元宝	南宋・1253年	285	
40	至和元宝	北宋・1054年	4,452		88	開慶通宝	南宋・1259年	20	
41	至和通宝	北宋・1054年	1,416		89	景定元宝	南宋・1260年	475	
42	嘉祐元宝	北宋・1056年	4,478		90	咸淳元宝	南宋・1265年	583	
43	嘉祐通宝	北宋・1056年	8,729		91	至大通宝	元・1310年	110	
44	治平元宝	北宋・1064年	7,002		92	至正通宝	元・1341年	3	
45	治平通宝	北宋・1064年	1,154		93	洪武通宝	明・1368年	12	
46	咸雍通宝	遼・1065年	2		94	銭名不詳		12,901	
47	熙寧元宝	北宋・1068年	34,897			計		374,435	
48	熙寧重宝	北宋・1071年	12						

附大甕・敷板一覽

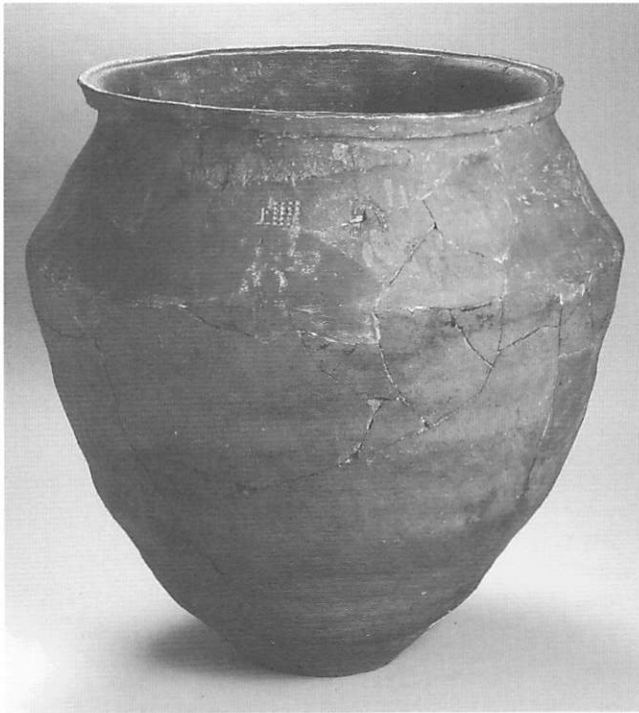
No.	資料名	時代	数量	備考
1	越前甕 (1号甕)	14世紀後半	1	口縁部欠損 口径60 × 胴径85 × 高さ80cm 越前古窯Ⅲ期
2	越前甕 (2号甕)	14世紀後半	1	ほぼ完形 口径63 × 胴径85 × 器高85cm 越前古窯Ⅲ期
3	珠洲甕 (3号甕)	14世紀後半	1	底部付近のみ 底径13 × - × - cm 珠洲窯Ⅲ～Ⅳ期
4	敷板	14世紀後半	1	円形・杉材 直径25.2 × 厚さ1.1 × - cm



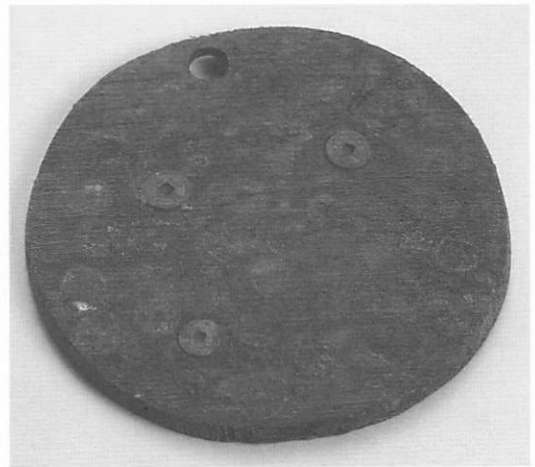
志海苔古銭(93種の出土銭)



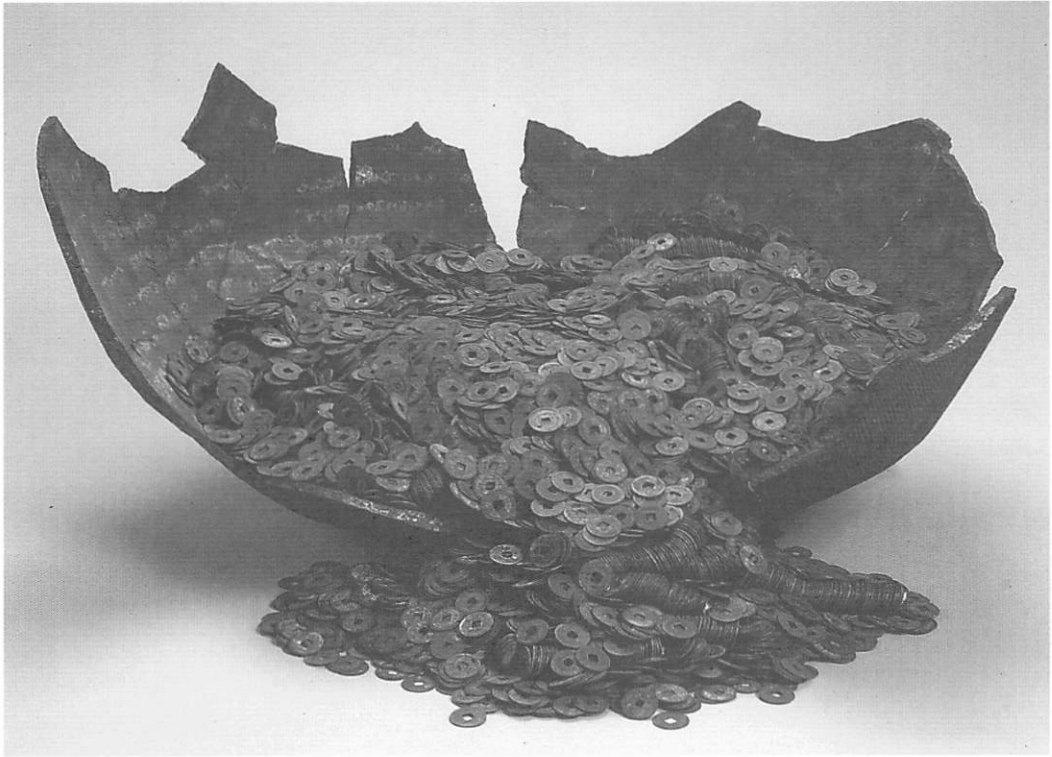
1号甕（越前焼）



2号甕（越前焼）



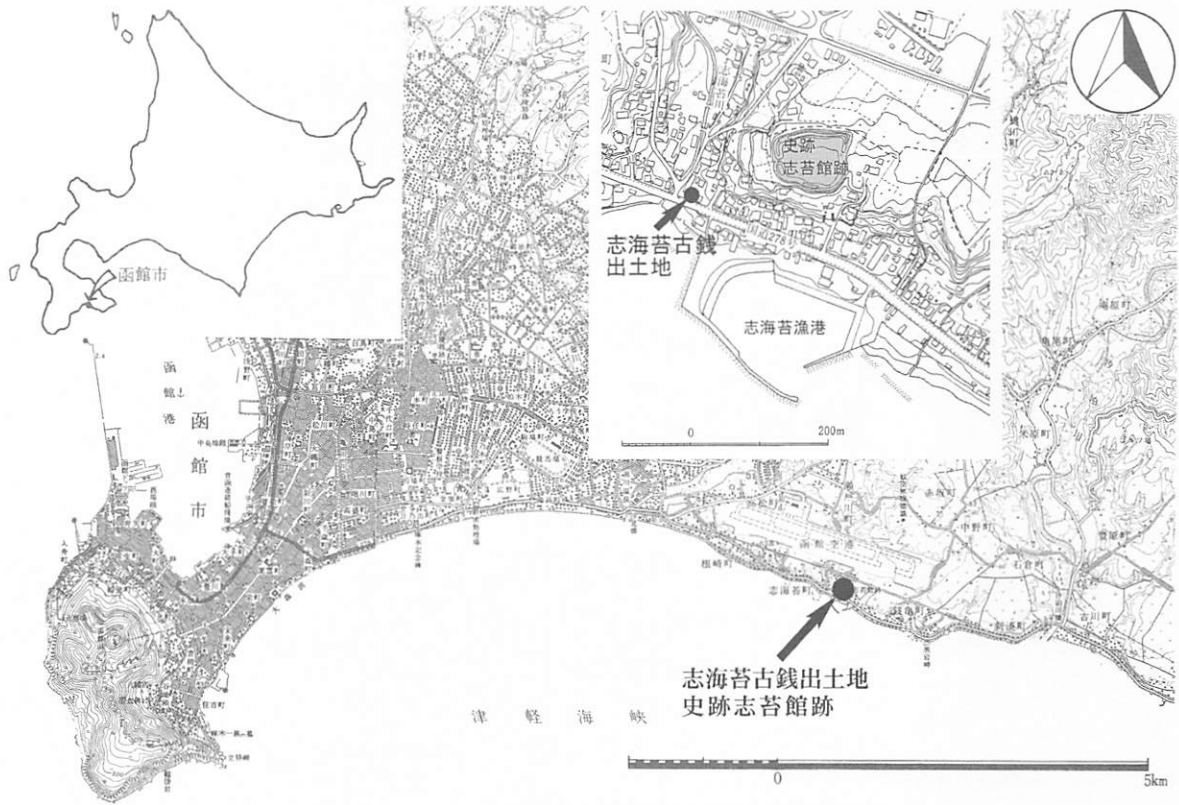
2号甕内の敷板



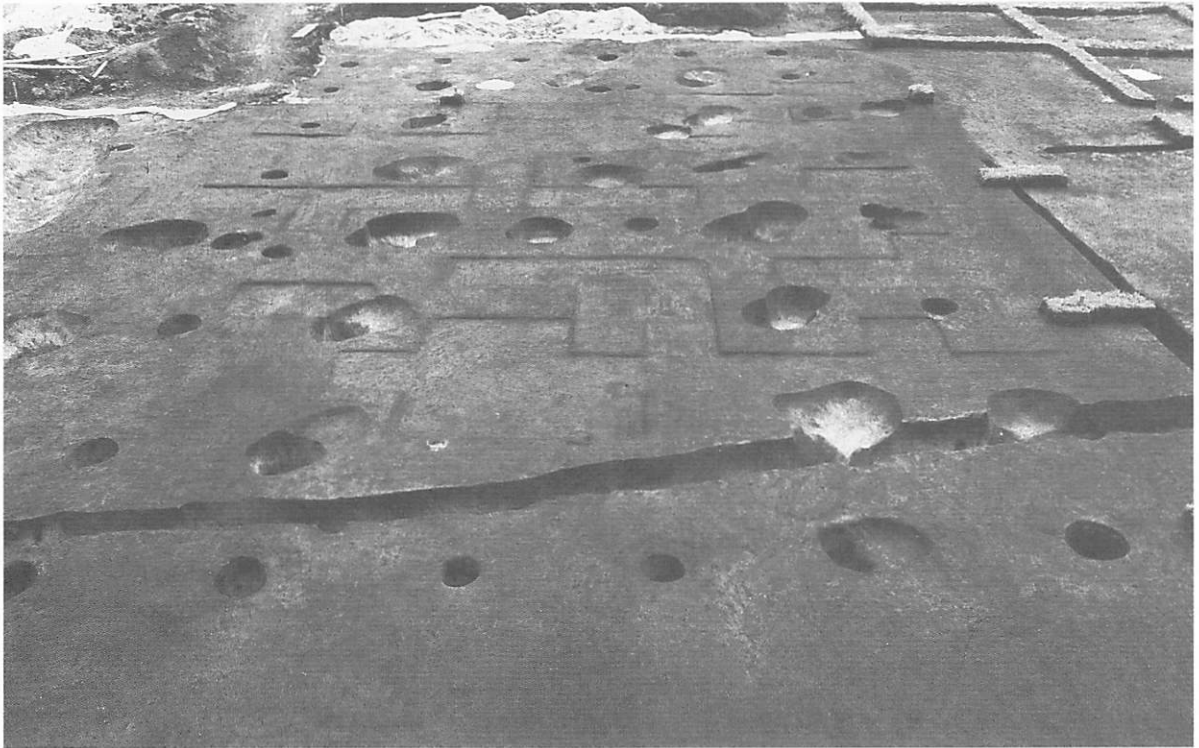
3号壺 (珠洲焼)



一緡の連銭 (麻紐とじ)



志海苔古銭出土地と史跡志苔館跡



創建期とみられる志苔館跡内の7尺基本単位の建物跡



志苔館跡内の「方形隅柱横棧式」井戸跡

市立函館博物館新聞記事目録

—友の会の資料調査活動から—

市立函館博物館友の会

数年前から、停滞していた市立函館博物館友の会活動の活性化をめぐる議論が重ねられ、会報の発行や例会の開催のほか資料調査活動についても提案があった。それは、明治12年(1879)の開館から120年を数えた市立函館博物館の歴史を、友の会会員が資料調査を通して再認識しようというものであった。

実際に資料調査班の活動を開始するにあたって、調査対象を新聞資料とし、平成11年(1999)10月16日に同館の長谷部一弘氏から、博物館の歩みの概略説明を受けるとともに、調査手法の説明を行った。

調査方法は、函館市史編さん室から一定量の新聞縮刷本(マイクロフィルムから作成、製本したもの)を借用し、博物館の集会室に運んで、それを参加者があらかじめ決められた調査日時(集会室の使用が可能な土・日曜日)に自由に参加、調査するというものであった。参加者それぞれの都合により、日時の調整が難しく、こうした方法をとった。調査記録ノートに調査日、記事の所在年月日などを記録して、情報の共有を図り、重複して調査をしないように配慮した。

調査を実施したのは、「函館新聞」(明治11年1月創刊、明治31年5月「函館毎日新聞」に改題)、「函館日日新聞」(明治31年7月「北のめざまし」が改題)、および「函館新聞」(明治45年6月「函館日日新聞」が改題)の各紙で、明治11年から大正13年(1924)までである。同時代には地元他紙もあるが、時間や

資料等の制約により対象を限定し、明治25年から明治41年までについては、大火等により資料が保存されていないので調査できなかった。

こうして、第1回の調査が平成12年2月27日に実施され、翌13年11月まで参加者個人による調査が継続された。調査活動のなかで、博物館に類似した施設など周辺の状態も取り上げ、直接関係のないものも一部採用したが、逆に博物館の変遷が複雑なことや意思統一等の不十分さもあって記事の拾い洩れがあると思われる。

友の会活動のなかでも非常に地道な活動となったが、今後とも記事を追加していくことで、博物館記事に関する簡易なデータベースとしても運用が可能である。市立函館博物館の歴史に関しては『函館博物館100年のあゆみ』、『函館市史』通説編第二巻などで明らかとなっているので、今回の資料を合わせて利用いただければと思う。また現在の市立函館博物館本館は、昭和41年(1966)に建築され、その老朽化・狭隘化が著しい。友の会の総会などでも、新たな博物館への要望や期待の声がかかるが、その実現に向けての現在を考える基礎資料となればと思う。

※参加していただいた方々(敬称略)

富樫進、本家和子、信田洋子、菅原繁昭、前川秀子、小林清、関尚彦、岡田溪子、古坂茂、奥野進

市立函館博物館関係新聞記事目録

明治11年

月 日	内 容	新聞
1月17日	当港の公園地は谷地頭にあれどその場所至て狭して唯公園といへる名のみにて市街の人民打集ふ勸娯場とするにも足らぬ場所ゆえ当支庁にても疾より此に心付れかつ人民の知識を開くに肝心なる博物館をも設て追々盛なる公園地を開かるる五所存なりしと聞きしに当港の人民中早くも官と意見を同ふするものありて公園地の要用なることを知り是迄の場所にては狭きを恨み各金円を抛て取開んと既に会所町の小林重吉は公園地統の地面千二百坪余内澗町の今井市右衛門は矢張公園地統の地面三百坪弊社の熊四郎も当年より一ヶ年三百円宛にて三ヶ年に九百円を差し出しましたが公園の人間に利益あるは今更いふまでもなく平生職業に身を勞せし人または物事に精神を勞して終には病をも醸すべきとおもふ人々杯折々此公園中に遊歩して心気を慰るときはその身の健康を助ること多かたならず去れば公園は何れの国にも人民相集りて繁華の場所に非ざるはならぬものを当港には市街の繁華に似もやらで春の花秋の草に目を悦しめ心を慰る場所のなかりしはほとほと遺憾におもひ居りしが弥この公園を開かるるならむ函館市街永世の公益にこそあるなるべし	函新
4月22日	先月下旬の事にてチト遅蒔ながら渡島国亀田郡軍川村の某が程近き山に材木を伐らんと鎗を携へ独り山深く踏入りやがて丁々と打付る斧の溪に對て響きわたると齊しく其音に驚きけん一疋の牝熊頭れ出藪地に某を目懸て飛懸んとするを此向はスワと思ふまま持たる鎗を振り上げ飛付く熊の頭上を続けさまに二ツ三ツ切り付くるや否持たる鎗を打棄て素手にて熊に組付き稍暫し挑合しに流石の猛獸も前に打たれし頭上の痛に堪へず敵しがたくやおもひけん終逃去りしかば某も急ぎ家へ帰り朋輩へ右の始末を嘯し猶追撃んとそれより三四人の若者を語合各々鉄砲を携へ再び山へ踏入り其地此地と尋ね廻り稍半里程も入りし頃其熊の山沢の間に臥し居たるを見認め一度に放つ鉄砲の過たず二発にて其熊は打留たりそれより近傍を見渡すに熊穴のあれば中に這入りしに熊の児の当才なるもの二疋いたれば是れをも生捕て帰りしが此の子熊は当時当函館の懲役場にて育て置くよしにて追て博物館へ出品するものよし	函新
5月22日	谷地頭の公園もいよいよ取開かるるよしにて最初公園の坪数は僅八千坪程の処迫々有志の地所を献納する者あり或は買上られ今は殆ど一万六千坪に至りし由先づ其地割の大略を聞くに……又博物館をも園中に設けらるる由にてその場所は招魂社脇通り西門の左なりと然れば此の園に遊ぶ人は独り精神を養ひ身体の健康を獲るのみならず併て見聞知識をも弘る場所なり此の園を作る人は彼の孤山堂無外浅田清次郎の両翁なりと聞けり	函新
6月17日	公園地内の博物館はいよ昨日柱立になりました	函新
7月14日	昨日英商ブライキストンの雇人が直き此の港内で世にマンボウ鮫といふに似た一種変つた魚を取上たゆえさる人が夫れをブライキストンより譲り受られ博物館へ出品すると昨日熊々弊社へも見せられました	函新
7月16日	谷地頭の公園地へ建られたる博物館は全く落成あがり去十二日に營繕掛より民事課へ引渡しに成つたと云	函新
7月18日	動物見本採集並びに學術研究の爲めとて東京大学理学部教授米国人博士モース同大学理学部教授兼教育博物館長矢田部良吉の両氏が此程当港へ着され当分仲浜町船改所の内へ一局を設け海中より種々の動物類を取集め顕微鏡等を以て試験し居る由これを了れば後志胆振の兩國を巡廻し石狩札幌へも回はられ往復の日は凡そ五十日間程の見込なるよし	函新
10月20日	榎本公使は一昨日出帆の筈なりしが彼の暴風雨にて見合せられ其日は砲台より船改所并に支庁等へ立寄れて博物観へ出品の諸獣皮等を一覽されて帰館に成り昨日は弥玄武丸にて午前九時に乗込れ支庁よりは時任柳田の両君を初め諸官員見送れて同十時出帆されたり	函新
11月4日	昨日天長節にて公園の景況を見るに博物場には聖上皇后宮の御写真を正面に安置し奉り左右には札幌工業局にて製造せし椅子テーブル筆筒寝台及び農業器械等を陳列して場の前面には菊章の紫幕を掲げたり午前十時より官立公立の諸学校生徒千四百人何れも隊伍を成て公園中に入り園中平坦の地に各校の旗章を押し立て屯集し総員集合の後一校毎に教員之れを指揮して体操を為しむるに技芸の練熟せる一号一令寸歩を違へず平生の勉強推て知れたり体操すれば順を以て博物場内なる聖上皇后の御写真を拝し其より一校毎に順次総生徒を整列せしめて写真されたり此日は天長節といひ天気も近來に無く美しく殊に衆庶をして聖上皇后の御写真を排さしめらるといふより市街より老幼となく公園に押集へて吾先と場中に迫りて排さんとするよりさしも広き公園も錐を立る地を余さず大凡二万人も集りしなるべく其中聖影を拝せしものは無慮七千人なりといふ実に近來の賑いなりき	函新
12月10日	一昨夜の暴風雨の爲めには市中損害を受し場所も少なからず先づ……公園地内の博物館并に谷地頭の朝田楼は何れも痛く家根を吹めくられ此他……	函新
12月28日	近頃珍らしい話しは下湯川村松島重右衛門の弟某が黒白赤の三毛狐を生擒り去二十五日当博物館へ献上せし由にて公園内に飼置かれしといふ	函新
12月30日	前号に一寸記載した亀田郡下湯川村にて三毛狐を生捕つた咄しを委しく聞くに是迄松島重右衛門方の台所へ夜な夜な食餌を求めに来るのを重右衛門の弟某が何かして生擒にせんと一度取押へたれど終ひ逃して仕舞ひ其後暫らく来なかつたが今度又来だしたゆえ窩弓を設け五夜斗りも狙ふうち去二十四日の夜つひ窩弓に引懸り一点の傷も負はずに生捕りし由にて頭から尻までは二尺程もあり尋常の狐よりは少し小さき方なり当時公園内の孤山堂無外氏の宅に飼置かれませ	函新

明治12年

月 日	内 容	新聞
4月12日	公告／当地博物館未夕開場ノ式ヲ執行セスト雖モ陸続列品寄付願出候者有之其都度願書二通ツツ差出来候得共自今其手数ヲ省略シ物品寄付望之者ハ直ニ口頭ニテ当係リヘ申出ルモ苦シカラス此旨廣告ス但公園地ヘ寄付望之者モ本文ノ通りタルベシ 明治十二年四月十一日 函館支庁勸業係	函新
4月22日	公告／当地博物館未夕開場ノ式ヲ執行セスト雖モ陸続列品寄付願出候者有之其都度願書二通ツツ差出来候得共自今其手数ヲ省略シ物品寄付望之者ハ直ニ口頭ニテ当係リヘ申出ルモ苦シカラス此旨廣告ス但公園地ヘ寄付望之者モ本文ノ通りタルベシ 明治十二年四月十一日 函館支庁勸業係	函新
4月30日	公園内博物館の開業は来月十五日ごろなるべしと	函新
5月4日	英商プライキストンは当地に二十年余の間在留せる人にて殊に動物学に心を寄せ是迄北海道にて捕獲せし鳥類を取集めしこと既に千四百種に至しが今度右鳥類を悉皆函館博物館へ献納するよしにて其受取方の為め当支庁にては更に取扱の吏員を定められたりしと斯の如く鳥の種類を大集し完全せる者は未だ全国中にも比類なきよし実に貴重すべきものなりと或人が咄されました	函新
5月8日	公園地内なる仮博物館も弥来る二十五日に開場式を執行さるよし就ては同日は内外国人一般に縦覧を差許され縦覧の順序等は都て同場へ掲示なるよし	函新
	公告／第八号 当函館公園地内ニ設立スル仮博物館ノ儀本月二十五日ヲ以テ開場内外国人人民一般縦覧差許候条此旨廣告ス但縦覧之順序等ハ都テ該場ニ掲示スヘシ 明治十二年五月七日 開拓使函館支庁	函新
5月10日	前号に記せし通り公園地の博物館はいよ来る二十五日より開場に成ますゆえ誰なりと平生珍らしき物品を所持の向は差し出されて諸人に縦覧させなさい見せた位では決して減ものではありません	函新
	天神町九番地小島利兵衛さんより公園地内博物館へ自製のレーフルタラン一瓶根室国産タラク石二百五十粒を寄附したる由	函新
	公告／第八号 当函館公園地内ニ設立スル仮博物館ノ儀本月二十五日ヲ以テ開場内外国人人民一般縦覧差許候条此旨廣告ス但縦覧之順序等ハ都テ該場ニ掲示スヘシ 明治十二年五月七日 開拓使函館支庁	函新
5月12日	近々の中に公園内博物館も開場に成るに付今度公園并に博物館の規則等を同園内へ掲示になりました	函新
	公告／第八号 当函館公園地内ニ設立スル仮博物館ノ儀本月二十五日ヲ以テ開場内外国人人民一般縦覧差許候条此旨廣告ス但縦覧之順序等ハ都テ該場ニ掲示スヘシ 明治十二年五月七日 開拓使函館支庁	函新
5月14日	公告／第八号 当函館公園地内ニ設立スル仮博物館ノ儀本月二十五日ヲ以テ開場内外国人人民一般縦覧差許候条此旨廣告ス但縦覧之順序等ハ都テ該場ニ掲示スヘシ 明治十二年五月七日 開拓使函館支庁	函新
5月16日	来る二十五日開場の博物館へ東浜町杉浦嘉七氏を初めその他より追々数種の出品あるよし	函新
	公告／第八号 当函館公園地内ニ設立スル仮博物館ノ儀本月二十五日ヲ以テ開場内外国人人民一般縦覧差許候条此旨廣告ス但縦覧之順序等ハ都テ該場ニ掲示スヘシ 明治十二年五月七日 開拓使函館支庁	函新
5月18日	公告／第八号 当函館公園地内ニ設立スル仮博物館ノ儀本月二十五日ヲ以テ開場内外国人人民一般縦覧差許候条此旨廣告ス但縦覧之順序等ハ都テ該場ニ掲示スヘシ 明治十二年五月七日 開拓使函館支庁	函新
5月22日	海軍省御用達の金田喜兵衛氏より来る二十五日公園内博物館開場式の節風船を揚げたき趣き其筋へ願ひ出しとかいふ事を一寸聞きましたが何れ悉しくは聞込次第報道に及びませうが此様子では来観人も一入群集し其賑はひ嘸と今より想像れます	函新

明治12年

月 日	内 容	新聞
5月24日	<p>公園内博物場の開場はいよ明二十五日（雨天日送り）と決定され午前九時にその式を初められ式畢れば直さま諸人の縦覧を許されすと</p> <p>公園地へ腰掛茶屋等を設け毎日出稼ぎ業を為るもののため当支庁より左の心得書を編制されて四十五十六大区の区戸長へ達せられし由 函館公園地小憩所腰掛店営業心得 第一条……第七条…… また同園内博物場へは左の通り掲示さるよし 本場は内外国人一般縦覧を許す、風癩乱酔と見認るものは入場を許さず、当分の内毎日午前九時に開き午後四時に閉づ（但大祭日のみ之を開かず）、場中木履及び杖又は嵩高の物品を携帯し昇り喫煙する事を許さず、陳列の物品に手を着べからず、掲示に違背するものは直に退去せしむ</p> <p>公告／第九号 当地仮博物場来ル二十五日開場ノ儀当庁本月第八号及廣告候処当日雨天二候ハ八日送り順延候条此旨更ニ廣告ス 明治十二年五月二十三日 開拓使函館支庁</p>	<p>函新</p> <p>函新</p> <p>函新</p>
5月26日	<p>昨二十五日は兼て待に待たる公園内仮博物場の開場式を執行ありしかば其景況を拝観するに場の前には恒例の如く杉の葉もて円形の門を作られし其が上に旭章の大旗二流打違ひに差しかざし紅白の提灯数多掛連ねたるは何もながらも亦場所の佳麗なるためにや一段美ことなりき又場の入口には予め出入の混雑を防るるため中央へ青竹もて路を二条に通し一方をば入口とし一方をば出口とし又玄関前には縦覧人のため草履数多を備ひ置るなど行届きたるお手配にてありたり扱また本日の式を行わるるためには同場に向ひ右の方に一字の仮小屋を取設けあり茲にて午前九時其式を初めらるるに開拓使の官員には時任大書記官柳田少書記官湯池權少書記官及び該場の担任有竹一等属その他の判任官数名また函館裁判所よりは井上判事以下税関よりは河野權少書記官何れも数名の属官と与に場に臨まれ其他区戸長并に諸学校よりは各場の教師各々男女生徒を引連れ真先に其校其校の旗章を推立教員先導して場に入來り纏て一同揃へたればはより官員その他一同駢立して最嚴かに先づ第一に時任大書記官本日の祝辞を朗読され続て湯池有竹の両君と漸次讀上げたること十余名程ありて同十時ころ式終りしかば其より各学校の教員は生徒を広場に導きて其学校毎に体操を演じたるは尤も美事なりき右了つて官員一同は場に上りて陳列品を一覽あり次て区戸長教員生徒漸次見畢りて後は人民一同の縦覧を成しかばサア待暮したる人民輩は吾先とこそ推し合揉合い股を潜りても先きに出やうとする韓信流もあれば人を突のめしても吾先といふ項羽の如きもあり夫れは夫れは一方ならぬ混雑なれば人に怪我させまじ陳列品に触さずまじと巡査は無論公園世話掛りは必死と成て群集を制すれども中々制し切ぬ群集なれば斯ては怪我人は愚か圧殺さるる者の出来るも計られねば切手にして混雑を沈めんと夫より急に四五百枚の紙札を製し渡したるにて漸く群集を沈め午後四時に至りて先づ場をば無事に閉られたり此の如く当日の賑ひは無慮一万四五千人もありしかば公園内の腰掛茶屋は勿論園外の市街に并べ立たる飴菓子玩弄物の露店より見世物器械等の繁昌も実に夥しく然るに此日の欠点には空模様的好しからぬに風さへ立わたりて寒けき日なれば出残りし人も少なからざりしならん又彼の金田喜兵衛とやらが目論見し風船も風の故にや本日は上らざりしよし是また遺憾なる事どもなれど物は満足を求む可らず當日の景況は実に十二分の盛事なれば余輩が筆も茲らにて切上くべき処なれど猶一言の申すべきことあり其は余事ならず當日縦覧人の中には同場の縦覧を許さるるは本日のみと心得この他には見料を取るなどと思ひ違ひたる族も沢山あるよしなれ同場は決して然らず前に張出したる通り休日を除くの外は今日より何日たりとも午前九時より午後四時まで開場し矢張縦覧を差許さるる由なれば当日見後れたる人たりとて左迄口惜き次第にはあらぬべし穴賢怒り玉ふ勿れ」當日諸人の祝詞は数多く一々とは紙幅に限りあれば先づ時任柳田両君のみのを左に掲ぐ</p> <p>聖上専ら慈仁ヲ以テ億兆ノ人庶ヲ子養シ親疎遠邇アルコト無ク万里ノ外絶海ノ陬ニ在ルト雖トモ之ヲマツ一コ幾何ノ間輦殺ノ下ノ如ク善アレバ必ズ聞キ悪アレバ必ス見競々業々トメ惟四海ノ内版図ノ中一物モ其所ヲ得ザランコトヲ恐ル我開拓長官専ラ忠誠ヲ以テ聖旨ヲ承奉シ不肖為基等ヲ督励シ管内ノ人庶ヲ保護セシムル所以ノ意尽サザルナシ是二於テ乎一般苟倫ノ習漸ク消シ銳進勇往ノ氣随テ廢シ榛莽日ニ開ケ物産月ニ殖シ地方ノ面目年ヲ遂テ改ル然レトモ聖上我ガ長官ニ望ム所ト我ガ長官ノ不肖為基等ヲ督励シ衆庶ニ後來二期スル所ハ必ズ此ニ止ラズ衆庶ヲシテ更ニ智誠ヲ發達シ精神ヲ磨励シ百般ノ奇器新製ヲ發明セシメ大ニ我ガ北海全道ノ物産ヲ興シ上下均シク無前ノ幸福ヲ享ント欲スルニ外ナラズ乃チ今此場ヲ開キ山林原野ニ出ス所河海川沢ニ産スル所禽獸魚虫草木花卉ニ論ナク農桑樹芸牧畜耕耘ノ具ヨリ百般ノ物品ヲ包羅陳列シ之ヲ衆庶ニ縦覧セシメ以テ各々感發スル所アラシメント欲ス此レ過眼ノ雲烟ニ非ス此レ喪志ノ玩物ニ非ズ曷クバ精神ヲ聖旨ノ在ル所ニ注ギ我ガ長官ノ期スル所ニ副ヘンコトヲ為基等此ヲ祝詞ト為ス 明治十二年五月二十五日 開拓大書記官 正六位時任為基 開拓少書記官 從六位柳田友卿</p>	<p>函新</p> <p>函新</p>
5月28日	<p>公園内仮博物場へ見物に出掛し人員は一昨日は千七百三十四人昨日は千七百二十四人あり内女紅本支場より出掛けし生徒が二百六十余人ありしと</p> <p>函館公園内の博物場開場式をほきて 千万のものさとりもひらけけり 北の海道は田畑のみかは 上村三省 うちつとふ物のかきりと維新の 君かめくみといつれ広けん 山崎弓雄 なからへて御代にあふ身は国津物 千々のたからをみるそうれしき 牧田子友 ありとある数をつくして海山も よりてつりふる時はきにけり 小林清勝</p> <p>前号の雑報博物場開場式の末に休日の外は何時も縦覧を許さると記せしが右休日とは大祭日のみにて日曜には矢張縦覧が出来るよしなり</p>	<p>函新</p> <p>函新</p> <p>函新</p>

明治12年

月 日	内 容	新聞
5月30日	一昨二十八日は陰曆四月八日なりとは忘れもやらぬ旧弊連中が天気の好に思い立て函館山の薬師詣で猫も杓子もぞろぞろどろどろ推出したる人の出は実に夥多しく……また公園内博物場の縦覧も是に準じて当日は三千八十人ありしといふ	函新
6月1日	公告にもある通り仮博物場の縦覧時間は一昨日より当分大祭日を除くの外午前十一時より午後六時迄となりたり又右開場の日より列品の珍奇精巧且美観なるに気を奪はれけん手拭風呂敷或ひは独身ものと見え筆筒の鍵などを遺し行くもの続々あるに付皆一纏めにして警察署へ廻さると云	函新
	船場町金田喜兵衛氏が風船の試験も追々巧に成りしと見え一昨日などは百間余も上りました	函新
	公告／本場開閉時間当分左ノ通更正縦覧差許候此旨廣告ス 五月三十日 函館仮博物場 一大祭日ヲ除ノ外午前十一時開場午後六時閉場トス	函新
	函館仮博物場陳列物品略目録 定価一錢 売捌所 大町活版所 北溟社 内濶町書林 魁文社 大町同 日彰社	函新
6月3日	公告／本場開閉時間当分左ノ通更正縦覧差許候此旨廣告ス 五月三十日 函館仮博物場 一大祭日ヲ除ノ外午前十一時開場午後六時閉場トス	函新
	函館仮博物場陳列物品略目録 定価一錢 売捌所 大町活版所 北溟社 内濶町書林 魁文社 大町同 日彰社	函新
6月5日	公告／本場開閉時間当分左ノ通更正縦覧差許候此旨廣告ス 五月三十日 函館仮博物場 一大祭日ヲ除ノ外午前十一時開場午後六時閉場トス	函新
6月7日	公告／本場開閉時間当分左ノ通更正縦覧差許候此旨廣告ス 五月三十日 函館仮博物場 一大祭日ヲ除ノ外午前十一時開場午後六時閉場トス	函新
	函館仮博物場陳列物品略目録 定価一錢 売捌所 大町活版所 北溟社 内濶町書林 魁文社 大町同 日彰社	函新
6月11日	公告／本場開閉時間当分左ノ通更正縦覧差許候此旨廣告ス 五月三十日 函館仮博物場 一大祭日ヲ除ノ外午前十一時開場午後六時閉場トス	函新
6月13日	公告／本場開閉時間当分左ノ通更正縦覧差許候此旨廣告ス 五月三十日 函館仮博物場 一大祭日ヲ除ノ外午前十一時開場午後六時閉場トス	函新
6月15日	公告／本場開閉時間当分左ノ通更正縦覧差許候此旨廣告ス 五月三十日 函館仮博物場 一大祭日ヲ除ノ外午前十一時開場午後六時閉場トス	函新
6月17日	後志国美国郡にて発見したる石炭を札幌より三等属仁田登氏が該地へ出張の上試験されし処中等品なる由にて此頃発見人岸田某土屋又親等が博物場へ出品する見込なりと彼地より報知	函新
6月19日	公告／本場開閉時間当分左ノ通更正縦覧差許候此旨廣告ス 五月三十日 函館仮博物場 一大祭日ヲ除ノ外午前十一時開場午後六時閉場トス	函新
6月21日	内濶町柏葉亭の大書画会はいよ本日明日の両日にて晴雨に係はず開会するよし尤も諸先生は何れも出席殊に今度博物場の陳列品を写真さする為め本使にてこの度東京よりお備ひ入に成し有名なる雲潭先生の跡にて市川米庵先生の甥に当る籙木雲洞先生にも出席を承諾したるよしなれば猶更以て好都合ゆえその盛会のほど想ひ知れます	函新
6月23日	公告／本場開閉時間当分左ノ通更正縦覧差許候此旨廣告ス 五月三十日 函館仮博物場 一大祭日ヲ除ノ外午前十一時開場午後六時閉場トス	函新
6月27日	公告／本場開閉時間当分左ノ通更正縦覧差許候此旨廣告ス 五月三十日 函館仮博物場 一大祭日ヲ除ノ外午前十一時開場午後六時閉場トス	函新

明治12年

月 日	内 容	新聞
7月15日	在々村々より翁媪の函館見物に出懸来る族は何れも名高き公園地并に博物館を随一の見もの的心得居るは宣が往々「ハクブツクワン」を仏寺と思ひ違ひ先づ公園に來り水茶屋に腰打掛る前遙か該館を眺めては合掌して南無阿弥陀仏と数度唱へ夫より腰打掛て茶屋の者に賽銭の相場から題目の唱ひやうなど逐一尋ぬる者あるゆえ茶屋では可笑さを堪へイヤイヤ是はお寺ではありませぬ博物館と唱へ凡そ世の中の珍らしき物は何にまれ集めて広く世の人に見せらるる為め御上で建られしものゆえ決して賽銭などの心配は入り申さぬと教へて遣もの往々幾人もあるといふ	函新
7月21日	一昨十九日は予て待に待香港太守ジョン、ポーブ、ヘンネッシー君の着港せらる日割なれば我函館港は開拓使の諸官員を初め市民に至るまで是が準備に奔走したりしが……ヘンネッシー君并にその夫人大蔵卿并に卿の奥方及び井上工部卿の息女君その他遠藤大蔵大書記官林工部大書記官金井開拓権大書記官安藤領事并にその奥方其他金子大蔵一等属谷同二等属警部一名巡查六名（何れも東京より護衛）は一同右小蒸気に乗移られて上陸されしに…… 斯て昨日は午後二時ごろより大蔵卿は林遠藤両書記官并に安藤領事与々英国領事館に至られ其よりヘンネッシー君を伴はれて当支庁よりは時任大書記官以下判任数名先導し二時三十分頃出門懲役所及び同所早附木製造場より授産所を一覽あり大蔵卿には絵蠟燭等を購ひ帰られ夫より官学校并に蓬萊町女紅場等に立寄られしが何れも勿々に看過して纏て公園地に赴き同所博物館を一覽されしが列品の中には支那貿易に輸出すべき物品も多くあり且つ排列の体裁も頗る好しとの旨香港太守の咄されたるよし夫より場を出て……	函新
8月4日	公告/函館仮博物館之儀毎月第一第三月之月曜日ハ陳列物品修正ノ為メ閉場候条此旨廣告ス 明治十二年七月十日 函館支庁勸業係	函新
9月7日	公告にもある通り現今悪疫流行の折柄なれば公園内仮博物館も当分縦覧を差止られました	函新
	公告/悪疫流行之際二付函館仮博物館当分縦覧ヲ禁止候条此旨廣告ス 明治十二年九月五日 勸業係	函新
9月9日	公告/悪疫流行之際二付函館仮博物館当分縦覧ヲ禁止候条此旨廣告ス 明治十二年九月五日 勸業係	函新
10月8日	虎列拉の為め暫く止んで居た公園内仮博物館も来る十一日より平常の通り縦覧を差許されます尚悉しくは公告欄内を五覽	函新
	公告/悪疫流行ノ為メ当地仮博物館縦覧差止置候処病勢撲滅ノ景況二付來ル十一日ヨリ平常之通縦覧差許候此旨廣告ス 但當分午前九時開場午後四時閉場トス 十二年十月七日 函館支庁勸業係	函新
11月1日	伊太利亚国の皇族ゼノワ殿下の乗組れたるヴェトルピサ二号は一昨々日午後六時半ごろ浦潮斯徳より入港翌日を以て定例の祝砲を發し同日は午前十時支庁長時任大書記官同艦を訪問せらる昨三十一日は午前十一時より皇族副艦長外一名と与に支庁へ參られ……時任君は皇族其他を谷地頭の公園地へ案内せらるる……	函新
	又皇族には此日公園内なる博物館を一覽せらるる折当道に産出する繭並びに生糸等は殊更に意を加へて丁寧に覽終られ大ひに其品位の精良なるを賞讃し且つ蚕卵紙をも一覽せられたき旨望まれしかど折悪く該場には無論当地に於て即席覽に供すべき物なかりしかば已を得ず右は明日七重試験場より取寄せて供すべき旨を陳述したりと斯く殿下は皇族の身に在しながら其自国の交易上に大關係ある物産等に至りては輕易に之を看過されず深切に意を加へらるるこそ実に感服に堪ざる次第なり	函新
11月28日	公告にある通り公園内仮博物館も来る十二月一日より来春雪消に至る迄閉場になります	函新
	公告/当地仮博物館來ル十二月一日ヨリ来春消雪佳季ニ至ル迄閉場候条此旨廣告ス 但来春開場ノ日限ハ臨機廣告スベシ 明治十二年十一月二十六日 函館支庁勸業係	函新
11月30日	公告/当地仮博物館來ル十二月一日ヨリ来春消雪佳季ニ至ル迄閉場候条此旨廣告ス 但来春開場ノ日限ハ臨機廣告スベシ 明治十二年十一月二十六日 函館支庁勸業係	函新
12月2日	公告/当地仮博物館來ル十二月一日ヨリ来春消雪佳季ニ至ル迄閉場候条此旨廣告ス 但来春開場ノ日限ハ臨機廣告スベシ 明治十二年十一月二十六日 函館支庁勸業係	函新
12月4日	公告/当地仮博物館來ル十二月十一日ヨリ来春消雪佳季ニ至ル迄閉場候条此旨廣告ス 但来春開場ノ日限ハ臨機廣告スベシ 明治十二年十一月二十六日 函館支庁勸業係	函新
12月6日	公告/当地仮博物館來ル十二月十一日ヨリ来春消雪佳季ニ至ル迄閉場候条此旨廣告ス 但来春開場ノ日限ハ臨機廣告スベシ 明治十二年十一月二十六日 函館支庁勸業係	函新

明治13年

月 日	内 容	新聞
1月31日	本港在留英商トウマス、ブレキストン氏が多年の間に集めたる剥製の鳥類一千三百三十八羽を当仮博物館へ寄贈したる事は予て本紙に掲載したりしが今度開拓長官より右の報酬として北海道実測図を贈与せられたりとぞ	函新
2月16日	官令ノ甲第一号 博物館列品触手縦覧望ミノ者ハ内国人民ニ限り開館式日ノ外特別縦覧差許シ候条此旨布■候事■シ縦覧順序ハ博物館ニ於テ相定ムル條款ニ拠ルベシ 明治十三年一月二十六日 内務卿伊藤博文	函新
3月18日	公告にもある如く公園内の博物館も又昨日より開場になりました	函新
	公告ノ当函館仮博物館本日ヨリ開場午前十時ヨリ午後四時迄従前之通縦覧差免候条此旨廣告ス 明治十三年三月十七日 函館支庁勸業係	函新
3月21日	公告ノ当函館仮博物館本日ヨリ開場午前十時ヨリ午後四時迄従前之通縦覧差免候条此旨廣告ス 明治十三年三月十七日 函館支庁勸業係	函新
	公告ノ当地仮博物館来ル四月一日ヨリ縦覧券ヲ発行シ内外人一般左之手続ニ依ル可シ此旨廣告ス 明治十三年三月 函館支庁勸業係 一縦覧券ハ博物館外ニテ売渡候条縦覧人ハ必該券ヲ買受監守人工渡シ縦覧スヘシ 但縦覧券ハ一人一枚ニ限ル尤十歳未満ノモノハ該券ヲ要セス 一縦覧心得方ハ従前該場外掲示ノ通りタルヘシ 一閉場ハ毎月月曜日タルヘシ	函新
3月24日	公告ノ当函館仮博物館本日ヨリ開場午前十時ヨリ午後四時迄従前之通縦覧差免候条此旨廣告ス 明治十三年三月十七日 函館支庁勸業係	函新
	公告ノ当地仮博物館来ル四月一日ヨリ縦覧券ヲ発行シ内外人一般左之手続ニ依ル可シ此旨廣告ス 明治十三年三月 函館支庁勸業係 一縦覧券ハ博物館外ニテ売渡候条縦覧人ハ必該券ヲ買受監守人工渡シ縦覧スヘシ 但縦覧券ハ一人一枚ニ限ル尤十歳未満ノモノハ該券ヲ要セス 一縦覧心得方ハ従前該場外掲示ノ通りタルヘシ 一閉場ハ毎月月曜日タルヘシ	函新
4月5日	公告ノ当地仮博物館来ル四月一日ヨリ縦覧券ヲ発行シ内外人一般左之手続ニ依ル可シ此旨廣告ス 明治十三年三月 函館支庁勸業係 一縦覧券ハ博物館外ニテ売渡候条縦覧人ハ必該券ヲ買受監守人工渡シ縦覧スヘシ 但縦覧券ハ一人一枚ニ限ル尤十歳未満ノモノハ該券ヲ要セス 一縦覧心得方ハ従前該場外掲示ノ通りタルヘシ 一閉場ハ毎月月曜日タルヘシ	函新
	公告ノ当函館仮博物館本日ヨリ開場午前十時ヨリ午後四時迄従前之通縦覧差免候条此旨廣告ス 明治十三年三月十七日 函館支庁勸業係	函新
4月8日	公園内仮博物館の開閉時限は一昨日より午前十時開場午後五時閉場と改正成りました	函新
	公告ノ当地仮博物館開閉時限本日ヨリ左之通り改正候条此旨廣告ス 十三年四月六日 函館支庁勸業係 午前十時開場午後五時閉場	函新
4月11日	公告ノ当函館仮博物館本日ヨリ開場午前十時ヨリ午後四時迄従前之通縦覧差免候条此旨廣告ス 明治十三年三月十七日 函館支庁勸業係	函新
	公告ノ当地仮博物館開閉時限本日ヨリ左之通り改正候条此旨廣告ス 十三年四月六日 函館支庁勸業係 午前十時開場午後五時閉場	函新
7月7日	昨日午後二時仏国軍艦テミス号よりアドミラルデウベレー氏及び船長アルキー氏外一名が答礼の為参庁され退庁後一同日比野五等属が随行にて公園内博物館へ行かれし由又……	函新
7月15日	百聞一見に及かず況んや凡百の品物を集めて一場に目知す博覧会は是れ知識を求むるの宝山なるべし当地公園内仮博物館三月以来縦覧人員を調査せしを聞くに三月中千四百三十四人四月中四千七百三十人券料二十三円六拾五銭外に十歳未満にして縦覧券を要せざる人員八百十人五月中七千八百五十八人券料三十九円二十九銭外に十歳未満の者千三百九十九人六月中四千七百四十六人券料二十三円七拾三銭外に六百十人総計二万五千八百八十六人内外国人三十四人なりと	函新

明治13年

月 日	内 容	新聞
7月21日	青森県弘前に於て来る八月十一日より同二十五日まで博覧会を開設するに付当地公園内博物館陳列品の内借用の爲め会員菊地三郎といふ人が此程出立し直ちに同場へ参観に行きよし	函新
7月27日	東京大学理学部御雇教師ホイットマン氏は過日より当港へ来られ日々公園内仮博物館へ出張せられ又北海道鳥類貝類等も蒐集し居らると	函新
7月31日	一昨日入港の魯国軍艦ナエツドニツク号には少将アスラムペーゴフ艦長リウテナント、カラダスラス士官及び見習ひ士官二十四名水兵百九十一名乗組み去二十六日横浜を抜錨したるにて本港に四日程碇泊の上浦潮港へ向け出帆の由右は昨年新造したる者にて日本へ来航せしは今度初めてなりといふ	函新
	右少将と艦長は御用係東虎雄氏が随行にて昨日公園地博物館等を馬車にて見物に行かれたるよし	函新
8月16日	七月中当公園内仮博物館縦覧人員の調べるに男女合して四千百一人内外国人五十五人此の券料二十円五十銭五厘外に十歳未満五百五十九人内外国人九人無券料五人であります	函新
9月5日	伊国皇族ゼノワ殿下には一昨日当支庁に尋問せられ榎本海軍卿時任大書記官の両君に外事係より長岡、章の両氏が陪従し公園地博物館等を巡覧せられ夫より谷地頭朝田楼へ参られ……	函新
10月19日	公園内仮博物館は本日より午前十時開場午後四時閉場と極りました	函新
	公告／当地公園内仮博物館本日ヨリ午前十時二開キ午後四時閉場ス此旨広告候也 十三年十月十九日 函館支庁勸業係	函新
10月21日	公告／当地公園内仮博物館本日ヨリ午前十時二開キ午後四時閉場ス此旨広告候也 十三年十月十九日 函館支庁勸業係	函新
12月18日	広告にもある通り函館公園地内仮博物館も来る二十日より来春の雪消まで閉場に成ります	函新
	公告／函館公園地内仮博物館本月二十日より来春雪消マデ閉場候此旨廣告ス 但来春開場之節ハ更ニ廣告スヘシ 十三年十二月十六日 函館支庁勸業係	函新
12月22日	公告／函館公園地内仮博物館本月二十日より来春雪消マデ閉場候此旨廣告ス 但来春開場之節ハ更ニ廣告スヘシ 十三年十二月十六日 函館支庁勸業係	函新

明治14年

月 日	内 容	新聞
4月14日	公園地内の博物館も明十五日より開場し従前の通り縦覧を許さるよし又た兼て討とりたる野猪も剥製にして陳列されると云ば当道の人には随分珍らしき観物なるべし	函新
5月6日	昨日は旧暦の四月八日に付き例の通り函館山葉師参詣の老若男女は朝から続々引続きしが当日は生憎烈風にて寒さも最と強かりし為めか登山の男女は中頃より大いに減少し例年の半数程なりしと……此日公園内博物館の縦覧人は千七百四十人余ありたる由	函新
7月13日	当道御巡行の節札幌にて臨御を願はるる場所は……函館にては支庁、公園地、博物館、燧木製造所、造船所、仮製鉄器械所等へ臨御遊ばせらるる旨其筋へ電報ありし由なるが五稜郭は陸軍省の所轄ゆえ同省より願はるべしといふ	函新
10月2日	奥羽地方に最も多く産する通草といふ草は当道にも稀に見受くるものなれど其実を結びたる事は嘗てあらざるゆえ土着のものは堂いふ形ちのものか更に知らざるものが多い由にて右は全く当道の如き寒地に産せざるものと信じ居りし処此ほど当庁地理係の官吏某氏が不図函館山にて右の実を見出し余り珍らしき事に付右を三顆だけ持来りてアルコールに漬け之を当博物館へ差出されしといふ	函新
10月20日	今日の公告にもある通り公園内仮博物館は本日より午前十時開場午後四時閉場と定められました	函新
	公告／公園内仮博物館十月二十日ヨリ午前十時開場午後四時閉場ス 十四年十月二十日 函館支庁勸業係	函新
10月22日	公告／公園内仮博物館十月二十日ヨリ午前十時開場午後四時閉場ス 十四年十月二十日 函館支庁勸業係	函新
10月24日	公告／公園内仮博物館十月二十日ヨリ午前十時開場午後四時閉場ス 十四年十月二十日 函館支庁勸業係	函新

市立函館博物館友の会：市立函館博物館新聞記事目録

明治15年

月 日	内 容	新聞
1月14日	奇鶏 此間室蘭より四足の鶏を持ち来りしものありしが惜しいかな船中にて終ひ死したるが昨日其俣を当勸業係へ差出したるを見るに四足並行し毛色純白にして二三才位の雄鶏にて中々奇なるもの由因て右を剥製となして当博物館へ陳列せらるべしと聞けり	函新
3月14日	管理替へ 廃使置県に就て……七重試験場札幌育種場製煉場博物館製網所製鉄所農学校同校附属校舎等は一切惣て農商務省にて何れも管理することになり夫々残務取扱所と打合せ其場所事務悉皆請取べきやう去八日太政官より達されしとぞ右之外も不日発表相なるべしといふ	函新
4月6日	公園内博物館 同場は本日より従前の通り縦覧を差許されます	函新
5月26日	一異事 頃日公園博物館へ先頃新聞に記せし横山氏の門下故亀井氏の古人物油画を縦覧に赴かれし去人が油絵縦覧の序不斗心付たりとて寄せられし一報に先頃彼の亀井氏の師たる横山松三郎氏が当港へ来遊の時なりとぞ二三の友と同博物館に於て陳列中の一砥石を熟視され稍ありて話さる様此石は其質石版石といふ石画を彫刻する台石に能く似たる様に見受しが試験したきにも硝酸が持合せざる故真偽を判然することの得ぬは遺憾ながら之に硝酸を注ぎて沸騰させなば直ちに判然すべきものと物語られしよし該石は札幌県後志国古宇郡宇「シラツタリ」の産なりといふ美術に老たる松三郎氏の眼にて認められ能く似たりとの事なれば間違に試験されずとも違もあるべき様ならねと志あるものは硝酸を以て試験なせばいよいよ判然してあらはれ砥石にして置よりは石画を彫刻の台石となせば至極結構なる事なるべしとの寄書ありたり然し硝酸をやたら注ぎたりとて其元來石画台石の質を心得あるものならねば詮なかるべきに同氏滞在中試験せざりしこそ遺憾にこそ	函新
7月15日	鯨骨の塊 北海道にて鯨漁の期節に至れば鯨の網にかかり又は捕洩れて海中に死するもの幾千万と無く皆腐爛して骨のみ残りて自然海水に洒され波の間に揺らるもの遂ひに結合して一の骨塊と成り折節海浜に漂ひ着くに色は純白にして形は大小一様ならず多く円形なる由鯨漁場には何れにも稀れに漂着すれども西海岸中後志国久遠太櫓瀬棚辺には折々漂着すといふ固より本道にては誰も知る所にして敢て珍らしきにあらざれど内地にては右様のものは嘗て見聞せざるものなるべし是を以ても鯨漁の盛んなるは勿論其海産の饒多なるは推して知るべきなり先きに弊社主伊藤が江差地方巡回の砌り或人より右鯨の骨塊をば函館博物館に出品せん事を謀られしに付伊藤は仮令当道には珍らしからずとも該博物館には未だ陳列せざるを以て然る可き旨を答へしに然らば後より弊社へ送致すべしとの約束にて歸社せしが弥々此程該地より送付なりしを見るに形は楕円にして堅三寸横二寸四分厚さ一寸五分あり是は滋賀県平民当時檜山郡九艘川町大橋宇兵衛方寄留辻寿次郎といふ人が去る五月上旬ごろ後志国久遠郡湯ノ尻村前浜に於て拾ひ上しものにて右の如き大きさの骨塊は甚だ稀にして多く得難きものなりとぞ因て前約の通り弊社より取敢ず当博物館へ出品致したるが実に奇なるものといふべし	函新
8月4日	博物館陳列品 同場へ古しへ幕吏近藤重蔵が千島へ出張せし時建をさし国界杭及び土人用の獣皮にて製作せしパイダルカといふ舟及び海馬等今度新たに陳列になりたり	函新
8月28日	鯨骨の塊 七百十一号の当新聞に委數記せし弊社主伊藤が江差巡回の砌去人より当博物館へ陳列の依頼ありて其後送致ありしかば社主より取敢ず出品せし鯨骨の塊は当道では左迄珍らしきにもあらぬが内地では珍しき事と見へ東京各新聞にも抜萃されしが右骨の塊をば尚ほ江差夏原律太郎氏より一個送致ありしに以前出品の分を試験の為此程当勸業課にて中央より切断ツて其中を改められしに思ふに違はず外面同様悉く晒せし骨より組織したるものにて骨の塊りし物たるは疑ふ様もなし只だ聊か鯨の臭ひあると内面丈晒しの甲斐なきゆへ能く視るとまだ肉が聊か骨に付てある様に見受たりとぞ	函新

明治16年

月 日	内 容	新聞
4月12日	博物館 公園内博物館は雪中閉場のところ本月十一日より従來の通り縦覧を許されます	函新
	公告／公園地内仮博物館積雪中閉場ノ処本月十一日ヨリ縦覧差許候事 十六年四月 函館県勸業課	函新
4月14日	公告／公園地内仮博物館積雪中閉場ノ処本月十一日ヨリ縦覧差許候事 十六年四月 函館県勸業課	函新
4月16日	公告／公園地内仮博物館積雪中閉場ノ処本月十一日ヨリ縦覧差許候事 十六年四月 函館県勸業課	函新
6月9日	農商務大輔の一行 品川農商務大輔藤波侍從堤宮内大書記官の一行には時任県令有竹大書記官と共に一昨日馬車にて高砂町器械製造所及び監獄署女紅場公園地を巡視せられ同博物館にて暫時休息あり午後五時頃より谷地頭浅田楼において……	函新

明治17年

月 日	内 容	新聞
1月20日	博物館縦覧人 昨十六年一月より十二月まで函館仮博物館縦覧人員は内国人三万七千七百五十二人外国人二百九人十歳未満無券人四千二百六十六人合計三万六千二百二十七人又縦覧券料は百五十九円八十銭同売捌手数料三十一円九十六銭一厘なり	函新
3月1日	むささび 茅部郡臼尻村官林内字垣の島に於いて異獣一頭を捕獲したりとて同村小川幸一郎より当博物館へ出品したき旨にて去月二十七日差越したるを見し人の物語るに則ち鼯鼠といふものにて顔は木鼠形は蝙蝠に似たり背部の色は灰褐色にて腹は白し尾は平らにして膜を張り之を張れば七寸に及ぶ此獣たる当博物館に是まで陳列なかりしゆへ一入珍らしとて堀少書記官にも一見あり同官にも古歌には「月はなほ高間の山の梢よりあかつき落るむささびの声（草庵集）などありて其名は聞しが目前見るは始めてなりとて珍重ありしよし因て早速剥製にされしと云	函新
4月8日	開館 当公園内博物館は今日より開館され例年の通り縦覧を許されます	函新
5月4日	縦覧人 当公園内博物館昨日の縦覧人は千四百三十人余なりしといふ	函新
6月17日	風帆船の雛形 神奈川県下神奈川駅にて世に有名なる白峯造船所の持主白峯駿馬氏は函館港に商船学校の設立あるを伝聞し海員奨励の一端にとて今度寄造されし西洋形風帆船雛形は多年同氏が造船上に関し刻苦研究して模造したるものにて去十四年中に開かれし第一回内国博覧会の出品に係るものなるが実に我国一あつて二とはあらざる希代の品にて大に海員の参考となるべきものなり即ち船名は春風丸と称しバーク型風帆船にて横腹は鈍形大さ凡六百噸の二十四分一用材は楠材とし船敷（船底板）の長さ五尺六寸巾一尺三寸樁三本帆数二十一枚にて雛型とはいふものの都て一点遺るところなく実に抛り製造したるものにて其精細なる真に鬼工を奪ふとも云ふべく先ず……去は海員の学問上には尤も入用の雛型とす之が制作費は凡三千余円を費したりといふ白峯氏が此の心力と歳月と金とを費して構造したるものを商船学校へ寄送ありしは実に志しの厚き感賞の外なし尚ほ同氏が多年造船に尽力ありし履歴等は追て記載すべし	函新
6月19日	巡視 安場議官芳川内務少輔西大書記官橋本内務少書記官には時任県令同行にて昨日午後より監獄署西川町昆布製造所公園博物館等を巡視ありしと	函新
7月29日	第二博物館 当公園内に新築されし第二博物館は弥々近日中に開館さるよしなり	函新
8月10日	第二博物館 当公園内に新築成りし第二博物館はいよいよ明十一日午前十時開場式を挙行され引続いて一般の縦覧を差許されます	函新
8月12日	第二博物館開場式 公園内第二博物館開場式は昨午前十時執行され堀少書記官山内警部長二木勸業課長石井出納課長村尾庶務課長金田警察署長其他県官数名公園世話係渡辺熊四郎今井市右衛門平田文右衛門浅田清次郎菊地次郎衛門諸氏出席し弊社伊藤も席末に列せしが式場は同場玄関前に開き堀少書記官は県令代理に臨席せしむの演述あり県令の祝詞は村尾三等属代読あり次に勸業課長二木一等属答詞を朗読す了て場内縦覧ありしと建物は表間口七間半に奥行四間半外に玄関四坪にて建築頗る法にかなひ光線の反射もよく陳列品を見るに便なり列品は千島国及び東察加土人の衣類漁具雑具は殊に珍らしく又東京の北海道海産物取扱所の雛形及び風帆船の雛形白峯丸又海馬等は尤も人の注目を促すに足るべく其他凡そ四百品余りありて陳列もよく整頓せり右縦覧了り協同館にて休憩あり麦酒水菓子等を饗されたりとぞ	函新
10月22日	旧蝦夷土人図 印度博物館の主任なる英人ドクトル、アルデルソン氏は本邦へ来遊ありて各地を歴観し且つ参考ともなるべき図等は兼ねて摸写等の特許を得しかばさきに函館へ来遊ありし際当公園内の仮博物館に至り巡覧の際不図故人絵馬屋某が写せし蝦夷土人の図を見て頗る珍らしく思い之が一本を摸写したしと官に乞ひ沢田雪溪氏が描写を引受られしが此程都合五頁共悉皆写し終りたり素より旧土人絵には有名なりし絵馬屋丈ありて頗る人物器具等には注意したるは臨写にあたり大に感心したりと雪溪氏の物語りなるが今同氏の写図を見るに更に樹木山水等を同氏が得意の筆意を以て精密に描き出せしかば一層風致を添へ原本に勝りたるは定めし依嘱の英人も之を見れば手を拍て賞賛することならん	函新

明治18年

月 日	内 容	新聞
1月14日	縦覧人 昨年一月より十二月まで函館公園内博物館の縦覧人は惣三万三千八百七十四人（内百五十二人は外国人）縦覧券の売高は金百四十一円五十七銭五厘なりといふ尤も十歳以下の子供は無見料なり	函新
2月6日	縦覧人 本年一月中公園内博物館の縦覧人は内国人七十一人なりといふ	函新
3月6日	博物館縦覧 去る二月中公園内博物館縦覧券料収入は五十四銭（一名につき五厘）にして縦覧人は内国人百八名外に十才未満無見料のもの四名なりといふ	函新
4月7日	博物館開場 函館公園内博物館は雪中閉場してありしが弥々今日より開場されます	函新

市立函館博物館友の会：市立函館博物館新聞記事目録

明治18年

月 日	内 容	新聞
4月18日	豹熊猿の剥製 昨年秋ごろ印度博物館長ドクトル、アンドルフンシ氏が当地へ来たり当公園内博物館を縦覧の折陳列品の内熊鹿狼の三種の頭骨を見て之を所望されしに付き之を同氏に贈付されしところ今度其の返礼として豹並びに熊の一種猿の一種の剥製及び全体骨各々一個動物書一冊を当県へ贈られし由にて一昨日入港の兵庫丸にて東京より到着したり右は不日当博物館に出陳さるといふ	函新
5月23日	山駆の景況 昨二十日は旧曆四月八日に当り例年山駆即ち菜師参りの日なりしが……扱又山より帰路なる谷地頭公園は午後より追々集り来り随つて……	函新
	又 県庁の各課各員の方々にも一同登山されたり又同日谷地公園は下山の人々にて殊に賑はしく博物館縦覧の人々は千七百余人ありしといふ	函新
6月7日	博物館縦覧 公園博物館にて去五月中頃たれし縦覧券は五千二百七十五枚にて此金二十六円三十七銭五厘(一枚五厘)内訳二十六円三十一銭内国人五千二百六十二人、金六銭五厘外国人十三人なり無券料のもの八百八十一人(十歳未満)無券のもの七人なり総計縦覧の人員は六千六十三人なり	函新
6月20日	狸々外二種の陳列 先般英領印度カルコツタ博物館長ドクトル、アンデルソン氏より当県へ寄贈されたる狸々豹外一種の剥製は弥々来る二十三日より公園内博物館に陳列し縦覧せしめらるるよし右狸々は洋名セシヤ、サテラと云ひ熱帯地方即ちボルネー及びスマタラ諸島の海岸近き溪谷又は山林中に棲息し樹の枝を集めて小屋を造り之に群居す偶々行人の其の近傍を過ぐるを視れば棒などを掲げ来りて打て掛ることあり其の大いなるものは長四尺三四寸に及ぶあり右陳列のものは其の中なるものなりといふ豹は洋名フユリス、レヲバルドスと称す又外一種はアルクチクチス、ビンハロング(和名無し)といふ動物にて其の体熊に似て尾長く且つ力ありて尾の端を樹の枝に巻附けて実を採り食ふといふ何れも珍らしき動物なり	函新
11月6日	博物館縦覧人及同券料 去月中公園内博物館の縦覧人は内国人二千五百七十七人此縦覧券料十二円八十八銭五厘外国人八人此券料四銭合計金十二円九十二銭五厘外に十歳未満にて無見料のもの六百二人なりといふ	函新
12月1日	博物館 当公園内第一第二博物館は最早や冬季に差向ひしゆえ例年の通り本月一日より閉場されます尤も篤志者にて特に縦覧を乞ふ者には裏口より臨時縦覧を許さるる筈なり	函新

明治19年

月 日	内 容	新聞
4月3日	博物館 公園内博物館は本日より開場毎日午前十時より午後五時まで縦覧勝手次第	函新
4月8日	縦覧人 一昨六日は旧上巳の節句に当り殊に当日は天気も麗かにて公園遊歩の雅人俗客も中々夥しき事にて当日博物館縦覧の人員は男女とも凡そ五百人余ありしといふ	函新
5月12日	博物館縦覧人 昨日公園内博物館の縦覧人は凡そ千八百人余ありしと云ふ	函新
12月24日	博物館 当公園内の博物館は去る十九日より来春雪消えの候まで閉場されたり尤も特に縦覧を乞ふものには何時にても許さるといふ	函新

明治20年

月 日	内 容	新聞
3月9日	博物館 当公園内博物館は去る六日函館区役所へ委任されしといふ	函新
7月16日	博物館縦覧人 本年は公園内に遊歩するものは至つて少なく随て博物館縦覧人も昨十九年より其数を減じたり昨十九日の一月一日より同六月三十日迄縦覧人は二万六千六百六十七人なりしも本年一月より六月三十日迄は一万四千九百九十八人にして七千四百六十九人の減員ありと云	函新
10月21日	博物館 公園内博物館開閉時間は本日より午前九時開場午後二時閉場と改定されたり	函新
12月18日	博物館閉場 当博物館は是迄午前九時開場午後四時閉場の処降雪の季に際し學術研究者の外は別に縦覧申出のもの無之に付来年消雪の項迄閉場せられました併し有志の縦覧は同場事務所へ申出づれば許可せられます本日(12月18日)の広告を御覧	函新
	公告／公告 本日ヨリ当分之内当公園内博物館ヲ閉ツ 但縦覧ノ義ハ同場事務所へ申出許可ヲ受クベシ 明治二十年十二月十八日 函館区役所	函新

明治21年

月 日	内 容	新聞
3月31日	博物館 公園内博物館は来る四月一日より縦覧を許されます但し開場午前十時閉場午後五時なり	函新
5月29日	旧暦四月十七日 去二十七日は旧暦四月十七日山掛け観音祭参の当日なりしが例年はこの日の山掛けは四月八日など人出の少なきが常なるに今年は四月八日が雨にて破れし上この日はまた近來になき好天気別て日曜休日にも当りしかば市在より出し老幼男女は朝から陸続と登山したり山の賑ひも大方ならず午後より谷地頭公園へ下山の人々相集まりしほどにここも又非常の賑ひにて谷地頭各料理店は客をことほり公園のさくら餅はペロリと売つくし博物館へは凡そ二千人余も入場し開館以來無比の縦覧者なりしといへり……	函新
10月24日	同第三十六回 函館区の内外に見物すべき処は函館山（一名薬師山）の絶頂に上りて港内市中を一望するを第一の壯観とす市中は路幅広きも坂路の上下には難儀なり町会所は構造甚た大なり楼上五六十坪の広間は絨段を敷詰めランプを釣上げ如何なる宴会も演説も舞踏も催すべし楼下は畳敷三間あり其他玉突場洋食場等あり又書籍館もあれど見るべき典籍は少し公園は市中の東南にあり博物館は本道の産物を陳列し水産陸産の両館に分つ公園の南を谷地頭といふ函館山の東面を負ひて外海に臨み閑静の地なり山根にそひて別荘割烹店多し又温泉湧出づ……	函新
10月27日	博物館開閉時間 当公園内博物館は今日より午前十時開場午後四時閉場と改正されたり	函新
10月28日	広告／広告第一九号 函館公園内博物館開閉時間本月二十七日ヨリ午前十時開場午後四時閉場ス 明治二十一年十月二十七日 函館区役所	函新
10月30日	広告／広告第一九号 函館公園内博物館開閉時間本月二十七日ヨリ午前十時開場午後四時閉場ス 明治二十一年十月二十七日 函館区役所	函新
12月4日	閉場 最早雪の時節となりしに付き当公園内博物館は臨時縦覧を除くの外来る十五日より当分の内閉場されます 広告／公告 来十五日ヨリ当分ノ間当公園内博物館ヲ閉ヅ 但臨時縦覧ノ義ハ同場事務所へ申出ヘシ 明治二十一年十二月四日 函館区役所	函新 函新

明治22年

月 日	内 容	新聞
1月20日	博物館縦覧人 昨年四月より十二月に至る当公園内博物館縦覧人員表を見るに開場月数九ヶ月同日数二百二十一日休場三十七日縦覧総人員三万九千八百十五人（内無券人員四千五百十六人内国通券収入人員三万四千九百九十九人外国通券人員三百人）券料高百七十六円四十九銭五厘（縦覧券一人一枚代金五厘）外に一月より三月三十一日迄及び十二月十五日より同三十一日まで閉場中縦覧人員は五百七十七人（内国人五百七十七人外国人二人無券人八人）券料二円五十四銭五厘なり今縦覧人員を月別に掲ぐれば左の通り 四月 九千三百十八人、五月 八千七百四十一人、六月 四千四百二十六人、七月 三千四百人、八月 五千三百七十四人、九月 三千四百六十五人、十月 二千八百七十二人、十一月 千九百六十六人、十二月 二百五十三人	函新
4月25日	公園の博物館 本年はとかく時候不順にて兩三日引つづきたる天気といふは稀れなるため公園博物館の縦覧者は例年より不足にて昨日頃までに一日六百人縦覧の日は最多なりしよし甚だしき日は二三人より皆無の事もありたりとかこれから追々に縦覧人もある事なるべし	函新
6月12日	水産物陳列場 第二博物館脇の空地へ新たに水産物の陳列場を設置せんと過日道庁水産課長伊藤一隆氏が来函の節実地調査せられたるよし	函新
9月10日	水産物陳列所 兼て記載したる函館公園地第二博物館脇へ建設する水産物陳列所の建物は間口六間奥行十五尺玄関は三間に二間高さは桁迄一丈七尺三寸窓数は二十五にて空気の流通其他万事に注意を加へて建築する由	函新
9月18日	博物館縦覧券調 本月十一日より十五日迄公園内博物館縦覧券料の調を聞くに券料九円八十九銭但し一枚五厘宛にて千九百五十八枚内内国人千九百四十三人外国人十五人外無券料（十才未満）百四十三人なり	函新
10月5日	博物館縦覧人員 函館博物館九月十五日より三十日までの博物館縦覧人員は内国人四千六百八十一人外国人拾一人十歳未満二百七拾人なり	函新

市立函館博物館友の会：市立函館博物館新聞記事目録

明治22年

月 日	内 容	新聞
10月25日	博物館開閉時限 追々日短かとなりしを以て公園内博物館に於ては本日より午前十時開場午後四時閉場に改めたり	函新
11月2日	博物館縦覧人数 函館博物館縦覧人員去月十六日より同三十一日迄内国人九百六十人外国人四人十才未満五十八人なり	函新
12月14日	博物館閉場 当公園内の第一第二博物館は明後十六日を以て本年は閉場するよし	函新
12月18日	博物館縦覧人員 公園地内博物館縦覧人は本月一日より十五日迄に内国人三百二十一人外国人一人十才未満一人なりと	函新

明治23年

月 日	内 容	新聞
1月7日	昨二十二年度博物館縦覧人員 昨二十二年中公園内博物館縦覧人員及び券料の取調を聞くに四月二日開場十二月十五日閉場にて其間日数二百二十一日又月曜日休場せしは三十一日間而して閉場中特別縦覧人を合せて縦覧惣人員三万五千七百七十九人なり内内国人三万二千六百六十四人外国人百十二人十才未満にて無券料二千八百六十三人又縦覧券五厘にて総計金高百六十一円五十八銭なりと年度中にて最も縦覧人の多きは五月にて其人員七千六百六十二人外国人十人無券料七百六十二人なりといふ	函新
3月23日	博物館開場 公園地内博物館は本日より開場する由又開閉時限は午前十時開館午後四時閉館なり	函新
5月18日	博物館縦覧人員 当博物館四月三十日より五月十五日までの縦覧人員は内国人三千二百二十五人外国人三人無券料四百十一人なりと	函新
5月20日	一昨日の公園 一昨日は近來稀なる好天気にて日影麗かに風そよそよと塵だに起らず陽春駘蕩の景色今日を措いて何時なるかと散歩に出掛る人々多く公園は傘影衣香粉々たりとの注進に斯る日曜に坐禪を組みしとて何の厄にも立たぬと我等も蝸廬を飛出して公園さしてぞ出て行きぬ見渡せば柳桜をこき雑せて今こそ春の錦なりけり春は都のみならず北海道にも此景色上野飛鳥は何のそのと誇つたとても法螺ならず緑陰蒼々の中桜桃李花の爛熳たるは恐らく当地の専売特許にて他処にはあらざるべし其景色を今日詠むる故菜の花に蝶と浮れ出て足に任せ目に従かひ花ある処を問ひたりけり杉浦、松岡、金二諸氏の別荘は……博物館には縦覧者いと多く第一第二各四百余名上り高も多からん……	函新
6月1日	博物館縦覧人員 五月十六日より三十日まで当博物館縦覧人員は内国人三千七百二十四人外国人七人無券料の分三百二十九人合計四千六十人なり	函新
7月2日	博物館縦覧人 公園内博物館六月十六日より同月二十九日迄の縦覧人員は内国人千五百二十二名外国人四名十歳未満無料縦覧者百十二名合計千六百三十名也	函新
7月18日	博物館縦覧人 六月三十日より七月十五日迄公園内博物館の縦覧人員は内国人千五百二十四名外国人九名無料縦覧者六十三人都合千五百九十六名なり	函新
8月2日	博物館縦覧人員 七月十六日より同三十日迄博物館縦覧人は内国人千五百五十二人外国人四十二人無券料八十五人合計千六百七十九人なり	函新
8月17日	博物館縦覧人 七月三十一日より八月十五日迄の公園地内博物館縦覧人は内国人千三百四十一人外国人二十三人無券料の分百五十二人なり	函新
8月31日	博物館縦覧人 本月十六日より同二十九日迄にて内国人八百八十一名外国人二十二名十歳未満者二十三名合計九百二十六名なりと	函新
9月17日	博物館縦覧人員 八月三十日より本月十五日迄函館博物館縦覧人員は内国人二千百三十九人外国人十人無券料の分百十一人なり	函新
10月1日	博物館縦覧人員 九月十六日より同二十九日迄函館博物館縦覧人員は内国人千二百十一人外国人二十二名無券料の分八十一人なり	函新
10月24日	博物館開閉時限 函館博物館は本日より午前九時開場午後四時閉場に改めたり	函新
12月2日	博物館縦覧人員 函館博物館十一月十六日より同二十九日迄の縦覧人員内国人六百十五人外国人四人無券料の分五十一人合計六百七十人なり	函新
12月10日	博物館閉鎖 公園内博物館は本月十一日より当分閉鎖する由	函新

明治24年

月 日	内 容	新聞
1月7日	博物館の縦覧数 当博物館にて昨年三月より十二月までの縦覧人員数を開くに開場日数二百二十二日月曜休場三十七日にして縦覧惣人員三万八千八百二十一人無券人員二千九百四十三人内国通券収入人員二万八千七百二十七人外国通券同百五十一人此券料高金百四十四円三十九銭閉場中縦覧人員内国人六百四十八人無券人員三十二人同計六百八十八人此通券料金三円三十四円開閉中合計人員三万二千五百一人内国通券二万九千三百七十五人外国通券百五十一人無券人員二千九百七十五人開閉合計有券料金百四十七円六十三銭なりと云ふ	函新
1月11日	商品標本陳列場 公園地内第二博物場は函館商業学校生徒授業上参考の商品陳列場とすることになりしにつき此程より同校の訓導は時々生徒を率い同場に就て物品調査し居るか第二博物場には商品標本と為すべき物品少き故第一博物場陳列品と彼を交換陳列の上本月中に受渡を為す見込なる由又商品標本外にして水産に属する分は公園地内に新築したる水産陳列場に送る筈なれば第一博物場の方も自ら一変することなるべし	函新
1月28日	米国博物館より寄送 米国スミソニアン博物館より外務省を経て函館書籍館へ北米合衆国博物館報告書十三卷(千八百八十九年分)第三十八号北米合衆国博物館報告一冊を寄送せり	函新
2月7日	函館博物館商品陳列所 函館商業学校長大村勵氏より函館公園内の博物館商品陳列所へ本道の水産及農工等各種の商品出陳方勧誘の儀を各郡区役所に依頼したるよし今其主旨を開くに曾て商業学校に於ては生徒授業上商品標本を大に聚集せし時幸にして続々寄贈者ありて標本稍整備せしが去る明治二十一年一朝祝融の災に罹り空しく灰燼に帰し去りたれば之れか再設につき予て計画中の処今回函館博物館に於ては建物一棟に商品標本を添へ保管の儀を商業学校に委託せしを以て此際一層広く本道の商品を聚集し整理済の上は一般の縦覧を許さば生徒の利益は勿論縦覧人の利益も多かるべく且つ商品販路の案内ともなるべきを以て専ら商品として陳列に適當なる物品を出さしむる様人民に勧誘を乞ふと云ふにあり且つ又郡区役所にて物品を取纏めたる上は其運搬費等は同校より支弁する由にて出品物には必ず品名産地産額品位時取期価格を記載すべしとなり	函新
2月27日	出品を願ひ出づ 函館商業学校商品陳列所の陳列に供せん為め後志国余市郡三井鉱山会社より鉱物高島郡手宮裡町鈴木音次郎氏より煉化同郡稲穂町多田製油所より鯨油器械油小樽郡上場町本多桂次郎氏より陶器花瓶同郡奥沢村佐藤清内氏より農産物若干を出品致し度旨此程小樽郡役所へ出願したりと云ふ	函新
3月18日	博物場縦覧人 二月二十八日より三月九日迄の函館博物場縦覧人は内国人十三名通券料六錢五厘なり	函新
4月12日	博物館 公園地内第一博物館は例年今月より開館すれとも本年は未だ館内造作手仕舞とならざれば暫く開館を見合せ落成次第開く筈なりと云ふ	函新
5月10日	博物場開館 公園地内第一博物場は先頃より内部の様替に掛り居たるか既に落成に付來る十三日より開場する由其開閉時限は午前九時開場午後五時閉場なり	函新
5月13日	区長博物場を見分す 公園地内博物場本日より開場するに付椎原区長は杉村区書記と共に昨日博物場を見分されたり又先年当港居留外人プライキストン氏の獻品に係る剥製諸鳥は從來函入とし据付たるが今度函より出して陳列することとなり以前より場内の体裁を増したり	函新
5月19日	博物場縦覧人 五月十三日より同十五日迄公園内博物場の縦覧人数は内国人二千八百二十二人十才未満の無券料分五百六十六人にして収入券料十四円十一錢なりと	函新
5月24日	陳列品寄附 汐見町畑伯春氏は播椒の幹一本及びアルコール漬飯匙蛇(九州大嶋産)を第一博物場へ寄附され又室蘭の雲丹製造者穴沢忠吾氏は雲丹二個水産陳列場に寄附せり右畑氏の寄附されたる飯匙蛇は長二尺余にして頭平に一種の寄蛇なるか琉球辺に多く産する者の由	函新
5月29日	寄付 汐見町畑伯春氏は過日アルコール漬ハヒ蛇を函館博物場に寄付されたるが之と同じく鹿児島県薩摩国黒島以南産の播椒木をも寄付されしが該木は径二寸五分位ありて木質の堅きこと櫨の如く見事のものなりとぞ	函新
5月31日	博物場縦覧人 本月十六日より二十九日迄公園内博物場縦覧人は内国人二千七百二人外国人二人無券料分三百二十九人なり	函新
6月4日	水産物陳列所 函館公園内水産物陳列所は五月十日より陳列に係り此頃略々九分廻り整理したり場内陳列は其物品によりて五部に分ち第一部は動物第二部は植物第三部は水産利用第四部は水産繁殖第五部は図書と画劃し陳列品には其産地等を詳記したり又外国品は赤日本産青北海道産は黒の輪画の札を付したり今一週間あらば悉皆陳列を終る見込同所の坪数は九十六坪なりとぞ	函新
	参観 一昨日商業学校職員生徒公園内博物場及び商品陳列所を参観せり	函新
6月17日	博物場縦覧人 五月三十日より六月十五日迄公園内博物場縦覧人数は内国人二千三百三十四人外国人一人無券料の分四百四十人にして此券料金十円六十七錢五厘なりと	函新

明治24年

月 日	内 容	新聞
6月30日	水産物陳列所 過般来より建築に着手したる同所は愈々諸工を終へて七月一日を以て開場の運びに至れり同所位置は公園地第二博物館の後に当り建築は西洋風にして間口十二間奥行六間総坪七十二場内各水産に関する者を分つて五部とし陳列整々甚宜しきを得たり今其順序を逐ふて記載すれば左の如し 第一部 水産動植物 此部は第五類に區別し第一類には軟推動物即ち魚類七棚同爬虫類即ち鼈の類一棚（第二類は未だ陳列終らず）第三類には軟体動物腹虫類即ち貝族一棚同弁認類（貝）一棚第四類は節足動物甲殻類即ち蟹の類一棚第五類には蠕形動物（海綿珊瑚類）一棚あり 第二部 水産の採捕 此部は魚類採捕に関する器具を蒐集し第六類に區別したり第一類には網器建網差網の二種数品九棚船具一棚第二類には釣具五棚船具一棚第三類には釣具一棚第四類には筍簾一棚（第五類は未だ陳列終らず）第六類には漁業上の材料品二棚あり 第三部 水産の利用 此部は肥料三棚食用品五棚工品一棚食用製造及魚油魚粕製造の用具二棚築造物一棚現今当道にて所用の器械一棚等を陳列し又鯨の沖上げより粕に製造するまでの一覽図を掲ぐ 第四部 此部は魚介一棚人工化二棚及孵化場の実景を画きたる図を掲げり此図は尽く伊藤有氏の撮写にかかる 第五部 図書 此部には水産物上に関する各国の出版書及北海道庁の撰定にかかる漁業の比較表代価表或は過去に於ける水産の現象等其他一切の図書を掲げ一見以て参考の便益あらしむ 右は順序に隨て大概を挙げたるのみ其詳細に至ては博物学者にあらざる我等一々縷述する能はず只尤も珍らしきものは第一部の白海綿にして之れは往年西洋の博物学者の来りて之れを見大に驚ろき此の如き珍物は我是まで見たることなし今に於て之れを見ると嘆息せしと云ふ外にカチトウシの鼻にて大小二ツあり大の長三尺幅三寸五分其他種々あれとも略す茲に看官の注意を要すべきは同所縦覧の時に於て何れか何国の産なるやは一寸訳り悪し故に其名称書の札に目を注ぎ青は内地産黒は北海道産赤は外国産なることを知るべし	函新
7月18日	博物場縦覧人 六月三十日より七月十五日迄公園地内博物場縦覧人員は内国人千六百八十五人外国人六人無券料者二百四十六人此券料八円四十五銭なり	函新
8月1日	博物場縦覧人 七月十六日より同三十日迄公園地博物場縦覧人左の如し 内国人三千三百四十一人外国人六人無券料二百十一人 此券料六円七十三銭五厘	函新
8月12日	陳列物献納 静岡県知事なる時任為基氏より朝鮮製の木履、汗除け、腕箱、油紙製の扇子形帽、同製煙草入、藁履大小二足函館博物館へ陳列品として献納方当地大町常野正義氏へ依頼し越したれば常野氏は区役所に差出せり又秋田県南秋田郡土崎町相染新田一番地の長谷川猷は代理片村正二郎氏より長谷川氏の発明に係る土瀝青万代石水道管一本を函館博物館に献したり尤も是には帝国理科大学教授エドモンドタイパアルス氏の試験報告訳文及アスファルト万代石使用目を添ふ又時任氏の献品紙製煙草入は一見湯葉に似たる者なり	函新
8月19日	博物場縦覧人 七月三十一日より八月十五日迄公園地内博物場縦覧人内国人千八百十四人外国人六十一人無券料分二百五十六人にして券料総計九円三十七銭五厘なり	函新
8月28日	水産物陳列場 公園内水産物陳列場は先頃より内部の普請にて閉場し居たるか落成したるに付本日の開場のよし	函新
9月1日	縦覧人員 八月十六日より三十日迄公園地内博物場縦覧人員は内国人二千四百三十二人外国人十六人無券料分二百八十八人此券料十二円二十四銭也	函新
9月16日	暴風 一昨日午後十一時頃より南風少しく勢を加へて吹すさみしか昨朝午前一時頃より益々烈しく五時に到りては非常の強風となれり之れが為め市中にて損害を受けし者すくなからず……公園内商品陳列所は玄関吹き飛され建物は風の吹込みしより多分は損所を生せり谷地頭勝田樓の風呂場……	函新
9月17日	水産物陳列所の破損 公園内なる水産物陳列所（前号に商品陳列所とせしは誤り）は前号にも記載せし如く大破を來したる事にて其模様を聞くに一昨日午前八時三十分頃の暴風は端なくも吹込み為めに大破に至りしものにて直に区書記杉村亀氏出張され人足十数名を雇ふて防禦に手を尽したるも何分暴風なれば充分に届き兼ね実地取調べの為昨日は縦覧を禁じたり何れ修繕の上ならでは開場の運びに至るまじ	函新
9月18日	博物場縦覧人員 八月三十一日より九月十五日迄公園地内博物場縦覧人員内国人千四百八十六人外国人十三人無券料分百二十六人にして此券料七円四十九銭五厘なり	函新
10月1日	博物場縦覧人 九月一日より同二十九日迄の函館公園内博物場縦覧人員は内国人千四百九十人外国人五十六人無券料分百十六人にして収入券料七円七十三銭なりと	函新
10月17日	博物場縦覧人員 九月三十日より十月十五日迄公園地内博物場縦覧人員は内国人千九百八十八人外国人二十二二人無券料分百三十五人此券料十円五銭なり	函新

明治24年

月 日	内 容	新聞
10月25日	開閉時限の更定 公園地内博物館は本日より午前九時開場午後四時閉場に改む 広告／青柳町博物館本月二十五日より午前九時開場午後四時閉場ス 明治二十四年十月 函館区役所	函新 函新
10月28日	回天の鑑砲 己巳の役暗霧霰霰の中に自焚したる回天艦の大砲四門は幾年の間空しく海岸の土中に埋没し同艦の船具は英人ブラキトン氏が買受けたるも其後同砲の埋没しある場所は三菱会社が建築を起したるに依り今の船場町なる金森倉庫の横なる傍に地上に掘起し或は埋没しありて道路修繕の時なども甚た不都合なれとも如何せん重大の物なれば其俣に打捨て置きしも近頃に至公園地へ運搬して当年の記念となさんと目論見し人もありしが何しろ持主の承諾を受けねは詮方なき故幸ひ納代東平氏は同持主プライキトンの跡を引受け居る当時富岡町居留ヘンソン氏に談したる処同氏も快よく引受け寄附すへしとの事なるが只之れを公園地に運搬するに当りては多額の入費を要することなれば区役所へ出入する土木請取方の諸氏或は荷物取扱運送方の諸氏に労力の寄附を得るならば宜しかるべしと言ふ人もありたり	函新
10月29日	大砲の寄附 旧回天艦の大砲をヘンソン氏に寄附することになりたる趣は前号にも記せしが同氏は愈々昨日左の書状を区長に送り同大砲を寄附されたり 函館千八百九十一年 曾我部函館区長貴下 小生所属の古大砲当地公園内に陳列の義貴下御所望の由承り右は小生に於て欣然献品致候尤も該砲は悉皆六門可有之処五個及び砲台のみ存在致居候哉に相心得居候右得貴意候拜具 ジョン、ヘンソン 又納代東平氏は此事に就て奔走尽力されしか郵便会社荷物運搬受負瀧野善三郎氏は同社建築工事の際右の大砲を海中より陸上けしたる縁もあり旁々昨日の本社新聞の記事を一覧し例の義侠心より船場町にある右大砲は公園地迄自分手雇人夫一手を以て運搬すへしと納代氏に申込みたる由依て不日据置の位地を見定めたる上運搬するといふ	函新
11月1日	博物館縦覧人員 十月十六日より三十日迄公園博物館縦覧人員は内国人千四百八十一人外国人三人無券料分七十四人にして収入券料七円四十二銭なり	函新
11月3日	広告／広告第五一号 一青柳町公園内水産陳列場修繕工事 此入札保証金四十五円 右修繕工事請負望ノ者ハ当区役所ニ就キ工事請負手続及ヒ契約書案仕様書絵図面ヲ熟覽シ尚現場詳知ノ上本月十六日午前十時入札保証金相添入札書差出スベシ 同日午前十時半開札ス 此契約ハ函館区長曾我部道夫担任ス 明治二十四年十一月一日 函館区役所	函新
11月5日	広告／広告第五一号 一青柳町公園内水産陳列場修繕工事 此入札保証金四十五円 右修繕工事請負望ノ者ハ当区役所ニ就キ工事請負手続及ヒ契約書案仕様書絵図面ヲ熟覽シ尚現場詳知ノ上本月十六日午前十時入札保証金相添入札書差出スベシ 同日午前十時半開札ス 此契約ハ函館区長曾我部道夫担任ス 明治二十四年十一月一日 函館区役所	函新
11月18日	公園内博物館縦覧人 去月三十一日より本月十五日までの縦覧人の数は内国人千五百七十人にして無券料十五才未満の者百三十三人なりと云ふ	函新
11月25日	奇魚 胆振国勇払郡覚生村漁業家相沢某か去月三十日白老郡白老村字前浜へ出漁中網に入りて捕獲せし奇魚は全く異態のものにて魚類か虫類かは判明せざるものなれとも細長くして殆んど長虫の如く二尺に余り頭二ツにて眼は四ツ鱗六枚にて尾の外に漆黒色の針八寸余あり此針にて遊遊を助くるとのことなり同地の古老とも斯る奇魚は何と云ふものにや未だ見たことのない物なりとて大評判になり近村よりは我も我もと見に行くもの多く同氏は江湖人に広く見せたしとて乾燥とし函館博物館陳列所へ寄贈せんと目下其計画中なりと聞く	函新
12月30日	博物館閉場 公園内博物館は一昨日を以て閉場せり来春は雪消の候に至り開場すると云ふ	函新

明治42年

月 日	内 容	新聞
8月15日	北海道を何う観たか 佐渡新聞社長森知幾氏の談 近者、北海道視察と云ふことが官民を通じての流行・と云ふと語弊があるか兎に角流行して居る、先づ結構な現象と云はねばならぬ、そこで此の視察者に対つて『北海道は何う見えるか』と云ふことを聞き度いと思ふ、他山の石以て玉を琢くべしで吾人は此の他人の観た目を拝借することは閑却すべからざる好問題であらうと考へる	函日

明治42年

月 日	内 容	新聞
(8月15日)	前置に述べた如な考へから、記者は可及的あらゆる方面に亘つて其の視察団を聴かうと思ふので、差し当つて此の程来、各地方に於て非常の歓迎を受けてホクホク欣んで居る佐渡実業団体の幹部の一人、佐渡新聞社長、佐渡水産組合長、郡参事会員と豪い肩書の長々しい森知幾氏を旅館キトに訪ふ 北海道視察の結果…イヤ其の立派さ大きさには驚く、語を替へて云へば海に陸にの設備が大陸的で、併も完備して居るのには全く驚嘆の外は無い…… マア一般に北海道と云へばアイヌと雑魚寝でもして居る位に考へて居る、然るに一度び足を此の土地に入れて斯う云ふ堂々たる処を見物すると意外どころの騒ぎで無いまるで…矢ッ張り先入主となつては居ますが之れが北海道かとは思へないです 併し此の驚きを抑へて、それから徐ろに内部のことを研究して見たり此の立派な裏面を皮一枚を引剥いて見ると何うも文学とか宗教とかツマリ学問知識とか云ふ方面が頗る発達して居らぬやうに思はれる 函館で一寸、例を挙げて見ると水産陳列館に玩弄の如なものが飾り立ててあつたり図書館にしても内容は知らないが其の構造の粗末な不体裁な処や停車場の不潔、汽車運転の拙劣、車掌の横柄、馬鉄の野呂サ加減それから本屋にロクなものが無い……	(函日)
9月3日	水産陳列場収入 去る八月中函館公園内水産陳列場の収入は三十九円六銭にて内訳に依れば三十七円八十三銭内国人千八百九十二名、一円三十二銭外国人六十一人なるが外に無料参観人は左の如し 十歳未満千六十六名、岡部法相一行、秋田県実業視察団三十三名、亀田郡大野尋常高等小学校教員生徒十名、青森北部視察団四十九名等	函日

明治43年

月 日	内 容	新聞
1月12日	明年度予算の説明(二) 歳入…… 歳出 本年度予算総額五十二万一千八百円五十五銭五厘にして前年度予算額に比し十三万五千九百四十円七十八銭一厘の減となる今經常、臨時の両部に分ち説明すること左の如し 經常部 本年度予算額は三十八万七千六百五十五円四銭五厘にして前年度予算額に比し二万七千四百四十二円二十三銭八厘の増となる是れ区役所費、会議費、土木費、衛生費、水産陳列場費、諸税汚物掃除費、予備費の各款を通じ一万四千六十七円六十銭九厘を減じたるも教育費、教育補助費、函館病院費、精神病舎費、公園費、水道諸費、給水工事費、雑支出の各款を通じ四万一千二百七円八十四銭七厘を増加したる結果とす而して各款増減理由は 第一款区役所費 …… 第十一款水産陳列場費 前年に比し五十九円二十三銭減少したるは修繕費に於て臨■小破修繕の外指定工事なきに至りしによる 第十二款水道諸費 ……	函日
1月21日	通常区会議事(第五日) 昨日は午後二時三十分より開会、出席議員は有江、杉浦、松下……の十八名にて竹内議長開会を宣し議案第一号 明治四十三年度歳入出予算 歳出計常部 ……第十一款水産陳列場費 は斎藤委員長の原案に可決の旨報告ありて何れも異議なく之れに決し、第十二款……	函日
2月4日	函館区公文/函館区告示第九号 函館区会ノ決議ヲ経タル明治四十一年度歳入出決算左ノ如シ…… 函館区明治四十一年度歳入歳出決算表 歳入 科目 決算額 第一款…… 第四款雑収入四四、八三五、八〇四 一項精神病舎収入 …… 二項小学校授業料 …… 三項水産陳列場縦覧料 四三三、九〇〇 四項…… 歳出 經常部 科目 決算額 第一款…… 第十款水産陳列場費 九一七、八八八 一項諸費 七二六、一五〇 二項修繕費 一九一、七三八 第十一款……	函日
2月5日	函館区公文/函館区告示第十五号 函館区会ノ決議ヲ経タル明治四十三年度歳入出予算左ノ如シ…… 歳入	函日

明治43年

月 日	内 容	新聞
(2月5日)	科目 本年度予算額 第一款…… 第三款雑収入 一五六、七七三、五七五 一(項)…… 四項水産陳列場縦覧料 四四〇、〇〇〇 五項…… 歳出經常部 科目 本年度予算額 第一款…… 第十一款水産陳列場費 七九九、七一〇 一項諸費七六九、七一〇 二項修繕費三〇、〇〇〇 第十二款……	(函日)
7月3日	水産陳列所縦覧者 去月中函館水産陳列場を觀覽したるは内国人千八百八十八人外国人二十一人計九百〇九人なりと	函日
10月30日	時論/水産陳列場の改善 湖南 吾輩本区公園に遊ぶ毎に一種異様の感を催すものは区立水産陳列場也、抑水産陳列場設立の目的たるや、水産物に関する公衆の知能を啓発し、併せて本道水産の状態を知らしむるに在ること勿論にして、其の之を公園内に設置したる所以のものは、公園は常に公衆の來集する場所なるが故に、自ら觀覽の便宜きを得しめんが為なるべし、然るに我輩本区水産陳列場の実況を視ふに場内常に寂寥として看守人は殆んど無為に苦み、偶ま觀覽者有れば多くは徒然の余、素見の輩に過ぎず、本場の如き一見洵に無用の長物たるの感なきを得ざるなり、斯の如きは實に本場設立の趣旨を没却すること甚しと言ふ可し惟ふに此の種の設備は何地に在ても往々人の厭き易き傾向あるものなれば、当局者は常に其の内容を更新し以て人の注意を新にし、成るべく多くの觀覽者を誘致するの策を講せざる可からず彼の東京上野に於ける動物園の如き、又農商務省付属の商品陳列場の如き、時々其の内容を新にして觀覽者を誘ふことに努む、其の他府県の陳列場皆其の途に出てざるは莫し、然るに本区当局者の本場に対する施設を見るに、毫も之に関して注意を払はざるもの如く、其の陳列品の陳腐なる、又其の陳列方法の旧套を脱せざること實に甚しく、一も改善更新の跡あるを見ず、故に一たび之を觀覽したる者は、再び之れに入るを欲せず、觀覽者の稀少にして場内の寂莫たる決して所以なきに非ざる也、区当局者若しかかる実益なく併かも公園の風致を損すること寡からざる建設物を目して、却て公園の裝飾物たるが如き考慮を有すとせば吾輩寧ろ其の愚を憐んで已まんも、区当局者は常に本区視察者の來遊ある毎に、必ず本場を案内ヶ所の一に加ふるを見れば必ずや斯る誤見を持するものに非ざる可く、果して然らば区当局者は此の現状を以て能く其の目的を達するに充分なりと為す歟、是れ吾輩の甚だ疑ふて已まさる所也、蓋し区当局者と雖恐らくは本場の現状を以て甘するものにはあらざるべく、唯区費の不充分にして其の施設改善に力を致すこと能はざるにあらざるなき歟、然も吾輩の信する所に依れば此種の設備を改善せんには必ずしも多額の經費を必要とせず、当局者の注意常に宜しきを得ば時に臨み機に依じて人目を新たにすの施設を為すことを得べく、斯くして能く觀覽者を誘致することを得ば自然其の収入をも増加し得て改善に要する費用の一端を補ふことを得可し、故に吾輩は区当局者が果して本場設立の目的を達するの誠意あらば、今少しく本場の施設經營に注意し之が改善に力を用いんことを勧告するもの也。	函日

明治44年

月 日	内 容	新聞
1月20日	区歳入出総決算 明治四十二年度 四十二年度区歳入出総決算は歳入五十九万四千五百五十五円五十七銭二厘歳出五十七万六千八百六十円四十二銭八厘(内三十四万五千二百八十円二十六銭一厘、經常部二十三万五千五百八十円十六銭七厘臨時部)にして差引残金一万七千六百五十五円十四銭四厘は翌年度へ繰越したり内訳の概要左の如し(円位以下略)…… 歳出 經常部 科目 決算額 円 予算額 円 一款…… 十一款水産陳列場費 八一七 八五八 十二款……	函日
2月3日	時論/水産陳列場の改善 当局者の計画如何 曩に吾輩は本区水産陳列場の規模甚だ狭少にして殆んど見るに足らず、又其の陳列品の陳腐なる而已ならず、陳列方法の頗る無雑にして、心ある者の私かに嘲笑を禁せざる所なるを指摘し、当局者之を以て徒らに公園の虚飾たらしむるの意に過ぎずとせば已む、然らずんば速に之れが設備を拡張し、且つ其の内容を改善せんことを勧告せり。 宣なる哉区当局者亦之れが改善の必要を認め四十四年度歳計予算に其の經費を計上して区会の決議を経たり、是れ甚だ吾輩の意を得たる所なりと雖、其の費額たる甚だ少額にして、吾輩をして区当局者が果して如何なる程度の改良を之れに加へんとするの意なるやを怪ましむ。 抑水産陳列場の設けあるは決して之を単に遊覽の為に供するにあらず、本道水産に関する知能を啓発し、及水産業の発達奨励を促すの大目的を有するものにして、簡短に之を言へば水産陳列場は即ち水産に関する実物学校也、然るに本区水産陳列場従来の設備たる、甚だしく不完全にして之を一の遊覽の目的に供す	函日

明治44年

月 日	内 容	新聞
(2月3日)	<p>るだにも足らず、曩に吾輩が当局者の注意を促したる所以は茲に在りて即ち根本的に其の設備を革め、真に水産陳列場設置の趣旨に副はしめんことを期したるに在り、決して区々たる枝葉の改善を求めたるに非ず、吾輩固より未だ当局者が之れに対する計画案を聞知せざるが故に、今之を批評するの甚だ軽忽なるを知ると雖、彼の僅少なる経費を以てしては、決して吾輩の望むが如き根本的改善を加ふるの到底不可能の事たるを察するに難からざるを以て、吾輩は当局者の心事の一般を予知し惜まざらんと欲するも得ざるなり。</p> <p>殊に本年東宮殿下の行啓に際し、本区として台覧に供せんもの素より多々あらむも、彼の水産陳列場の如きは、誠に好的のものたり、当局者が本年度に於て之れに改善を加ふるの必要を認めたるも必竟此の一大慶事あるに基きたるならんと察せらるるに、微々たる経費を投じて糊息の改善を加ふるの意に過ぎずとせば、吾輩は区当局者の措置余りに消極に失するを悲まざるを得ず或は言う公園の地積狭隘にして水産陳列場拡張の余地に乏しと、然り然れとも吾輩は必ずしも水産陳列場の設備に大地積を要すべしとは信せず、彼の各地共進会又は博覧会に於ける水族館の如き、狭隘なる地積に能く適当なる設備を為したる類例決して少しとせざるに非ずや、故に吾輩は区当局者にして切に之れが改善に意あり、又其の設計宜しきに適へば必ずしも地積の狭少を憂へず、能く其の設備を完成し得べきを信じ、当局者の再考を促す者也。</p> <p>(晩)</p>	(函日)
6月6日	<p>函館博物学会 博物史学に関する同好会に依りて組織せられたる函館博物学会は函館を中心として其周囲に於ける人類、地質、動物、植物、地理、歴史の諸学科に亘り詳細に函館を研究■明するにあるも一面郷土に於ける学校の実物教授に要する教材の参考に資せんとするものにして会員の多数入会を希望するも成るべく真面目に研究せんとする人を歓迎すと会則左の如し</p> <p>函館博物学会々則</p> <p>第一条 本会を函館博物学会と称し事務所を函館図書館内に置く</p> <p>第二条 本会の目的は函館を中心とする博物史学の諸学科を研究するにあり</p> <p>第三条 本会は会員を以て組織す</p> <p>第四条 本会員は毎月会費として金二十銭宛を納付するものとす</p> <p>第五条 本会員たらんとする者は会員二名以上の紹介を以て本会に申込まるべし又退会せんとする時は其旨届出でらるべし</p> <p>第六条 本会は特に役員を置かず会員に於て事務を所理す</p> <p>第七条 本会の定時集會を毎月十日とし又時に臨時集會を催すことあるべし</p> <p>第八条 本会の研究せる結果は毎月の会に於て講演したる後会報又は其他の方法を以つて一般に発表するものとす</p> <p>第九条 本会に於て蒐集したる博物史学の研究材料は全部函館図書館に保管するものとす</p> <p>第十条 本会則に洩れたる事項は会員半数以上の同意を得て之を定む</p>	函日
6月12日	<p>第一回博物学会例会 函館研究を目的として過般設立したる函館博物学会は予て発表したる同会則に基き一昨十日午後三時より形ばかりの発会式を兼ね第一回例会を開催したるが今之れが概説を記さんに同日定期休館日なる函館図書館普通閲覧室を会場に充て同館所蔵の史料並に博物参考品を室内に陳列し尚ほ過去の函館に密接の関係を有せる学術其他の方面に於ける左の人物の肖像を陳列し</p> <p>松前崇広松前勘解由高田屋嘉兵衛松浦武四郎清水谷公考榎本武揚浅田清次郎中川嘉兵衛木津孝吉横山吉三郎栗本安芸守砲庵</p> <p>カールヨハンマキシモウエッチ(露) トウマスライトブライキストン(英) ミウルン(米) ニコライ(露) モールス(米) バチエラー(英)</p> <p>手作りの花環を捧げて是等先人に敬意を表す午後三時より幹事登壇して同会創立の趣旨来歴と共に将来に対する希望を述べ降壇するや引き続き会員の講演あり閉会したるは午後六時なりき今同会陳列の史料写真の重なるものと共に演題を左に</p> <p>写真之部</p> <p>旧函館砲台 三種 三葉</p> <p>五稜郭一■榎付き 二葉</p> <p>明治二十二年函館水道配水池築設作業 一種 一葉</p> <p>明治十三年函館全景 二種 二葉</p> <p>同函館の景 二種 二葉</p> <p>旧大石の松並に大石の天神石燈籠 一種 一葉</p> <p>米国人ウユルケ乗船 一種 一葉</p> <p>永正九年の蝦夷塚一本栗樹 一種 一葉</p> <p>旧鷄冠峰に於ける御経石 一種 一葉</p> <p>ア(イ)ヌ頭蓋骨 一種 一葉</p> <p>プレーキストン先生故宅 一種 一葉</p> <p>露艦チヤナ号艦載砲 一種 一葉</p> <p>手宮発掘石器土器 二種 二葉</p> <p>文化年度幕府引渡函館見取図 一種 一葉</p> <p>脇沢山神の古鰐口 一種 一葉</p> <p>栗本砲庵の手跡 一種 一葉</p> <p>碧血碑 一種 一葉</p> <p>武田斐三郎先生の碑 一種 一葉</p> <p>実物之部</p>	函日

明治44年

月 日	内 容	新聞
(6月12日)	函館戦砲弾並破片 二個 函館通宝 一個 木材標本 五十種 函館公園の碑石摺 一抽 石器時代遺物 土器骨器其他合計 八百余点 演題 一函館及び其附近の貝塚研究 一函館付近に於ける人類学的研究の沿革 一函館と露艦ヂヤナ号載砲と露国植物学大家カールヨハンマキスモウエツチ先生との関係	(函日)
6月20日	水産物出品寄附 函館水産陳列所へ今回左の如く出品物寄付申込あり何れも函館区長より許可したり 孵化採卵写真五枚、鮭児標本二十帆、組合沿革(八雲村遊楽部川鮭蕃殖組合頭取杉立正義 蟹 鮭鱒 蝦 缶詰二十四缶(根室町大字友知村和泉庄蔵 蟹缶詰 蟹粕 鰯粕(釧路村字西幣舞岩中半六) 乾和布(福 島村漁業組合佐貞原蔵)	函日
8月22日	東宮殿下行啓 行啓第二日 昨日の東宮殿下行啓第二日は…… 函館公園着御 同八時十分公園に着御、奉迎の学校職員生徒に御会釈を賜ひて正門より直ちに広場の御野 立所に入らせらる…… 水産陳列所 第一号館の方へと移させらる、御先導は石原長官及北守区長掬窮かとして之を承り館内御一 巡種々の陳列品に対し御下問ありしやにて同館の裏手より…… 陳列館二号館 に入らせられ此処にても鰯粕其他産物に就て親しく御下問あり北守区長奉答したるが之れ にて函館公園の行啓を終らせられ午前九時十分と云ふに同館前にて御馬車に召させられ……	函日

大正5年

月 日	内 容	新聞
5月14日	日曜と公園の花 グラウンドは勇む野球戦 花は一と晩とも云はれず、摺鉢山附近を除いては、まだ塵にも塗れずと云ふ見頃にて、明十五日午後七時 よりは、谷地頭に桜ビール主催の手踊りありて同夜は町見と函見、十六日は巴見、十七日は東見と、夫れ夫 れ競へるものを出だすと云へば、夜の花と共に雑踏を見るべし ……園内の花にあこがれて行き来う人々引きも切らず、二ヶ所の休憩所賑ひ、内地より来たれる人は土地 の案内者を得て水産陳列場に入るもあり……	函新 (夕)

大正6年

月 日	内 容	新聞
1月1日	当区に児童博物館を建つるの議(公園の水産陳列館を利用して) 函館師範学校長 和田喜八郎 子供の教育は主として家庭及学校で授けらるるものであるが此の外に彼等が知識経験を広むる機関を設備 してやる事は現在及将来にとりて多大の利益を与ふるものである、されは吹米は言ふまでもなく我国の都 市でも此種の目的を達すべき機関を設けて居るものがある、元来子供は我等成人とは嗜好も趣味もその種 類程度を異にする故独り成人本位の陳列館ばかりでなく子供本位のものを自作つてやりたいものである、 さて現在当地の公園内に二棟の水産館がある、若し今日その中にある陳列品を整理したならば一棟だけで 済むであらうと思ふ、依つてその他の一棟を児童博物館とし之を区教育会の経営の下に子供を喜ばしめそ の知見を広むるに足る様な標本もしくは内外児童の成績品を陳列し時には理化の簡単な実験位を行ひかく して彼等の好奇心を刺激したならば彼等にとりては一の楽園にならうと思ふ、又かうなれば平素は勿論休 日等に此所彼所に嬉遊して徒に時間を消費したり又は如何はしき活動写真やよからぬ興業場に入出して種々 の害悪に染みつつある弊害に対して一の救済法にもなるかと思ふ、札幌にある本道物産陳列場は元より児 童を本位としたものではないがそれでも若干の子供が常に出入してそれぞれ知識を得精神上の娯楽を享けて 居る、私は札幌の子供の享けて居ると同じやうな機会を当区一万五千余の子供等にも与へてやりたいと 思ふのである、然し中には当地では左様な機関を作つても子供は出入せんだらうと反対する人があるかも 知れんが休日なぞに函館図書館に行つて見れば可なり多くの子供等が出入して居るのを見受くるのである から児童本位の博物館を設けて前に云つた人々や散逸せんとしつ々ある本道拓殖に関係ある記念などを陳 列したならば必ず子供の興味を惹きその結果知識の方向ばかりでなく精神教育上にも貢献すること少から ぬと思はれるので区の当局及び一般父兄に対して此の提議をなした次第である	函新
6月9日	五稜郭懐旧館設置 五稜郭公園看守北島勇之助氏の発起にて郭内に懐旧館を起し左記人形を飾りて史蹟を事実によりて説明せ んとする計画なりと 開陽丸激戦の場(人物 榎本釜次郎、勝海舟) 黒田官軍参謀居室の場(人物 参謀黒田了介) 千代ヶ 岱陣屋の場(人物 中島三郎、長子恒太郎、次男房次郎 腰元あやめ) 同じく連場 五稜郭訣別の場 (人物 総裁榎本釜次郎、副総裁松平太郎、陸軍奉行大鳥圭介、海軍奉行荒井郁之助 美少年田村銀介) 榎本自刃の場(人物 榎本総裁、従士名川治兵衛) 同じく連場 古屋彰義隊長湯治の場(人物 隊長 古屋佐久左衛門) 後の榎本將軍の場(人物 海軍中將榎本武揚) 右、人物の作者は片上樂天氏なるが片上氏は早稲田大学教授片上天弦氏の親父なりと	函新 (夕)

大正6年

月 日	内 容	新聞
8月1日	<p>歴史を語る人形 五稜郭内に出来た名物 五稜郭内に『懐旧館』と云ふものが出来て、片上楽天、大西五仙と云へる人々が、同附近に居住せられ居りて公園となつた五稜郭に何等かの趣向を凝らそうと、園内の北島管理人と三鼎になつて相談の末戊辰當時を語る人形を拵へて陳列したら、一般の人々に多大の興味を添へられやうと、数月前に人形師として知られた石井清輔老人に謀ると、自分の老後の技量を發揮する斗りでなく、各発企者の好趣向に対し、また五稜郭を紹介する上に取つては、最も適切な事であるとの事で、爾來片上、大西、北島の三氏が寢食を忘れるまで、熱心な尽力に励まれて只管人形の制作に苦心した、館は園内北隅にて、戊辰戦役時代より同所に残つて居る、建物既に好記念である倉庫を陸軍省より借り受けることとしたが、本月中旬頃迄に開館すべき予定だと、大西氏などは石井老人の弟子のやうな姿で、背景の下塗りをして居れば、大工が二三人が来て、各場面の拵へをする当時の英雄まだ衣服も着ずにゴロゴロして居たが、場面は総て六場、人形の数が十五</p> <p>(一) 開陽丸漸論の場 (榎本釜次郎、勝海舟) (二) 官軍参謀居室 (黒田了助) (三) 千代ヶ岱陣屋 (兄恒太郎、弟房次郎 腰元あやめ、父中島三郎助) (四) 五稜郭訣別 (榎本釜次郎、松平太郎、大島圭介、荒井郁之助、美少年田村銀助) (五) 榎本自刃の場 (榎本、従士石川治兵衛) (六) 古屋彰義隊長湯治 (場所湯の川、古屋佐久右衛門)</p> <p>等で、場面の多く悲劇にて万緑叢中の紅一点とも云ふべきものは千代ヶ岱の陣屋で、中島父子の間に腰元あやめが一人色彩れている。</p> <p>無類の砲弾 人形も一時的のものであるが、将来は木造にしようかとの考へもあれば、来年は戦役五十年に相当する為、何か当時の記念品及び参考品をあつめて、有益な趣向もしたいが、先ず今の処は俄の思ひ付きながら、同館の入口に用いた門の彫刻ものは、当時の御殿にあつたもの、また鍛冶村の某氏の所蔵に係る当時の砲弾を貸与してくれる事になつたので、榎本等が訣別の際に、砲弾に寒菊をさして盃を酌んだといふ事に対照すれば、イカニモ興味の多いものだ、昨今各関係者は暑さを忘れて準備中である。</p>	函新 (夕)
8月8日	<p>懐旧館の開館 箱館戦争の古戦場五稜郭を型体の上に永く残そうと、片上楽天、大西五仙北島の諸氏が発起人となつて『當時を追想』すべき唯一の『記念物』として企てたのが、即ち昨七日午後二時より開館式を挙げた五稜郭の懐旧館であつた、正門に用いられた附属品は総て、當時を物語るもの斗りで『今から六十一年前御殿の小門に使用されたものです』と当時の面影は其の片影の一に偲ばれた、白髪の片上翁は、『五稜郭が公園として開放されたといつても壕と土手計りでは』と平素の所感を述べ乍ら、館内を案内された、歴史人形は第一号室から五号室迄で、牧場人形は十五個であるが、第一号室は、官軍の勝海舟と榎本武揚とか、品川沖に於て、廻洋丸の一室に対談の光景で 船長室を見せたもので当代の英傑が意気昂然として卓を蔽いて居る場面、第二号に移ると此室は、官軍の主将黒田公の居室、第三号は五稜郭城の武揚の居室で、其の背景なども頗る凝つたものであつた、第四号室は千代ヶ岱陣屋の主将中島三郎助の居室で、今は自刃しようとする主将の面影、其の長子恒太郎次男房治郎助別れの杯を傾ける図は当時の悲愴な物語の挿話として、徐ろに偲ばれた、第五室は、明治二年五月十八日五稜郭 開城の前日の光榮で本陣の一室に、榎本、大島、荒井、松平、田村の五将が訣別の宴で『病兵を叱咤して敗馬に鞭てば飛驒雨の如し桔梗ヶ原』と一詩を吟じて田村が悲憤の涙に暮るるの図は人々をして当時の追想せしめやう、第六号室は古谷彰義隊長が傷兵を温泉に浴して居る図で、『温泉の特効を具体的に説明したものです』と片上翁は説明を了え記念の撮影があつた、總て卓上に並べられた饗応の中に『武揚おこし』も見えた、当日の来賓は駒井大尉、坪山区長代理、横山吉四郎、岡田図書館主事其他新聞記者等であつた。</p>	函新 (夕)
9月15日	<p>東西南北 ……公園 まだ桜紅葉を見る程にはならぬが、松林のうしろに屏風を立て廻した函館山にも秋の気が澄み渡つて、相変らず勝田の朝湯へ行く人があれば、場所帰りの人が、四五人づれで摺鉢山へのほり堪察加の方角は何所に當るだらうか、故郷は何所かと、いろいろ物語をして水産陳列館へ入る、自猶休憩所の菊水には、うまいお汁粉、お雑煮があると云つて下戸連中ゾロゾロ詰めかけて居る。</p>	函新 (夕)

大正7年

月 日	内 容	新聞
3月4日	<p>歴史館の設計 或は変更されん 開道博函館協賛会の事業として商品陳列館の外五稜郭内に歴史館を設置すべく当初六千円の経費予算を計上したるも其後評議員会にて更に半永久的施設をなす為め一万円を増し一万六千円(当時四千円を増し一万円に改めたりと記せしは誤り)に増額したる由は既記せるが其後区役所にて設計其他調査の結果半永久的施設をなさんには増額予算を以てするも尚不足を感ずると道博開期切迫の今日短時日を以て到底完成を期し難き事情ある事を発見して一面寄附金の如きもく爾容易に巨額を募集し得ざるべしとの意見ありて遂に本日午後一時より又々評議員会を招集し計画変更方に付き凝議する処ありたり</p>	函新
3月19日	<p>道博と函館 開道五十年記念博覧会開会に関して函館は如何なる地位に立つべきか蓋考ふるに二あるべし、一は道全体の為めと区自身の為めと是れなり、道全体の為めとして道博の為めに力を致すべく区自身の為めとして函館は自ら適當と認むる計画を為すべき也而して区は自身の為め記念として商品陳列所と五稜郭歴史館とを設立せんと決したるに對し道博側にては、商品陳列所の設立を不可能ならしむるが如く、右寄附者に対して優遇を供するを肯せざるものなりと、吾人其意の存する所を解するに苦む吾人は寧ろ商工業地たる函館の為め永久的記念として商品陳列所の設立に賛成すべきものなるべきを信ぜんと欲するものなり、兎に角</p>	函新

大正7年

月 日	内 容	新聞
(3月19日)	区として道博並に札幌に於ける協賛会に宛つる出金と尽力とは辞するものにあらざれば、区内の記念に就て区の意見に一任し、毫も之に干渉がましき無からんを望み置かざるを得ず、 記念とは何ぞ 記念とは其土地に於て種々異なる所あるべし、函館は商工業地として発達し、又発達しつつあるもの、之が記念には此発達中のものと縁あるものを選択す可し、夫の五稜郭の歴史館の如きは一時の余興として観覧に供するが如きは必ずしも無意味にあらざるも、函館が記念として永久的のものとしては矢張商品陳列所を以て最も意味あるものとすべく、又金を投ずるにも、一時的のものよりも永久的のものにするを以て経済的とし、且つ寄附者の精神をも伝ふるに好適とす可し、吾人は函館として、函館の将来現実的に発達すべき素質たる商工業に関する適当なる記念たる商品陳列所設立の実行せられんことを望むもの也、 歴史館寧無用 商品陳列所と歴史館との二つ、此中何れか函館の生命的代表的のものかといふに、亡び過ぎし旧都ならば兎も角、現実発達し行く生命ある都市の建築物としては商品陳列所を以て函館の代表的のものと認むべきや論無し、歴史館などといへば宛も福山辺にても見るべき観覧所然たり之に金を投ずるよりも函館の代表的の建築物に金を投ずるを適当と見る可き也、五稜郭は現在の墟跡として保存するを以て最も歴史的の意味ありて閑寂静雅の精神を養ふに便あり、吾人は歴史館を無用とし、商品陳列所に主力を致さんことを望むこと例に依つて例の如し、	(函新) 函新 函新
4月3日	商品館は中止 歴史館も不定 道博函館協賛会にて計画せし商品陳列館及び五稜郭内歴史館設置に対し前者は道博にて曩に之れを認むる能はずとの回答ありし由は当時報道せし如くなるが右に付き昨日午後区役所内に協賛会常議員会を開き渋谷会長より事情斯くの如きものある以上協賛会の事業としては経営不能なるを以て追つて相当時機に他の方法の下に新に計画すべしと告げ事実上商品陳列館計画は茲に一時中止する事に決定せり、又歴史館計画も時機切迫の今日果して半永久的の工事の竣成を見るや否や寄附金募集の如きも所期の成績を挙げ得るや至難の事情あるを以て是又一時的設計に改むべしとの主張多かりしが右は結局一応請負人の見込を聴取したる上決定する事とし五日午後一時更に評議員会を招集附議するに決して散会せりと云ふ	函新
4月4日	商品館は成立させし 北海道開道五十年記念の爲め函館にては商品陳列館を設立せんことを問題とせるが、之に就ては札幌なる道博本部に於て承認を与ふるを喜ばず、随つて右陳列館の経費寄附者には一定の待遇を供するを拒絶せんとする意向なりと、之が爲に函館に於ても陳列館を見合さんとするもの如し、吾人は之を遺憾とするもの也、 道博本部に於ても広き意味に於て解釈するならば何等異議を云ふに足らず、随つて寄附者に待遇を供することを拒む可きにあらざ、函館に於ては陳列館を設立する爲めに阻止せられて他の寄附を道博になさざるものにあらず、道博へは相当割当てられたる寄附をなし、函館として記念の爲めに商品陳列館を建設せんといふに何の不可なることあらんや、寧ろ斯る計画は奨励して成立せしむるか記念の意味に適合するものと謂はざる可らず、即ち寄附の待遇方法にしても陳列館寄附者も他の寄附者も同等に取扱ふやう吾人は希望に堪へず、商品陳列館は函館の一地方に限られ、且つ必ずしも道博開会の時に於ける所謂際物にあらざるが故に該館建築費の寄附者を特別に待遇するを要せざるの論あらんも開道五十年記念は札幌に局限すべきにあらず、本道各地に行き亘り、各地に於て記念の事業を起すに対して中央の地位に在る道博が特別の待遇を与ふるこそ本道開発の記念の意味に適合するものと解す可き也、 吾人は猶主張せんと欲するは道博の待遇問題の如き若しも面倒ならば措いて問ふを要せず、開道五十年記念は札幌の爲めにもあらざ、道庁の爲めにもあらざ、又固より道博の爲めにもあらざ、広く北海道全体の爲めにして、之を地方的にいへば函館の爲めとなるなり、函館は一方道博の爲めに釀金を辞せざると同時に地元にては相当と認むる記念物を造営すること最も適切と認む可しといふ也、商品陳列館は区年来の問題なり、函館の経済的生命を商工業とする以上、同館を建設して記念とすること実に今回を好機とす可し、故に道博に於て待遇云々を面倒にいふならば、斯ることは敢て問ふを要せず、区は区として記念の意味ある陳列館の建設案を成立せしむ可きにあらざや、寄附者も亦一時の札幌見物の待遇の如きは問ふを要せず、区の爲め、区の永遠記念の爲め、商品陳列館を設立するに賛成す可きにあらざや、吾人は此問題に参与する委員諸君に再考を煩はさんと欲す、	函新
4月11日	歴史館行悩む 道博函館協賛会の事業たる五稜郭内歴史館を道博後は区に寄附して之が管理並に維持方法の一切を托せん方針なるは既報せる如し右に付き渋谷区長は昨日午後区会議員の内協議会を開き予め之に対する議員の意向を聴取したるが当日議員側の意見としては右歴史館を半永久的建築物とせんには協賛会の設計たる坪百円見当は余りに貧弱極まるものにて道博後に区が寄託を受くるとするも到底歴史館として保存するに耐へず依つて協議会は右建物を道博開期中歴史館として使用し道博後は全然無条件にて区に寄附し区は之を休憩所或は遊覧の遊戯場其他任意に使用し維持管理期間も又従つて自然廃滅に帰するまでとする事とせば寄託を受くるも差支なきも之を歴史館として其区が永久に管理維持せんには到底不能なりとの意味にて反対あり大多数の議員又此意見に同じたる爲め遂に本日午後一時より又々協賛会評議員会を区役所に開きて再議に附する事となりたるが区の態度にして以上の如きものある限り歴史館を半永久的建築物とする意味は半ば以上没却せらるる事となるを以て本日の評議員会は爾後の維持方法を別に考究するか然らざれば又々当初のバラック式建築物に変更して一時的の催しとする外なかるべき形勢なり	函新
4月13日	歴史館中止か 益々紛糾し来る 道博協賛会事業たる五稜郭内歴史館設置計画が種々の事情にて行悩み居る由は屢報の如し、右に付き昨日	函新

大正7年

月 日	内 容	新聞
(4月13日)	も午後区役所に常議員会を開き前日評議員会にて決定せしバラック式一時的建物に設計変更して寄附金募集額も之を総額二万円程度まで切詰めんとする所謂設計変更案を附議せしが之より先歴史館陳列の史料蒐集其他専ら本問題に関して熱心奔走しつつありし図書館主事たる岡田委員は斯く一再ならず変更して又々バラック式一時的築物となすが如きは要するに協賛会幹部其他が無定見不誠実に基くものにして斯くの如きは主として本事業の実現完成に努力しつつある自己の侮辱を感ずるものありとなし之れに憚らざる理由を附して断然委員辞退の届出であり茲に於てか当時の常議員会は先決問題として岡田委員の慰撫引留むべきか將た岡田委員の去就に関せず之を遂行すべきか若くば断然歴史館計画を此機会に打ち切りとすべきかとの三説出で種々協議の結果一応会長より岡田氏を慰留する一方来る十五日午後一時より又々評議員会を開き本事業の根本的方針を決定する事として散会せりと云ふ、要するに歴史館問題は一回は一回より会合を重ねる毎に紛糾を増すのみなれば岡田主任委員の去就如何に依りては或は遂に中止の外なからんと云ふものあり	(函新)
5月4日	歴史館の工事 道博函館協賛会事業たる五稜郭内歴史館は此程区役所にて指名入札に附したる結果大村合名会社に二千八百八十圓に落札したるが直に起工して来る七月五日までに竣成せしむる予定なりと云ふ	函新
5月26日	函館図書館へ 稀代珍品の秘蔵を托す ツイ二三日青森県弘前市から当区に輸入された世にも稀なる珍品あり山陽の外史や野史にもみえている歴史上の参考品として有要な品がある 夫れは今から七百年計り前の戦国時代用ひたものであつて上杉憲政の重臣本間近江守といふ勇士が北条氏康の重臣大導寺駿河守重興と一騎討して組敷かれ首を搔かれんとした時祖先から代々伝はる金九燈の騎標を与へ適れ功名手柄をせよとて懲容として重興に首を渡したといふ由緒のあるものだ、維新前まで大導寺家は千二百石を領して津軽家の家老、重興十四世の孫は弘前図書館長をして居るが、函館に歴史館が出来ると聞いて家重代伝はる家宝ではあるが、国家の歴史上独占するものならずと扱てこそ函館図書館に保管方を依頼して来たのであるその由来書に依ればかうである。 天文十三年四月北条氏康上杉憲政と沙窪に戦ひ大に之に克つ上杉の臣本間近江守九燈の指物を北条の臣大道寺駿河守重興に譲■刺されて死す而■大道寺氏代々■燈を以て騎標となす日本外史野史等に悉しく出たり 大正七年四月 重興十四代の裔孫 大道寺繁禎識す	函新
7月13日	歴史館へ出陳して 昔を偲ぶ語草 得難い珍品もある 道博記念の歴史館は何うするか、曲りなりに、バラックにでも建物が出来て了つた其所でポツポツ歴史上の参考品を集めて居るが、函館図書館の手に依つて陳列されるものばかりでも得難い実に稀有の珍品が少なくない中でも珍らしいのは門鑑 箱館通宝を鑄造した八ツ頭の錢座に出入する際一々示した珍らしい門鑑を発見した、将棋の駒の大きいので二寸位に錢座の焼印を捺したもので、裏には『にしめ屋渡世』地蔵町万右衛門と書いてある、それから箱館通宝 安政二年五月から向ふ三ヶ年十二月迄鑄込んだ時の函館通宝ツク錢吹き立ての種錢で、猶ほ珍中の珍といふべきは通用切手である、是れも安政二年五月から三ヶ年十二月迄錢座冊内及び出入商店に限り通用させた切手であつて、それには錢百文と二十五文のがある、それは錢座の請負両替屋ス〇故小林重吉から発行されたものであるまた箱館焼 安政四年美濃国から腕の可い職人が来て八ツ頭(今の谷地頭)で陶器を焼いた、その時の井も出て来た、門鑑から函館焼の井まで凡て四品とも今の亀田屋小路(昔万助小路)に住んで酒を売つて居た人で今亀田に居る夏堀万右衛門といふ人から特に参考品として函館図書館に寄附したもので、何れも今度の歴史館に陳列される、それから遼鱗佐々木定吉君の兄さんで五稜郭に楯籠つたことのある曲 今相生町の小路に居る佐々木長吉君の秘蔵してあつた是れも箱館通宝鑄立場物絵図が安政五年十一月十五日に書いたもので奉行所附の役人で青木伊織といふ人の筆になつたもので鉛筆が薄れてるが是又却々得難い珍品で函館図書館の蔵品であるのと錦衣 函館戦争当時官軍方の誇りとしてあつた今ていへば肩章錦の布である、是は明治二年青森表で旧越後溝口藩士で今区内海岸町八三士族山本晴曹といふ七十二翁が進んで出品したのであるが更に弁天のお台場にあつた干飯の粉で導明寺米である、是れは最初松前藩で貯蔵したものであるが後脱走軍に弁天砲台占領されて当時幕府の絵図方であつて榎本と一緒に品川を脱して来た例の正智遺稿の主人公故岩橋正智氏が蔵してあつたものである、是又當時を追想する上に於ても歴史上の好参考品であるそれから豪傑快僧三上超順 福山法華寺の住職で戊辰の際松前福山城にあつて賊徒を征討するの儀出でた際衆に先んじて硬論を唱え藩公より参謀役を命ぜられ乱戦の折に堡砦に倚つて奮戦苦闘俎板を揮つて群がる敵中に踏み入り脱走軍の名ある勇士を屠つたといふ豪傑快僧、学識博官、武に長じた豪快なる超順の面目を羅如たらしむべきものは松前藩士蠣崎敏氏の手記になつたもので、豪僧超順の同窓であつたといふ倉田準五郎老人が送られた和歌短冊もある、超順は先の大蔵大臣坂谷男の親父坂谷朗廬先生の備中国興讓館に教を乞ふて居たのであるが塾友倉田準五郎翁は特に遥々新潟から送り越して出品を望んだものである。	函新
	歴史館陳列品分類 道博函館協賛会の五稜郭内歴史館陳列品は主任委員和田師範学校長の意見にて大体左の如く分類標準を定められたりと 第一類 皇室と北海道 第二類 明治維新前の北海道 (一) 松前氏と北海道 (イ) 松前氏以前 (ロ) 松前氏時代 (二) 徳川幕府と北海道 (三) ■士と北海道 第三類 函館戦争 (一) 戦況に関するもの (二) 従軍者に関する者	函新

大正7年

月 日	内 容	新聞
(7月13日)	第四類 維新後の北海道 (一) 函館裁判所時代 (二) 開拓使時代 (三) 三県一局時代 (四) 道庁時代 第五分類 アイヌ民族の古今 (一) 有史前の北海道 (二) 有史前の蝦夷 (三) 維新後の旧土人の状態	函新
7月15日	五稜郭歴史館の掘り出し物 種々の物が現はれる 道博函館協賛会の歴史館は和田師範学校長主として考古資料の蒐集に腐心し己に大体の分類標準を発表したるが古文書蒐集は藤本教頭担当し鋭意写本しあり往古蝦夷地と密接の関係ありし青森県弘の前市陸奥史談会等よりも参考書類寄贈し来りあるが其後蒐集したるは証券で明治七八年の交函館居留の英国商人ブラキストンといふ人は其の中に証券を発行した当時の十銭のものを見るに此の証券を当社に差出し促す時は何時にても引換相払可申候也、函館ブラキストンとして中央に函館山と駒ヶ嶽を遠くに見せ千石積の和船の帆掛を二艘現し下に羅馬字を書いてあるが、之れは当時函館市中でも使用した其所で開拓使が禁止したが更に明治七年独逸に留学中の本間清雄といふ人が時の大隈大蔵卿に向かつて函館表に於て証券発行し居るは官許なく奸商輩の所為ならんと注意し来つたといふ、肩書付のもので其の珍品が青森で発見され這回出陳されるのである、更にヨリ以上に珍妙なるは露国の領事オラロウスキから時の開拓使三等出仕潭梅杉浦誠に宛て教会の墓地狭隘を感ずるより明地を要求し墓地を選定して差間なからんとの意味の文面であるが明治七年頃の訳文であつて今一ツはハリストス教会の司祭アナトリーから時の開拓使権大書記官時任為基に差出した書面が現はれて来た。その書面には開拓使の役人村小野寺の印が捺してある、それから時任と故人になつた長岡通訳の丸印も捺してあるが何れも所置方法に困つたらしい文面に私市中にて聖教講義致候処警察署ヨリ指留ラレタル二付何ノ話ナルヤ過ル十八日御問合セ致タル二今日二到テモ猶御返答無之ニ付今二十日頃ヨリ講義相始メ候間此段御届致候也 千八百七十八年五月二十日 魯西亜国司祭 アナトリー シサイ + 函館 アナトリー (以上函館図書館蔵)	函新
7月18日	二十日から陳列に 着手する歴史館 重なる参考書目 道博協賛函館区の歴史館は、愈二十日より陳列に着手すべきが函館図書館よりの出品は約五百余点なりと例に依り重なる参考書目は 蝦夷紀行 谷元旦蝦夷紀行附図全は極彩色にて一卷冊を為しあり元旦は江戸の人島田某に養なれ松平相摸守齊邦に仕へ寛政十一年春命を受けて松平信濃守及び監司以下八百余人と共に渡来して図画の役を帯び人物、山水、用器産物を写したる也 愛奴風俗 村上島之丞の筆になるが村上は伊勢の神官にして楽翁公の知遇を受け近藤重蔵に随ひ寛政十二年渡来して実地に入り人情風俗を描写して余す所なし幾多著ある中尤も詳密を極む著書として残るは東蝦夷知名考、蝦夷三津図等にて福山、函館、江差就中詳し共に函館図書館の蔵書なり 林子平 仙台の彼の有名なる鴻儒林子平が天明五年に述刻になつたもので三国通覧図説とて是又蝦夷地を詳密に図絵を挿入して当時世に紹介されたものとそれから林子平の海国兵談五冊も同じく出陳される 唐太奇観 文化六年六月月山東雲といふ隠士は蝦夷島奇観を模して成したるものらしくも見ゆるが遂に著者は不明樺太島の風俗を写して余蘊なし会津の守隊光景等を示しある一卷なり	函新
7月22日	開道博と我が函館 歓迎門の準備と棧橋の土産館 五稜郭内の歴史館 いよいよ道博は八月一日より開始されると云ふのであるが、七月も余す所僅に十日となり、同開催期は九月二十日迄約五十日間にて準備は既に八九分通りまで出来たとの事で、……函館の如きも、幾分影響を受けた証拠は、各旅館の満員を見つあるが……一方五稜郭内に出来る歴史館は、熱心な岡田図書館主事が、出品材料の蒐集の傍、之も予定のバラック式ではあるが、兎にも角にも約十万の人が来るとすれば、行きはサツサと札幌へ急いでも、北海道と云へば第一に指を屈する本道の関門函館を見ずにいくやうな人もあるまい、……	函新
7月27日	歴史館の陳列 八月一日より開館 道博函館協賛会の事業たる五稜郭内歴史館は諸設備著々準行し明二十八日より愈陳列に着手する事となるが開館は道博と同様八月一日よりにて開館式は多分挙行せざるべく毎日午前八時より午後六時まで、入場料は当初二銭の予定なりしも剰銭欠乏其他の関係上にて五銭を徴する事に決定せり	函新
	協賛会常議会 二十九日午後一時より区役所に於て道博函館協賛会常議委員会を開き歴史館の開館準備其他に就き協議すべしと	函新
7月31日	道博の開会と函館 五十年記念の大仕掛の道具立 送迎に忙しき鉄道棧橋 愈道博は明八月一日を開会の第一日として、多くの人々を内外の地より吸集するのであるが、開催期の約五十日間は『道博日和』の風雨の障害なく、大いに誇るべき本道を観望せしめたいとは、道民一般の希望であらうが、総ゆる設備は徹夜の奔走にて大半完成したと云ふ……函館に土産館の設備は中止となつたものの、五稜郭には開道に最も縁故深き歴史館が出来て、明治元年及び二年の古戦場とは、内地の人々の眼にも多大の興味を与ふべく、既に五稜郭電車停留場の突当りに巾五間、高さ二十尺程の歓迎門が出来あがり、郭内に入るとルネッサンス式奥行五間、間口二十間程の建物に記念の材料を蒐集して、土地の人々にも敬服せしめやうといふものがあれば、五稜郭に火花を散らした時代の歴史人形は、片上天絃氏の巖父楽天翁が意匠を凝らしたものが……	函新
8月1日	函館の歴史を語る 五稜郭内歴史館・愈本日開館 道博協賛会の函館歴史館は今日午前十時一発の狼煙を合図に愈開場された、早朝来和田委員長を始め役	函新

大正7年

月 日	内 容	新聞
(8月1日)	<p>員出張して諸準備に着手し午前中は全部出陳し得ざりしも凡て千数百点に上り猶ほ区内の考古家、史実家より秘蔵の古文書を出陳するものが続々ある、諸団体では函館図書館の五百六十四点を筆頭に、函館中学校のアイヌに関するもの、函館師範学校、東京高等師範、維新史料編纂会帝国図書館、地学協会其他等で個人としては青森県弘前の有志岩見氏等であるが主なるものは狩野文学博士の本多利多蝦夷地渡海日記や、近藤重蔵の探険測量絵図並に手記、五稜郭、弁天砲台に関する建築諸書類で多くは松前藩と函館戦争及び蝦夷時代の諸調査書であるが大別すればアイヌの器具及武器諸絵図並に風俗 石器時代の遺物（函館附近）松前藩時代の諸文書 幕府直轄時代、函館戦争時代■</p> <p>であつて道庁より特に出陳になつたものもあれば函館区の出陳もある、更に注目すべきは水戸家の古文書で是れは烈公の勅王を唱へたる目のあたり髻髷として見るべきものがある</p> <p>御巡幸明治九年の先帝陛下御巡幸に関する写真其他の古文書等数十点、此外区内蔵書家より出陳する向続々ありて先帝の御遺徳を仰ぐも畏し</p> <p>新嶋襄先生の肖像は是又得難き珍品であるが特に京都同志社よりの出陳、新島先生は海外渡航の壮図を企てたる大工態に変装したる姿も今は昔を語る忍ぶ草の一本なり</p> <p>異国船函館図書館の出品に係る異国船長崎表差送 文化十年ロシヤへ遣候論書や又異国船一件所用記など幕末より明治維新に涉つて維新史の好史料の一であらう</p> <p>ペリリ提督浦賀来節の際応接した烏帽子、大紋の代島剛平氏像並にその孫女に当る函館高等女学校教授代島千代子女史の出品になつた亀田御役所即ち五稜郭及び弁天崎御台場諸留の一冊と</p> <p>五稜郭即ち当時亀田御役所内部の明細図にて厠から厨に至るまでの設計図など共に珍中の珍とするものであるが、是れは東京高等師範学校の出品である</p> <p>珍看板ともいふべきは函館役の当時官軍方の宿所に当た村上三郎右衛門宅に掲げたる宿泊人名を記した一種の看板とも表標ともいふべきもので『参謀会議処』として参謀局附何某云々と名を記してある、それから</p> <p>古い瓦圍守る北島氏の発見出品で五稜郭の本丸、火の見櫓の尾根瓦は何れも当年の昔を偲ぶ思ひ出草ならぬはないが夏猶寒き五稜郭</p> <p>氷の刃は英傑城将榎本武揚の佩ける三尺二寸の陣太刀は鞘をこつて氷の如く冷やかに青光りして当年血を見ざれば止まぬ砲火の巷を想起すれば実に崇高の念に駆らるるのは伊藤力松氏の出品で、其他大鳥圭介、黒田参謀、荒井郁之助の書状等多数である</p>	(函新)
8月6日	<p>本道史料展覧 歴史館選外蝦夷史</p> <p>五稜郭の歴史館には天下の珍品千余点出陳しあるが同館には函館図書館より五百六十四点出品したるも猶外に蔵品千余点あるより本道歴史を紹介するは道博の開期と内地人の来往と共に好時期なりと大方よりの希望を容れ同館は来る十一日より北海史料殊に北蝦夷地方の樺太に於ける諸珍什、本道アイヌの諸器具、蝦夷絵師の名ある天才画家平山屏山のアイヌ風俗其他等を陳列して一般縦覧に供すといふが歴史館第二分科会選外史料とも見らるべきが歴史上の好資料豊富なりと</p>	函新
8月7日	<p>道博は内地の人に 一如何なる感興を与へつつあるか 叔父さんの土産話</p> <p>本道のものはお手前味噌で、立派に出来た、美事だと云ふのだが、内地の人々を二十万近く招び入れやうとして俵長官を始め、多くの有志が力を籠めた道博は、果たして内地の人々に敬服されて居やうか。……数日前函館を通過した、お伽話の泰斗巖谷小波山人が、昨六日午前帰京の途次五稜郭に立寄り、また区内の各所を参観されて、函館駅前の勝田支店に入り、出発の用意中に道博の感想をお質ねする事にした、スルト世界通の叔父さん小波氏は曰く、…左様さ、先づ大体から云つたらば、建物は比較的よく出来て居て、大正博覧会に比して遜色がない、輪魚の美は敬服するが、開道五十年記念博覧会と云ふものは、内地の人に観せやうとするのか、但しは本道丈けの人に見せやうとするのか、夫れが疑問だ俵長官の苦心もお察しするが、第一、第二、第三の会場をツツクルメた中に、之はと云ふ北海道気分のないのが、内地の人を迎ふる設備としての欠点である上に……函館は 北海道の関門でもあり、此の開道博と共に、大沼、湯の川方面に客を招び容るる傾向があつて欲しいやうに感じた、…五稜郭内の歴史館は、仮令小規模のものにして、函館気分、乃至北海道に縁故のあるものが嬉しい、……</p>	函新
8月8日	<p>歴史館管見記 得難い珍宝の数々</p> <p>道博函館協賛会の五稜郭歴史館は初日に一寸覗いて見たが開いたばかりで未だ出揃はなかつたので、六日目に見直した和田係長以下の熱心なる努力と鄭重なる説明を詮議する、例に依り目についた主なるものを並べて見れば</p> <p>女神 和蘭から輸入の油絵で女神を画けるもの福山の某素封家の手にあつたもの専門家は画風といひ手法といひ数百年前の物美術上の参考品である和蘭焼の紅毛鉢是も福山からの掘出物であるが古硯武田氏広の交花山院忠長の蝦夷地に差遷された時に用ひたと伝へられ裏に詩文微かに刻まれあり千余年の物三品共河毛支庁長の出品</p> <p>如意 知内村大野重教氏の出品で鎌倉時代禅家の持つたる如意神鈴も同氏の出品で祖先了徳院紀の重一は天久二年に甲斐国より持つて来つたといふ物であるそれから水戸</p> <p>烈公 徳川侯より特に出品の蝦夷地々図で烈公自筆の符箋と朱書あるもので武田信広公の肖像は支庁の出品であるが井伊家の秘蔵にかかるものを複写したるものである</p> <p>石器 では棟方七郎氏の出品で石長刀に住吉町一三八福田彦松の発見になつた土器（壺）は形体尤も完全したもので尻沢辺の掘出し物としては珍らしい優物である、函館師範の苦心出品になつた『蝦夷常用集』は従来に見ざる有要な写本であるのと函館府時代から函館裁判所の</p> <p>古文書 一切堀真五郎の起草になつたもので、是又当時の事情を詳述して居る上磯種田氏の出品松前公の着用した鉄の陣羽織と丸に四ツの武田菱の紋ある函館戦争に著用のマンテルも珍、更に相応しくも昔を語る思ひ出で草は五稜郭本丸の</p>	函新

大正7年

月 日	内 容	新聞
(8月8日)	玄関 に用ひてあつた当時の建物の一部で彫刻を施してあるそれと木三馬四幸と記した榎本武陽子の真筆で森村山加阿部家の蔵である其他に取つて以て珍宝とする歴史上の好参考なる品が沢山ある (■の人)	函新
8月21日	函館の歴史館 道博に伴う異彩 五稜郭内に設けられし歴史館は開館以来日々多数の入場者を見つあるが本日より明治二年榎本武揚等が単独にて七重村近傍の地三百万坪を九十九ヶ年の期限を以て普魯西人ガルトネル氏に貸渡したときの契約書の珍本及明治元年箱館在留の幕軍より政府に交渉の件を仏国公使に依頼せる仏文の書翰の訳文も陳列せることとて出品物に一層の光彩を放ち明日よりは一層の観衆を増すならんと	函新
8月22日	空前絶後の催し 五稜郭の歴史館 昨今は、旧暦の盂蘭盆とて近在の人出多く開館前より続々として昨日は入場者七百人の多数に上れりと観覧者は殊に函館戦争に関する遺物に興味を持ち見る者悉く感に打たれて冥想暫時懐旧の情に耐えざる者もありて同館開設の如きは恐らく空前絶後の催したるべきを以て此の期を逸せず一覽するは蓋し何人も望む所たるべし	函新
8月24日	歴史館より 昨二十三日午後よりは天気恢復せることとして人足繁く茨城、富山、石川、秋田日本鉱業会会員諸氏の視察ありて賑へりと本日の出品中には榎本武揚が獄中の感を記せるものは牢屋に筆墨を備へず時に菓子折の紺紙を水に浸し小揚子を以て清廉の志を述べしものなり	函新
	懐旧館に寄附 五稜郭内片上楽天翁等の経営する懐旧館は近来内部整頓し頗る好評を博し居れるが同翁及び北島、村上氏等の企挙にて郭内の幕軍戦歿者梶原雄之助、春日左衛門外数勇士の英霊を吊慰する為め大法要を営み施餼鬼を為すべき美挙に賛同を表し代議士佐々木平次郎氏は金五円を寄附したる外続々寄進するものありと因に遺族其他の関係者もあれば余興を添へ道博を記念として趣向を凝らさんと寄々協議中なりと	函新
	我軍の成功 歴史館内に見たる珍書 道博の開催中と共に、我が函館の設備として、頗る小規模ではあるが、その思ひ附きの当を得た事は、内地よりの外来者を驚かしたもので、開館以来日々六七百の入場者を見つある館内に珍とすべきものは多々あるが、明治元年箱館在留の幕軍より、時の政府に交渉の件を仏国公使に依頼した書翰の訳文がある、其起草者は田島応親氏である曰く 吾人は茲に蝦夷島の実権を得て之を統括するに至りたる事実を閣下に公達するの光榮を有し候、十二月初旬僅に三日にして函館郡部を占領するに至りたる我が軍の成功は列国使臣に對し是等事実を証して余ありと思惟致候尚同月下旬に於ける我が松前郡に對する第二次成功は前日の敗を償ひ 松前侯が吾人と共同すべく肯んぜずして遁逃せる為蝦夷全島の實驗を握るに至り候然るに數週前當港に仏国及英國軍艦の入港するあり各司令官及領事より吾人とミカド朝廷との間に存在する誤解に就き調査せん事を申出られ候是が為吾人が 陛下に對し上申せんとする如く朝廷と吾人との間の誤解の一掃は最も真摯なる態度を以て審議し以て国内の平和を誘致すべきは我が國民に對する急務たるを以て明白に吾人が為したる事実及希望を披瀝し吾人が取りたる手段の自然にして正当なる事を閣下に公報するものに候茲に閣下の御同情を仰ぎ尚之に對する交換条件として吾人は蝦夷に於ける諸外人の満足せしむるに足るべき方法を執る事を明言致候云々	函新
8月29日	異人斬 独逸の領事を斬つた秋田藩士 開拓使から出た古い判決文 道博記念として五稜郭内の歴史館と云ふものが出来て戊辰戦役や本道開拓に関する珍品が頗る多く陳列されて居るので内外人の人々に多大の興味を以て迎へられて居るが此頃明治七年函館に在つた異人斬りと云ふのが未だ人々の記憶に新しからうがソノ判決文を所持して居る人があつて臆て岡田図書館主事の手に入つたと 夫れはと云ふと明治七年十月一日のこと秋田藩の老士族で田崎秀親といふは大の異人嫌ひで外人を見ると「毛唐」呼はりをして居た頑固一点張りの爺だつたが態々郷里から出て来て時の函館駐劄独逸領事ファーバ氏を一刀の下に斬殺した 其墓は今も山背泊にあるが折柄入港の独逸軍艦は下手人を渡せばよし渡さない時は砲撃すると威嚇したので時の開拓使長官は田崎を首にして而して塩漬の假渡したさうだその時の申渡書が支庁の払下げた古文書の中から出たとは珍しいものである。 秋田県貴属士族 田崎秀親 其方儀年日従事する所の皇学類廢子至る必竟外国との和親に基くと頑愚の心より一凶に存し込寧ろ洋人を斬害し素志を果さんと郷里出奔箱館表に至り同所谷地願に於て独乙国領事勳方ファーバ氏に邂逅し忽ち抜刀追遂して兇殺せし段甚以て不肖の儀に付破廉恥甚しきを以て人命律謀殺條に照らし除族の上斬罪申付候事	函新
9月20日	歴史館の閉館 五稜郭内歴史館は十九日午後三時限り閉館し其後は学校生徒にのみ観覽せしめつつあるが、愈明二十一日限り全部閉鎖して其後は整理の上夫々出陳者へ還附の手續きをなす事となりたり	函新
	珍本謄写不能 歴史館の出陳物 過日の道博函館協賛会常議員会にて委員の慰勞会等は之れを見合せ歴史館出陳の目録並に珍本を謄写印刷して記念の爲め配附する事に決定したる由は既記したるが其後時日も迫れる今日到底不能事たる事判明せ	函新

市立函館博物館友の会：市立函館博物館新聞記事目録

大正7年

月 日	内 容	新聞
(9月20日)	るも以て本日午後再び常議員会を開き和田主任委員より此旨報告あり其結果或は出陳物目録をヨリ以上に完全のものとし或程度まで其内容を窺ふに足るものたらしめ印刷配附する事に変更されん模様なりし	(函新)

大正9年

月 日	内 容	新聞
12月15日	<p>博物館本引受 函館教育会 トラピスト修道院所蔵の博物館本引受の件に付昨十四日午後六時より函館教育会評議員会主事会を区役所に開きたるが主席者 齊藤会長、小田副会長、林、西村、岡田、羽田、宗像、松田、佐々木、佐藤（政）、佐藤（タケ）（以上評議員）田中館、金子、佐藤、藤沢、福井（以上主事） の諸氏にて協議の結果函館教育会にて之を引受け函館図書館に陳列するに決したるが引受に関する費用は追つて寄附に仰ぐことに決し岡田健蔵、西村彦次郎、湯本倉之助、藤沢誠太、佐藤市弥の五氏を委員に挙げたりと</p>	函新

大正11年

月 日	内 容	新聞
5月10日	<p>図書館に博物の展覧 今日を封切りに、五階建ての楼上には修道院から教育会に寄附されたものや、故小田桐氏の蒐集したアイヌの器物や、又た馬場修氏等の石器と云ふ考古学上の資料、地質学上の資料の陳列したものの中に、第一紀層などは、我国でも稀に見るものがあるので、朝来参観者が続々として詰かけた、ソシテ本館の一室に仏国人ジャンポール、アオル氏の筆に成つた日本の錦絵には驚くべき逸品がある、夫れに伴ふ錦絵の種類は、いづれも垂涎に値すべきもの斗りだ [写真]図書館の錦絵 博物館本（十日より三日間展覧会の開催中）</p>	函新
6月15日	<p>十年記念と桜の公園 …左様だそうで、僅々十年間に豪い御発展で、私も改題以来の愛読者の一人にて、十年一日の如き■奮闘による成功の賜もの、お祝ひをいたします、…何んですつて、私にその十年記念に因む公園の話をしると、困りましたなア、四十余年時の記憶を辿るので…』と語る ……今でこそ公園内の建物が第一第二と、水産陳列館になつて居るが、最初は函館博物館と云ふもので、夫れもやはり明治十年に設立の議が起り、公園の開設と共に博物館が出来たのだが、公園の主唱者は英国人で館が出来て後、区内在住の英国人トーマス、ブライキストーンが、剥製の鳥類二百余种一千三百三十八羽を寄贈して、館内を飾つてくれたのであつた、……</p>	函新
7月8日	<p>雨の公園に一時間 学校生徒の運動に興せられ高齢者感涙に咽ぶ 要塞司令部より函館公園に御着あらせられたるは午後四時五分にして御予定より約十分間早かりし、公園広場の両側に高女生徒、小学校児童整列せる中央を自動車にて御野立所前まで進ませられて御降車あらせられ宮尾道庁長官の御先導にて御野立所に入らせらる、……彈奏を合図に小学校女児は手に手に花を携へ来りて女子小学校訓導松田タツ子の指揮にて二重円陣を作り花の団欒と名づくる遊戯を台覧に供し、続いて加瀬谷函館師範学校訓導遊ばされず御熱心に御覧あらせらる、運動終るや宮尾長官、西岡区長の御先導にて白川橋を御徒歩にてお渡り第一水産陳列場に成らせられ館内隈なく御熱心に御巡覧あらせられたり、此頃より再び雨降り頻る間を更に……第二水産陳列場傍のお野立所に入らせられ、津軽海峡方面を御展望遊ばされたるも視界甚だ狭かりしは甚だ遺憾なりき、此時渡辺要塞司令官に何か御下問あらせられ同司令官奉答する所ありたり、少時にして第二水産陳列場に入らせられ此所にて御熱心に御巡覧あらせられ終つて……</p> <p>[写真]公園内第一水産陳列場</p>	函新
7月9日	<p>殿下の御動静に就て 戸田東宮主事謹みて語る 一々御下問御感に入り 恐縮の外なし 戸田東宮職事務官は本日午前九時公会堂に於て扈從記者に殿下の御動静に就き語るらく…… 水族館に成らせられてよりは平常自然に対する御趣味と御研究あるより御熱心に御覧遊ばされたるが中に八角、蝶鮫等の珍魚あり是等に対し一々御下問あり、水産等に対する御興味のほども推知申上ぐるを得たり…… 近藤重蔵より古川古松軒に送れる手束に対しても是又一々御下問あらせられたるが歴史的御研究に造詣深く殊に故事に御精通あらせらるるは恐懼の外なく五稜郭の城将榎本武揚氏がものせる例の森町山加阿部旅館秘蔵に係る木三馬四幸の筆蹟は今も存し居るやの御下問ありたるには頗る恐縮せり……</p>	函新
7月12日	<p>[写真]御手植と第二水産陳列場</p>	函新
8月2日	<p>水産研究 英国大使来函 本邦駐割の英国大使オリエツト博士は本道視察の為め今夜九時十五分入港の連絡船で着函すべく同大使は元町領事館に泊し明三日は公園内の水産陳列場、博物館、五稜郭等を視察すと大使は博物特に水産に興味を持ち研究しあり本邦の水産に対しても造詣深しと</p>	函新

大正12年

月 日	内 容	新聞
5月9日	記念館を 新に史実を蒐めて 五稜郭に特設 五稜郭の桜花も年々いい花を見られるやうになつたが予て行脚に藜の杖を曳いて各地に講演して居た片上楽天翁は此程帰つたが懐旧館内を改善し新に第一休憩所は参考品第二は新聞雑誌縦覧所、第三は史談室とし戦歿勇士の写真、遺墨、遺物並に箱館戦役関係記録を陳列し史実研究家の参考に供することとなつたが中に市内東浜町故丸和回漕店主和田惟一翁が乗込んだ幕艦美加保丸の銚子沖にて沈没したその破片等を当年を偲ぶに足る多々あり本年よりは郭内売茶店も生蕎麦、西洋料理もあり坪山市主事、北嶋監守等の尽力にて電車停留場より濠迄両側に桜樹数百本を植えつけたといへば此処両三日にて満開となるべく爛漫たる樹下の古城址に勇士の魂を訪ふべく散策の人出多しと新に陳列したる史実関係のものは下の数点にて実に史家の垂涎措かざるものなりと 黒田参謀進軍準備命令書、薩摩藩恩給証書、島津公海依頼状、恒吉小隊長の宿舍割通達書、大島陸軍奉公並に人見遊撃隊長の吟懐	新聞 函新
8月2日	五稜郭と武揚の詩 因■朦朧登翠微、子規声裏雨霏々、乾坤回首春如夢、頓見人間萬緑肥。 武揚 ーソシテ『浪聞就囚赴東京途中』とあつて、全紙大幅ものが五稜郭内懐旧館記念室に陳列されてある、云ふまでもなく釜次郎さんとうたはれた、榎本武揚將軍の筆である。 貴族院議員の一行が一日正午の連絡船で来た。五島軒に於ける昼食後市中を見て、夫れから五稜郭へ赴いた。同一行中には故武揚氏の息武憲子爵も見えた、子は幾度か来道されたが、始めての人もあらう五稜郭に立寄ると、不図氏の大幅ものがあつて、武憲氏に取つては感慨無量のものであつたに相違ない。ソコで懐旧館の主人片上楽天翁は語る『此の書は浪聞で認め、夫れが盛岡の富豪藤嶋勘次郎翁の手に移つたのを、藤嶋家とは親戚と云ふ市内松風町二六二川端亀次郎氏が受け、無二の珍宝として所有せられ居るものである。話は箱館戦争のあつた明治二年にさかのぼり……斯く語り終つて同戦争に縁故浅からざる楽天翁は、貴族院議員中に武憲子を迎へたのを喜び、臆て赴かる榎太も故人とは縁故があるのだと、一行を見送つた	函新

- ・「函館新聞」は「函新」、「函館日日新聞」は「函日」とした。
- ・旧字、異体字は基本的に新字に改めた。
- ・内容は適宜省略し、「……」とした。本文中の「……」は、「…」とした。
- ・判読不能な文字は、「■」とした。
- ・記号（○、△、◇等）は適宜省略した。文中の一部は「、」とした
- ・印字が無い部分はそのまま表記し、前後から推定できる文字を〈 〉内に記した。
- ・記事が頁をまたぐ場合は、（ ）で月日、新聞名を付した。

市立函館博物館 研究紀要 第14号

2004年3月31日 発行

編集・発行 市立函館博物館
〒041-0044 函館市青柳町17-1(函館公園内)
TEL 0138-23-5480 FAX 0138-23-0831

印刷 有久保内印刷所
〒040-0065 函館市豊川町7-26
TEL 0138-22-2678 FAX 0138-22-6742

BULLETIN
OF
HAKODATE CITY MUSEUM

No.14

Preface

SHOJI KAWASHIMA :

Torao Moritake and three world-famous phycologists :
How did T.Moritake study "Marine algae of Hakodate Bay".

YOSHINOBU TAHARA : Rethinking of

Shinori old coins and large jars and Shinoridate remains.

HAKODATE CITY MUSEUM FRIENDSHIP ASSOCIATION :

A list of newspaper articles in relation to Hakodate city museum.

- Report on an activity of collecting data. -

2004

Publisher : Hakodate City Museum

17-1, Aoyagi-cho, Hakodate, Hokkaido, Japan 040-0044

Phone 0138-23-5480 Fax. 0138-23-0831